

服飾藝術科
專門教育科目

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：必修
担当教員			
服飾芸術科専任教員			
ナンバリング：F31A01			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	2年間の学修成果をディプロマポリシーに基づいて振り返り、履修モデルに即したテーマを設定し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーション資料の制作過程におけるデータ収集、データ整理、考察、内容の構成、さらに発表における効果的な伝え方や見せ方のスキルを身につける。 (授業目標) ◎C：プレゼンテーションのテーマにふさわしい内容を構成することで、思考力および判断力を修得する。 ○D：ディプロマポリシーに基づき、自分自身の2年間の学びを理解し、身につけた知識を的確に説明できる。
授業計画	1 学長講演、避難訓練（服飾芸術科専任教員） 学長講演、避難訓練 2 本ゼミナールの概要、制作（1）（服飾芸術科専任教員） 研究計画の概要、資料収集およびプレゼンテーションの手法について 3 制作（2）（服飾芸術科専任教員） 研究テーマと概要、調査方法、制作方法等をまとめる 4 制作（3）（服飾芸術科専任教員） 資料収集およびプレゼンテーションの個別指導 5 制作（4）（服飾芸術科専任教員） 資料作成およびプレゼンテーションの個別指導 6 プレゼンテーション（1）（服飾芸術科専任教員） クラス別による発表、意見交換、評価 7 PROGテストの実施 PROGテストの実施 8 プレゼンテーション（2）（服飾芸術科専任教員） クラス別による発表、意見交換、評価 9 「生涯の学び」（菊池桃子客員教授） キャリア形成に必要な考え方について 10 プレゼンテーション（3）（服飾芸術科専任教員） クラス別による発表、意見交換、評価 11 プレゼンテーション（4）（服飾芸術科専任教員） クラス別による発表、意見交換、評価 12 プレゼンテーション（5）（服飾芸術科専任教員） クラス別による発表、意見交換、評価 13 プレゼンテーション（6）（服飾芸術科専任教員） クラス代表者による合同発表、「卒業後の生き方について」講義 14 PROGテストの解説 PROGテストの解説 15 2年間の学びの振り返り（服飾芸術科専任教員） 2年間の学びを振り返る
学習成果・到達目標・基準	◎C：プレゼンテーションのテーマに沿った構成を思考し、説明できる。 ○D：自分自身が2年間で身につけた知識を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：設定したテーマを表現するにあたり、どのような手法がふさわしいかを考えること（25分）。 事後学習：進捗過程に合わせて教員に指導を仰ぎ、友人と意見交換を行いながら修正を行うこと（20分）。
指導方法	2年間の学修成果のまとめ方を指導する。研究内容やプレゼンテーション方法について、個別もしくはグループでの指導を行う。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③採点（評価）返却、④授業後における採点について質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：プレゼンテーションの資料や発表方法を評価する。 ○D：プレゼンテーション内容が的確か評価する。 課題 70%、授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし

参考書	適宜、指示する
履修上の注意	2年間における学修成果の達成状況を確認するゼミである。日頃から他の履修科目を主体的な態度で学び、図書館の文献、マスメディアの情報、店舗等における実態調査、映画、舞台芸術、美術館等を活用することが大切である。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F11A02	オンデマンド授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	衣服を考える時、自然環境や歴史、習慣や職業、着心地やファッションセンスなど、様々な条件が挙げられる。その基本は、個々の人体に対する快適な衣環境として、素材・デザイン・縫製等が不可欠であり、体型に適合した衣服を着用することは、快適な衣生活の条件と考えられる。 衣服の起源から既製衣料までを大きく「環境」「人体」「生産」「消費」の項目に分けて学修する。 (授業目標) ◎D：着衣基体である人体構造と素材、デザイン、パターン設計の関係について理解できる。
授業計画	<p>1 衣服の起源と推移 (Classroom) 衣服の起源、衣服の機能、生活様式の影響</p> <p>2 衣服と環境 (1) (Classroom) 立体構成服と平面構成服</p> <p>3 衣服と環境 (2) (Classroom) 日本の伝統衣裳、和服の形態的特徴</p> <p>4 衣服と環境 (3) (Classroom) 和服の基礎知識</p> <p>5 衣服と人体 (1) (Classroom) 日常生活における動作と衣服圧</p> <p>6 衣服と人体 (2) (Classroom) 人体計測</p> <p>7 衣服と人体 (3) (Classroom) 衣服の美的因子と身体因子</p> <p>8 衣服と人体 (4) (Classroom) シルエット とディテール</p> <p>9 衣服と生産 (1) (Classroom) 素材と造形性能</p> <p>10 衣服と生産 (2) (Classroom) 注文服の製造工程</p> <p>11 衣服と生産 (3) (Classroom) 既製服の製造工程</p> <p>12 衣服と生産 (4) (Classroom) 衣服の種類とサイズ表示</p> <p>13 衣服と生産 (5) (Classroom) パターン設計におけるゆとり</p> <p>14 衣服と消費 (1) (Classroom) 既製服衣料の選択と購入</p> <p>15 衣服と消費 (2) (Classroom) 衣生活と環境、着装の工夫</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：体型分類、寸法、布地の扱い方について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：授業計画のテーマについて検索し、知識を得ておくこと (90分)。 事後学習：人体と衣服の関係性を多面的に捉え、実証できるように、知識と技術の理解を深め復習をしておくこと (90分)。
指導方法	Classroomを使用したオンデマンド授業である。 テーマに沿ってパワーポイントや映像を使用し、衣服に対しての基礎的な知識や情報を理解できるように指導する。 Classroomから毎回動画を配信し、課題の提出により出席とする。 フィードバックの仕方：課題については、直接個別対応する。 オンデマンド授業における質疑応答の方法：授業後、メールで個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、授業内小テスト、授業への貢献度、課題を評価する。 定期試験50%、小テスト20%、授業への貢献度20%、課題10%

テキスト	なし 適宜プリント資料を配布
参考書	『文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎 文化服装学院編』：笠井フジノ, 他6名, 文化出版局 『アパレル構成学 着やすさと美しさを求めて』：富田明美, 株式会社朝倉書店
履修上の注意	衣服製作を行うための基礎となる理論を学修する。日頃着用する衣服がどのような構造によってできているのか、また着心地に関して考えること。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：必修
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F11A03	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ブランドを経営する上で商品以外にも関わるデザインは多い。平面的なデザインに重点を置き、なぜそれが多くの人の心を動かしたのか、相手にどのように表現すれば、商品が伝わるのかを考えられるビジネス的なデザイン思考を学ぶ。また、多様化の時代に多くの人が美しいと感じる普遍的なものを学び、新しい提案につなげる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>広がるファッションの分野で様々な活かせるデザイン思考を学び、実践に活かせる力を身につける。</p> <p>◎C：ブランドや商品を研究しコンセプトやターゲットに合うデザインを考えることができる。</p> <p>○D：商品をより良く伝えるデザインを論理的に導くことができる。</p>
授業計画	<p>1 デザインとアート 様々なデザインやアートに触れ、デザイン思考とアート思考を学び考察する</p> <p>2 時代とデザイン 時代と共に変わるデザインやアートを知る 流行にとらわれず、社会を知ること、生まれるデザインを考える</p> <p>3 デザインの分野（プロダクトデザイン・スペースデザイン） 様々なデザインの種類を学び 身の回りに溢れるデザインを見つけ分析する</p> <p>4 デザインの種類（コミュニケーションデザイン） 様々なデザインの種類を学び 身の回りに溢れるデザインを見つけ分析する</p> <p>5 ビジュアルアイデンティティー ブランドとお客様のコミュニケーション ブランディングに関わるデザイン</p> <p>6 ロゴデザイン・フォント ロゴの持つ役割とストーリー</p> <p>7 コーポレートカラー&ブランドカラー・デザインエレメント 色の作用やデザインのパーツによりブランディングを強化する</p> <p>8 パッケージ・紙袋 購入した人が街を歩くことで広告にもなってくれるデザインを知る</p> <p>9 制服・店舗・その他広告 空間や働く人の世界観をデザインする。また、ムービーやSNSなど様々な広告に関するデザイン</p> <p>10 美の法則（統一・調和） 人が美しいと感じる法則を学び、具体的な活用例を知る</p> <p>11 美の法則（リズム・バランス・プロポーション） 人が美しいと感じる法則を学び、具体的な活用例を知る</p> <p>12 ブランドイメージを保ちつつ新製品にまつわるデザイン提案 商品開発と共に繰り返されるマーケティングと販売促進の為のデザイン</p> <p>13 POP・キャッチコピー POPの種類・場所に合わせた活用方法・コンセプトに応じたレイアウト・制作</p> <p>14 錯視 様々な目の錯覚を学び、デザインの取り入れ方や 法則・数値にとらわれすぎない感覚を養う</p> <p>15 時代と共に変わる企業とデザイン コロナ禍で様々な変化が起こり、ブランドにも変化が起こっている ブランド変化に伴うデザインの変化とこれからの考察する</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：コンセプトに沿ったデザインができる。 ○D：身の回りにあるデザインを知り、デザインとブランド経営の関係を知る。
事前・事後学習	事前学習：ファッションに限らず様々なデザインに目を向ける。雑誌・広告・パッケージデザインを見て商品の何を伝えたいのか推測する。課題に備え、ECサイトなどで良いと感じた平面的デザインをスクラップしておく（120分）。 事後学習：講義内容を踏まえ、身近な店で購入に至るまでに触れ合ったデザインを分析する（60分）
指導方法	パワーポイントなどの視覚媒体を多用し、視覚で感じながら解説を行う。 授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出、及び小テストのいずれかがある。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：レポート課題、リアクションペーパー D：定期試験 定期試験50%、課題40%、授業態度および貢献度10%
テキスト	なし 適宜プリント配布。
参考書	
履修上の注意	街頭や雑誌などの広告など様々なデザインに目を向け、感じたことや傾向を記録しておく。 世相やブランドの動向に興味を持つ。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク・ディスカッション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：必修
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F21A04	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	自身のキャリアビジョンを描くには、企業での生き方や働き方が深く関わってくる。顧客への対応、上司と部下、同僚との関係構築、取引先との折衝など、全ての場面でビジネスにおけるコミュニケーションスキルの必要性は高まっており、企業から必要とされる人材になるには、独自の強みや成果を上げるための力を持たなければならない。本講義は、ビジネスで円滑な人間関係を構築するための手法を知り理解することを目的に、主にファッション業界で働くうえで必要とされるビジネスマナーやビジネス知識、仕事術を修得する。 (授業目標) ◎C：自分自身の現状を分析し、成果を出す方法を知る。
授業計画	<p>1 ビジネスキャリアとは 本講義の概要、ステップアップをするキャリアビジョンについて</p> <p>2 キャリアプランとは 理想像・自分比較・到達手段・中間目標について</p> <p>3 キャリアプラン作成 キャリアや自己の武器を分析し未来に向けたシナリオを作成</p> <p>4 企業と組織 ファッション業界の企業と組織</p> <p>5 企業研究・キャリアアッププラン ファッション業界でのキャリアアップについて、企業研究・IR資料の読み方</p> <p>6 ノンバーバルコミュニケーション ノンバーバルコミュニケーションとビジネスコミュニケーションについて</p> <p>7 職場でのコミュニケーション 挨拶の効果、依頼・断る・謝罪、好かれる力、反省力、巻き込み力</p> <p>8 職場でのプレゼンテーション アイデアと企画・ターゲットについて・企画書作成</p> <p>9 ビジネス知識・ビジネスマナー ファッション業界のワード、一般的なビジネスマナー</p> <p>10 仕事術・PDCAサイクル 仕事の方法、手順と優先順位、PDCAサイクル作成</p> <p>11 ビジネスフレームワーク PDCA以外のビジネスフレームワーク</p> <p>12 情報分析力 仕事に役立つ分析力、顧客分析力</p> <p>13 ワークライフバランス ワークライフバランス、女性のキャリア開発、ブラック企業問題、ダイバーシティ経営</p> <p>14 ターゲット分析・自己のSWOT分析 コーチングで使用するターゲット別攻略法、SWOT分析</p> <p>15 ペルソナ像設定とプロファイリング ペルソナ像設定、プロファイリングについて</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：成果を出すために役立つ枠組みについてを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日経MJ、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、アエラそしてビジネスサイトに目をとおし、最新のビジネス情報を得る。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（60分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（120分）。
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。 授業内PC使用（Word、PowerPoint）
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：リアクションペーパー、定期試験を評価する。 定期試験60%、課題25%、授業態度・貢献度15%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。

参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどで最新のビジネスに関する情報を得ておくこと。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F11C05	オンデマンド授業	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	色彩について物理科学的側面、生理・心理的側面、文化的側面から基本知識を修得する。日常生活のなかにある実例をあげながら、色が見えるしくみ、色名、色の心理効果、配色方法、ファッションの色彩、インテリアの色彩などについて順序立てて学ぶ。色彩検定受験者には検定対策の参考となるように、問題集も活用する。 (授業目標) 色の3属性(色相・明度・彩度)のしくみについて確実に理解する。 ◎D：色のしくみを順序立てて理解し、色の3属性で説明することができる。 ○E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図を描くことができる。
授業計画	1 色のはたらき 色と心地よさ、色とイメージ、色とアピール 色と区別、色と見やすさの調節 色と統一感、色と象徴 2 色はなぜみえるか (Classroom) 光とは何だろう 光の性質と色 3 眼のしくみ (Classroom) 色を見る眼のしくみ 網膜における光の処理 照明と色の見え方 4 混色とは何か (Classroom) 加法混色 減法混色 混色を応用した身近な例 5 色の3属性 (Classroom) 色の分類 色の3属性 等色相面、純色、清色、中間色 色立体、表色系 6 PCCS (Classroom) 色相、明度、彩度 3属性による色の表示 色相環、トーン 7 慣用色名 (Classroom) 系統色名、JIS慣用色名 和式名 外来色名 8 色の心理効果 (Classroom) 色の連想と象徴 残像、対比、同化、面積効果 9 配色イメージ (Classroom) 色相と配色イメージ 明度と配色イメージ 彩度と配色イメージ トーンと配色イメージ 10 色彩調和① (Classroom) 色相を手がかりにした配色 トーンを手がかりにした配色 色相とトーンを組み合わせた配色 11 色彩調和② (Classroom) アクセントカラー セパレーション グラデーション 12 ファッションと色彩(Classroom) トップとボトム 色相を主体としたカラーコーディネート トーンを主体としたカラーコーディネート 色相とトーンを組み合わせたカラーコーディネート パーソナルカラー診断 13 インテリアと色彩 (Classroom) インテリアデザイン

	<p>14 インテリアのカラーコーディネート インテリアにおける色の心理的効果 色と文化(Classroom) 色と時代、流行色のしくみ 色と文学 色と食文化 色と音楽</p> <p>15 色と世界 (Classroom) 世界の国の象徴色、国旗 フランスの四季の配色</p>
学習成果・到達目標・基準	色相、明度、彩度という色の3属性の意味を理解すること。色名を覚え、色彩心理を活かした配色調和を自由に行える基礎知識を身につける。 ◎D：色相、明度、彩度について説明ができる。 ○E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図の基本を描くことができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に相当するテキストを読み、項目ごとにレポートとしてまとめる（90分）。 事後学習：授業中に行った練習問題を見直し、相当するテキストと並行して理解を深める（90分）。
指導方法	色とはなにかという身近な疑問を明らかにするために、毎回配色カードを使用し視覚的な訓練を大切にする。順序立てて色のしくみが理解でき、色による心理作用を効果的に活用できる基盤を養うことをめざして指導する。 色彩検定受験者には検定対策に直結するように、問題集をテキストとして活用する。 パワーポイントを使用し、生活の中での実例を紹介するなどわかりやすい工夫を行う。 classroomで課題を配信し、提出を求める。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 E：小テストを評価する。 定期試験50%、小テスト20%、授業態度・貢献度30%
テキスト	「文部科学省後援 色彩検定 改訂版公式テキスト3級」（色彩検定協会） 「文部科学省後援 色彩検定2・3級問題集」A・F・T最新テキスト対応（新星出版） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社） 「新配色カード199用演習台紙」（日本色研事業株式会社）
参考書	「文部科学省後援 色彩検定 改訂版公式テキスト2級」（色彩検定協会）
履修上の注意	毎回、テキスト、新配色カード199a、はさみとのりを各自持参する。 新配色カードを常に持ち歩き、カラーサンプルと色名を対応させる習慣をつける。 身の回りの色彩に興味を持ち、授業で学ぶ知識との関連を心掛ける。 1年後期「カラーコーディネート演習」、2年前期「トータルコーディネート演習」は、本科目を単位修得済であることが履修の条件となる。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F21C06	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「カラーコーディネート論」で学んだ色彩の基礎知識を生かし、パーソナルカラー診断の基礎を学ぶ。さらに身近なものを通して実践的に配色調和の方法を身につけるために、アーティフィシャルフラワーによるフラワーコーディネート製作を行い、めざすイメージやTPOをふまえた配色技法を体験する。アロマセラピーのエッセンシャルオイルを用い、色と香りの関係を学び五感と色彩について理解を深める。 (授業目標) 色彩調和の原則を理解し、目的や場面に合う魅力的な配色ができるようになる。 ◎E：目的や場面に応じ、主な配色技法を用いてフラワーコーディネート制作ができる。 ◎C：パーソナルカラー診断の基本的しくみを理解し、自分自身のベストカラーを導き出せる。
授業計画	1 パーソナルカラー3級 序章、1章 序章：色彩活用としてのパーソナルカラー 1章：パーソナルカラーの基本 2 パーソナルカラー3級 2章 色のイメージを豊かにする 3 パーソナルカラー3級 3章 似合う色の基準を知る 4 パーソナルカラー3級 4章・5章 似合う色を客観的に探す ドレーピング方法 5 パーソナルカラー3級 5章 パーソナルカラー診断 6 パーソナルカラー3級 5章 診断結果まとめ 7 パーソナルカラー3級 6章 似合う色を取り入れる 8 同系色と反対色の確認 色相差による配色 同系色、反対色 イメージによる配色 9 同系色のブーケ①花選び 花と葉を選ぶ 色相・トーン表に記入 10 同系色のブーケ②制作 ワイヤリング、テーピング 11 同系色のブーケ③仕上げ、完成、提出 持ち手のステムの処理、リボン仕上げ、撮影、エッセンシャルオイル 12 反対色のブーケ①花選び 花と葉を選ぶ 色相・トーン表に記入 13 反対色のブーケ②制作 ワイヤリング、テーピング 14 反対色のブーケ③仕上げ、完成、提出 持ち手のステムの処理、リボン仕上げ、撮影、エッセンシャルオイル 15 ブーケ発表 1人2分間パワーポイントによるプレゼンテーション 色相差の効果 配色イメージ
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本的な配色技法を用いてフラワーコーディネート制作ができる。 ◎C：パーソナルカラー診断の基本的しくみを理解できる。
事前・事後学習	事前学習：テキストによる配色技法のトレーニング、課題の準備に取り組む(20分)。 事後学習：テキストの理解不足の部分を復習し、課題の不足を補う(25分)。
指導方法	講義は、パワーポイントを適宜使用する。 フラワーコーディネート制作は、パワーポイント資料を各自印刷して参考にする。 フィードバックの方法：提出された課題に対して教員から項目ごとの評価を伝える。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎E：課題制作の完成度を評価する。 課題制作50%、小テスト20%、授業態度・授業貢献度30%
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」 「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」 *「新配色カード199a」（日本色研事業） *は、1年前期に購入したものが使えれば継続使用できる。
参考書	「はじめてのインテリアブーケ」渡辺俊治監修（株式会社KADOKAWA） 「アーティフィシャルフラワー基本テクニック2 イメージを伝える 花合わせ色合わせのコツ」渡辺俊治（六耀舎）
履修上の注意	①前期「カラーコーディネート論」を単位修得済みであることが履修の条件である。 ②授業時にテキスト、問題集、「新配色カード199a」、「新配色カード199用演習台紙」を各自持参する。 ③グループワークでは、マウスシールドを使用する予定である。
アクティブ・ラー ニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
原田弘美			
ナンバリング：F11C07			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	西洋における服飾の変遷を時代背景とともに解説する。 衣服の起源と役割、及び古代から近代までの時代様式の特徴と服飾の関連性を解説する。20世紀以降は各年代の代表的なファッションデザイナーとその作品を紹介し、過去の装いと現代ファッションとの共通点・相違点を探る。毎回、講義のテーマに合わせた映画やコレクション映像、服飾のスライドを使用し視覚的にも理解を深める。 (授業目標) 各時代様式と服飾の特徴を関連づけ、服飾の観点から西洋の歴史を読み取る力を身に付ける。 ◎D：時代背景を考察し、服飾の特徴から各時代を読み取る力を修得する。
授業計画	<p>1 衣服の起源 衣服の起源と衣服の役割</p> <p>2 古代の服飾（1） 古代エジプトの装飾モチーフと衣服</p> <p>3 古代の服飾（2） 古代ギリシャの服飾 古代ローマの服飾</p> <p>4 中世の服飾 [課題Ⅰ Google Classroomを活用] キリスト教文化とビザンティンの服飾の関連性 ゴシック建築と服飾の関連性</p> <p>5 近世の服飾（1） ルネサンス芸術と服飾の関連性</p> <p>6 近世の服飾（2） 17世紀バロックのオランダモードとフランスモード</p> <p>7 近世の服飾（3） 18世紀ロココの華やかなフランス宮廷モード</p> <p>8 近代の服飾（1） 19世紀初頭新古典主義とナポレオン1世時代の服飾</p> <p>9 近代の服飾（2） 19世紀女性服のシルエットの変化 パリオートクチュールの誕生</p> <p>10 近代の服飾（3） [課題Ⅱ Google Classroomを活用] 19世紀末アール・ヌーボー様式の特徴と服飾</p> <p>11 20世紀初頭のファッション 女性のコルセットからの解放</p> <p>12 1920年代のファッション アール・デコ様式の特徴と服飾 ガブリエル・シャネルの活躍</p> <p>13 1940年代～1950年代のファッション クリスチャン・ディオールの登場と第二次世界大戦後のパリモード</p> <p>14 1960年代のファッション [課題Ⅲ Google Classroomを活用] ロンドンファッションとミニスカートの流行</p> <p>15 1970年代～2000年代のファッション オートクチュールからプレタポルテへ 多様化する現代ファッション</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：近代以前の服飾と現代の服飾の特徴が区別できる。
事前・事後学習	事前学習：シラバスを参考に次回の授業内容を確認し、教科書の該当する部分を読んでおく。(30分程度) 授業を理解しやすくするために、世界史、美術史など各時代の知識を得ておく。(30分程度) 事後学習：講義で学んだ内容をノートを見直しまとめておく。代表的な服飾はノートにイラストを描いて覚えるのもよい。特に課題演習の前には課題の範囲を自主学習しておく。(60分程度) 出題された課題に取り組む。(90分程度) 講義で紹介した画家やデザイナーについて調べ更に知識を増やす。(30分程度) 講義で使用した映画をDVDやビデオ配信などで全編鑑賞し理解を深める。 講義で紹介した展覧会に出向き実物を鑑賞し知識を増やす。
指導方法	毎回パワーポイントを使用し、画像と映像（DVD）を多用しながら視覚的に理解しやすいよう講義を進める。

	時代区分ごとにGoogle Classroomを活用し課題演習を実施する。 フィードバックの方法：課題提出後、解答を返却。返却後におけるコメントへの個別質疑対応。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	各時代の時代背景と服飾との関連性が理解できているかを評価する。 D：定期試験と提出課題を評価する。 定期試験50%、課題30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑩「改訂版・西洋服装史」文化出版局
参考書	
履修上の注意	課題やレポート提出が追加されることもある。 授業中の撮影は禁止。
アクティブ・ラー ニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
平本貴子			
ナンバリング：F11C08			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	日本の民族衣装である「きもの」について、基礎的な知識を学ぶ。現代のスタイルへと変化していった歴史や「きもの」に不可欠な伝統文様、伝統色、家紋、染織技術について解説していく。また、「節目のきもの」や目的に合わせた「きもの」の選び方について理解を深める。 (授業目標) きものに関する一般的な基礎知識を修得する。 ◎D：普段着から礼装まで、目的にあった「きもの」を理解し説明できる。
授業計画	<p>1 日本のきものとは 授業概要 きものとは</p> <p>2 きもの歴史（1） 古代～中世：きもの原形が成立する流れ 宮廷文化と武家文化における特徴</p> <p>3 きもの歴史（2） 近世：江戸町人文化から生まれたアイテムや流行</p> <p>4 きもの歴史（3） 近代：服飾の西洋化ときもの</p> <p>5 きもの模様 伝統的な文様について</p> <p>6 紋／日本の色 きものと紋の関係／日本の伝統色について</p> <p>7 染織工芸（1） 糸染めからきものが作られる工程</p> <p>8 染織工芸（2） 主な「染めのきもの」の産地とその特徴</p> <p>9 染織工芸（3） 主な「織りのきもの」の産地とその特徴</p> <p>10 きものに関する基礎知識（1） きもの種類と格について</p> <p>11 きものに関する基礎知識（2） きものと小物の名称</p> <p>12 きものに関する基礎知識（3） 衣替え他</p> <p>13 節目のきもの（1） 成人式（振袖などについて）</p> <p>14 節目のきもの（2） 子どもの晴れ着、結婚式（参列者のきものについて）</p> <p>15 節目のきもの（3） 卒業式（袴などについて）等</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：普段着と礼装の違いまた、主な「節目のきもの」について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日頃から、雑誌やインターネット等で、振袖姿・袴姿など「きもの」について、色・模様・小物に注目しながら数多くの画像や解説を視聴し情報を得る。（90分程度） 事後学習：講義内容について、その都度ノートや配布資料(Classroomに同じ資料をアップ)をまとめ理解を深める。（90分程度）
指導方法	パワーポイントや映像を用い講義形式で進める。 適宜小テスト(Classroomを利用)を行い理解度を深めていく。 フィードバックの仕方：①小テスト実施②採点后返却③授業後に解答についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	D:定期試験、授業内小テスト、課題、受講態度また授業への貢献度を評価する。 定期試験50%、小テスト20%、授業への貢献度20%、課題10%

テキスト	なし 必要に応じて、プリントを配布する。
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	欠席した場合、配布プリント(Classroomに同じ資料をアップ)を確認すること。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F12C09	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションデザインの中でも、主にアパレルデザインに重きを置き、ファッションブランドの商品企画の手法を修得する。 アパレルデザイナーや商品企画職を目指すためのコンセプトワーク、テーマに基づくファブリケーション、そして商品企画の流れを理解及び体験することにより、ポートフォリオ作成手法も並行して修得する。 (授業目標) ◎D：アパレル商品企画の手法を修得する。
授業計画	<p>1 ファッションデザインとは 本講義の概要説明、デザインの分類と、アパレルデザインについて</p> <p>2 ファッション用語 ファッション基礎用語について（教科書使用）</p> <p>3 コレクションブランドの分析 コレクションブランドのスタイリング・素材イメージ・カラー・柄展開・アイテム分析 それに伴うファッション基礎ワードについて（教科書使用） コレクション分析（課題）</p> <p>4 ファッション素材概要 ファッション素材の基礎について（教科書使用） 小テスト</p> <p>5 ブランドコンセプト ファッションブランドのコンセプト設定とイメージマップについて コンセプトイメージマップ作成（課題）</p> <p>6 ターゲット設定（ワーク） ファッションブランドのターゲット設定とイメージマップについて ターゲットイメージマップ作成（課題）</p> <p>7 シーズンテーマ シーズンテーマに基づくシーンイメージ設定とイメージマップについて シーンイメージマップ作成（課題）</p> <p>8 シーンに基づくファブリケーション及びカラー展開 シーンの中のスタイリングを構成する素材ストーリーとそのカラー展開について ファブリケーションマップ作成（教科書使用）（課題）</p> <p>9 スタイル画 スタイル画の役割と表現手法について スタイル画作成（課題）</p> <p>10 アイテム画 アイテム画（平絵）の役割と表現手法について 平絵作成（教科書使用）（課題）</p> <p>11 同素材デザイン展開 1 同一素材を使用したアパレルデザイン展開について 確認課題</p> <p>12 同素材デザイン展開 2 同一素材を使用したアパレルデザインの展開について 同素材デザイン展開平絵作成（課題）</p> <p>13 デザイナーのマーチャンダイジング 1 商品企画構成上のマーチャンダイジングについて 確認課題</p> <p>14 デザイナーのマーチャンダイジング 2 商品企画構成上のマーチャンダイジングについて 同素材デザイン展開企画の確認及び修正（課題）</p> <p>15 最終企画構成確認修正 ブランドコンセプト・ターゲット設定に基づく商品企画 ポートフォリオ確認及び修正</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：アパレル商品企画の手法概要を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：本学図書館に於いて指定されている書籍でファッションデザインの知識を得ておくこと。（90分） 事後学習：作成した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアを基に分析し要約しておくこと。（90分）

指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。毎回テーマごとに進めていき、描絵での表現を含むポートフォリオをシナリオ的に作成していく。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：最終課題を評価する。 最終課題50%、授業内課題30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「スタイリングブック」高村是州著、株式会社グラフィック社
参考書	なし
履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、ファッション大辞典、PEN、マリークレールビジュアール、VOGUE、BAZAAR、View、Wearを必ず一読すること。 授業内PC使用（主にパワーポイント）、猫絵あり
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
江頭誠			
ナンバリング：F12C10	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションデザインに必要なデザイン画、スタイル画の基礎となる基本プロポーションやポーズから人体ディテールの研究、アイテム図の表現法や着装表現、基本シルエットと着彩表現、各種画材の特性について学ぶ。 市場調査を交え、常に広い視野を意識しながら、日々変化するファッション業界に対応できるよう、豊かな感性とその表現力を養うことを目標とする。 (授業目標) ○C：描く対象物やディテールに適した技法を判断し表現できる。 ◎E：デザイン力や色彩感覚を磨き、描く対象物によって適切な画材を選び、描くことができる。
授業計画	<p>1 講師紹介、ガイダンス (ZOOM) 講師の紹介 (制作物、メディア情報等の紹介) ファッション イラストレーションAの授業の概要説明</p> <p>2 基本プロポーション説明 ファッションイラストにおける人体の基本プロポーションについて (正面、横) イラスト制作に便利なツールの紹介</p> <p>3 アイテム図の表現 スカート、パンツ、ジャケットの描き方、画材の使用法について 諸所の画材を用いて実験</p> <p>4 スカートのスタイル画 (1) スカートのスタイル画、コーディネート考案</p> <p>5 スカートのスタイル画 (2) スカートのスタイル画、線画の完成</p> <p>6 スカートのスタイル画 (3) スカートのスタイル画の着彩、仕上げ</p> <p>7 イラスト模写 イラストからポージング、アイテムの描き方を参考にし模写</p> <p>8 写真模写 ファッション雑誌等のモデル写真からポージング、顔の表情を参考にし模写</p> <p>9 パンツスタイルのスタイル画 (1) パンツスタイルのスタイル画、コーディネート考案</p> <p>10 パンツスタイルのスタイル画 (2) パンツスタイルのスタイル画、線画の完成</p> <p>11 パンツスタイルのスタイル画 (3) パンツスタイルのスタイル画、着彩、仕上げ</p> <p>12 オリジナルテーマのスタイル画 (1) オリジナルテーマのスタイル画、コーディネート考案</p> <p>13 オリジナルテーマのスタイル画 (2) オリジナルテーマのスタイル画、線画の完成</p> <p>14 オリジナルテーマのスタイル画 (3) オリジナルテーマのスタイル画、着彩、仕上げ</p> <p>15 プレゼンテーション オリジナルテーマのスタイル画のプレゼンテーション、講評</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：指定された課題を仕上げるにより、アイテムのディテールを理解する。 ◎E：人体にフィットする服をディテールを理解しながら描くことができる。
事前・事後学習	事前学習：流行している服や色について市場調査する習慣を身につける (30分)。 事後学習：授業で学んだ技術の復習を行い、分野を問わず、アートやデザインに触れて感性を磨く努力をする (30分)。
指導方法	資料や配布プリント、デモンストレーションなどによって対象物を描くための技法を解説し、各自の個性を伸ばしながらデザイン画が描けるよう指導する。 フィードバックの仕方：作品に加筆したデータ等を使用し、上達のためのアドバイスをを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：授業で説明したプロポーションなどの注意点が提出課題にて意識できているかを、採点の際の基準とする。 E：授業で説明した描く対象物に応じた適切な画材の使用ができているかを、採点の際の基準とする。 作品80%、授業への貢献度20%

テキスト	なし
参考書	必要に応じてプリント配布
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題内容を理解の上、課題作品を仕上げること。 ・課題提出物の期限は厳守すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
飯田淳			
ナンバリング：F22C11	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	切り離して考えられない生活とファッション。その関係を意識して、オリジナリティーのあるファッションイラストレーションを制作する。多様化した生活、環境、時間、空間を調査分析して、「着ている人」を視覚化する。基礎的な表現方法を指導して、企画、構成、描写、そしてプレゼンテーションを通してコンセプトを人に伝えるコミュニケーション力も養う。 (授業目標) ○C：様々な生活スタイルから感じ取ったデザインや着こなしを企画提案する。 ◎E：色彩と形のバランス、ボリューム感を考え、着ている人物の生活も感じさせる表現技術を身につける。		
授業計画	1	ガイダンス イラストレーションの仕事を見ながらファッションとの関係を解説	
	2	色彩とシルエット 様々な画材を用いて色面を制作、シルエットに当てはめ、人物と服とのボリュームを考える	
	3	色彩とシルエット 色面で出来たシルエット画を発表して講評する	
	4	生活スタイルとファッション（1） 同世代の生活スタイルを調査分析してディスカッションを行い企画案を考える	
	5	生活スタイルとファッション（1） 企画案からファッションのアイディアスケッチを制作する	
	6	生活スタイルとファッション（1） 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する	
	7	色彩とライン 様々な画材を用いて線画を制作、ラインで人物の骨格を表現する	
	8	色彩とライン 色彩と線画で出来た作品を発表して講評する	
	9	生活スタイルとファッション（2） 自分にとっての理想の生活スタイルを考え、ディスカッションを行い企画案を形にする	
	10	生活スタイルとファッション（2） 企画案からファッションのアイディアスケッチを制作する	
	11	生活スタイルとファッション（2） 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する	
	12	自由課題 生活スタイル1、2をもとに自由な表現で作品を制作する	
	13	自由課題 好きな画材とサイズで制作する	
	14	自由課題 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する	
	15	全体講評とまとめ 全課題を展示して、自身の感覚と考え方を俯瞰的に捉えて、将来の仕事に生かす為のアドバイスを行う	
学習成果・到達目標・基準	○C：生活スタイルとファッションの関係を意識して表現に繋げる事ができる。 ◎E：ボリュームと色のバランスを構成にいかし表現できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファストファッションからハイブランドまで、実際に展開されているショップを観察してファッションのトレンドとライフスタイルの切り口を調査し情報を収集する。（30分） 事後学習：雑誌、web等の情報からファッションの流れを予測して、画像等をファイリングして次の課題につなげる。（30分）		
指導方法	企画、アイディア出し、ラフスケッチ、制作、完成までを共に考えアドバイスしながら個性を生かした作品に仕上げる。 表現したいイラストレーションの技法に関して、画材の選択等の指導をする。 フィードバックの仕方：発表段階でより完成度の高い作品に仕上げる為のポイントを講評時に行う。ディレクション的な指摘も行う。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：生活スタイルが感じられる表現が出来ているか、企画が新鮮かを評価する。 E：伝えたい事が描けていて、オリジナリティーも感じられるかを評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	必要に応じてプリントを配布
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を自由な発想と分析で理解し、作品を完成させること。 ・課題提出の期限を厳守すること。 ・多くの画材に触れて特性を体験すること。
アクティブ・ラー ニング	プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C12	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>戦略的に店舗の売上を向上させるビジュアルの知識を養う。VMDによってより良いお買い場作りを学ぶ。HPなどの平面だけでなく、空間的なビジュアルに重点をおく。購入までの道筋を総合的に考えることで、様々なショップの形に活かす。</p> <p>(授業目標) ブランドを商品だけで見るのではなく商品に関わる全てのビジュアルによってお客様により良い購入体験ができるよう創出できる。</p> <p>◎D：商品やターゲットに合わせどのようなビジュアルや構成が向いているか提案できる。 ○E：ショップのコンセプトやターゲットに合わせた店内を年間で作ることができる。</p>
授業計画	<p>1 ビジュアルの重要性 ビジュアルに左右される行動や心理 VMD導入の意味と意義と仕掛け方</p> <p>2 購買行動とビジュアル オンラインとリアル店舗の共通点と相違点を明確にし お客様が目にする全てのビジュアルを考える</p> <p>3 デザインテイストの規格化と店舗デザイン ブランドテイストや商品を考慮したショップスタイリング</p> <p>4 店舗ツール ビジュアルを左右するマネキンや什器について知る</p> <p>5 売り場作り ゾーニングやグルーピングを学び、店内レイアウトを考える</p> <p>6 3つのゾーンの役割 VP/PP/IPに空間を分け、お客様を集客し分かりやすい買い場を作る</p> <p>7 IP（陳列の基本） 陳列の種類とわかりやすい・見やすい陳列を探る</p> <p>8 IP（陳列の基本） カラーテクニックやアイテム別の魅せ方</p> <p>9 PP（ゾーンのポイント） 効果的な配置場所とディスプレイ構成</p> <p>10 VP（店舗の顔） 構成の種類と効果を実施写真で考察・分析</p> <p>11 VP（店舗の顔） 販促テーマを効果的にビジュアル化する方法を学ぶ</p> <p>12 MP技法・ライティング効果 商品を美しく魅せる技法を学ぶ</p> <p>13 年間のお買い場づくり 商品の入れ替えに合わせて効果的にビジュアル化する</p> <p>14 季節の装飾 旬なおもてなしでお客様の心を掴む</p> <p>15 店内再編集とこれからの時代のVMD 商品ライフサイクルを反映する売り場の再編集方法 アフターコロナやオンラインなど変わる時代の店舗像</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：店内のディスプレイや陳列を見極めて構成できる。 ○E：年間の販促計画に合わせた商品の見せ方を考えることができる。
事前・事後学習	事前学習：店舗ごとにショップ内の自分が好きな箇所と嫌いな箇所をまとめておく（60分）。 事後学習：講義の中でのキーワードをチェックリストにし、実際の店舗をリサーチする（120分）。
指導方法	講義内容に関連する写真や映像等を使用し、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D、E：レポート課題、定期試験を評価する。 定期試験 50%、課題 30%、授業態度・貢献度 20%
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する。

参考書	
履修上の注意	百貨店や駅ビルなど様々な商業施設に足を運ぶ。
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F22C13	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>小売業で重要なビジュアルを空間で捉えることで、発想したものをカタチにする力を養い、お客様に伝えるビジュアル企画を目指す。またPCで作ったものを実際に具現化する事で、表現力を養う。</p> <p>本授業では、ショップのターゲット設定しそのお客様の心に訴えるビジュアルを目指す。ショップ全体のイメージ・陳列イメージ・年間のビジュアル販促スケジュール・小物用ショーウィンドウプラン企画・実施することで、販売促進の一環であるお客様に伝えるビジュアルを目指し、ビジネスに活かす。</p> <p>「Adobe Photoshop」の使い方に重点を置き、「Adobe Illustrator」と併用しながらグラフィック系ソフトの使い方を習得する。プランニングすることで、デザイン的思考を養い、プレゼンテーション資料制作や空間的デザインを行う (授業目標)</p> <p>◎E：コンセプトやターゲットを理解し、商品やテーマが伝わるビジュアルデザインを創造することができる。</p>
授業計画	<p>1 店舗におけるビジュアル 今後の企画内容のガイダンスとターゲット設定</p> <p>2 空間・陳列などのビジュアル 什器などコンセプトの店舗空間への活かし方 IllustratorとPhotoshopの操作確認</p> <p>3 コンセプトに基づく店舗空間イメージカラー・ジュ制作 商品やブランドコンセプトに合う店舗空間マップ制作 Photoshop画像編集を習得しながらマップ制作</p> <p>4 コンセプトに基づく陳列コンセプト制作 商品やブランドコンセプトに合う商品陳列のイメージマップ制作 Photoshop画像編集を習得しながらマップ制作</p> <p>5 年間販促計画に基づくディスプレイ計画 販促活動に基づくビジュアル提案をリサーチ・計画</p> <p>6 年間販促計画に基づくディスプレイ計画 販促活動に基づくビジュアル提案をリサーチ・計画</p> <p>7 ディスプレイ構成 商業施設のディスプレイを考察・分析し、美しいとされるディスプレイの構成を学ぶ 今後企画の参考になる写真をカラー・ジュ</p> <p>8 ショーウィンドウディスプレイ計画 テーマに沿ったディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得</p> <p>9 ショーウィンドウディスプレイ計画 テーマに沿ったディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得</p> <p>10 ショーウィンドウディスプレイ計画 テーマに沿ったディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得</p> <p>11 ディスプレイ立体製作 PCプランをもとに必要な装飾品を製作し実際に組み立てる</p> <p>12 ディスプレイ立体製作 PCプランをもとに必要な装飾品を製作し実際に組み立てる</p> <p>13 ディスプレイ立体製作・撮影 PCプランをもとに実際に組み立てる 完成後撮影をする</p> <p>14 プランまとめ 実施写真を制作プランに入れ込み、コンセプトから実施まで一つのプランにする</p> <p>15 学修成果発表 講評 課題のプレゼンテーションと意見交換</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：販促活動の一環として、企画し実施することができる。
事前・事後学習	事前学習：コンセプトに合う各課題のデザイン例を調べ、プラン制作のイメージを固める(40分)。 事後学習：授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、操作の復習を行う(20分)。

指導方法	テーマに沿ってパワーポイントを使用し、画像も用い講義を進める。 講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：作品にコメントを添付し、表現の幅を広げ、技術向上のためのアドバイスをを行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E：課題提出物、受講態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物80%、授業態度・貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	事前学習にしっかり取り組み、授業中は技術取得に努める 製作物により事前準備や購入するものがある
アクティブ・ラー ニング	プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C14	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>一つの商品を企画する時に、商品のデザインだけでなく、その商品をどの様に販売していくか、それにまつわるデザインを企画し、活用方法を考察する。</p> <p>本授業では、商品を各自選定し、そこからターゲットなどのコンセプトを決め、そのパッケージ・POP・ノベルティグッズなどのデザインを企画し、実際に製作する。紙面上ではなく、複数のデザインを実際に目にするこ とで、一貫したブランディングがなされていたか、適切にお客様に伝わるデザインだったかを考察する。</p> <p>「Adobe Illustrator」の使い方に重点を置き、「Adobe Photoshop」と併用しながらグラフィック系ソフトの 使い方を習得する。プランニングすることで、デザイン的思考を養い、プレゼンテーション資料制作や平面的 デザインを行う (授業目標)</p> <p>◎E：デジタルの制作技術を活用し、伝えたいことを形にする。 ○A：主体性を持ちデザイン製作を行う。</p>
授業計画	<p>1 本講座について 今後の企画内容のガイダンス Photoshop、Illustratorの基本的操作と違いと互換性について</p> <p>2 商品に合うグラフィック提案のコンセプトシート計画 基本的なフォントや文字の配置方法</p> <p>3 商品に合うグラフィック提案のコンセプトシート計画 画像のレイアウト・カラーズ方法</p> <p>4 キービジュアル制作 デザインを汎用させる事により、ブランディングに繋がる力をつける 次回製作の為のイメージ作り</p> <p>5 キービジュアル制作 デザインを汎用させる事により、ブランディングに繋がる力をつける 次回製作の為のイメージ作り</p> <p>6 POP制作 今まで習得した文字レイアウト技術とキービジュアルを使いPOPを制作</p> <p>7 POP制作 今まで習得した文字レイアウト技術とキービジュアルを使いPOPを制作</p> <p>8 パッケージ・ラッピングデザインとは コンセプトに合うデザインを探る</p> <p>9 パッケージ・ラッピングデザイン企画・制作 コンセプトに合うデザインを探る</p> <p>10 パッケージ・ラッピングデザイン企画・制作 コンセプトに合うパッケージデザインを制作</p> <p>11 ノベルティグッズデザイン企画・制作 コンセプトに合うパッケージデザインを制作</p> <p>12 ノベルティグッズデザイン企画・制作 今までのデザインを汎用させた物品企画 ノベルティグッズ(エコバッグ・Tシャツ・ポーチなどのいずれか)のデザイン制作</p> <p>13 ノベルティグッズデザイン企画・制作 今までのデザインを汎用させた物品企画 ノベルティグッズ(エコバッグ・Tシャツ・ポーチなどのいずれか)のデザイン制作</p> <p>14 立体制作・入稿 今までのデザイン案をまとめ、パッケージなどを立体制作する。 作るものに合わせて、転写シートや布プリントなどでオリジナル製作か、業者に入稿し製作依頼 をかける。</p> <p>15 学修成果発表 講評 プラン完成後、鑑賞会・講評</p>
学習成果・ 到達目標・基準	◎E：「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」他グラフィック系のソフトやアプリの基本的な技術を用い てグラフィック制作ができる。 ○A：計画性を持ってプラン制作ができる。
事前・事後学習	事前学習：コンセプトに合う各課題のデザイン例を調べ、プラン制作のイメージを固める(40分) 事後学習：授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、操作の復習を行う (20分)
指導方法	プロジェクターにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。

	操作に遅れの出る学生の出ないように、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E：課題提出物、A：受講態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物70%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜、プリントやフォーマットデータを配布
参考書	
履修上の注意	事前学習にしっかり取り組み、授業中は技術取得に努める 製作物により事前準備や購入するものがある
アクティブ・ラー ニング	実習、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
ナンバリング：F12C15			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>繊維が糸になり、糸が布になり、さらに布を縫製することで服飾となる。服飾の素材としての観点から繊維、糸、布などの基礎知識やその性質について講義や体験を通して学ぶ。また、コレクション映像や実際に販売されているアイテムを参考に服飾造形において素材選びはデザインの一部であり、素材は服飾を構成する要素として重要な役割を果たしていることを知る。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：修得した知識を基に服飾造形の際には適した素材が選択できるようになる。また、実際の衣生活に役立てる応用力を身に付けて説明できる。</p> <p>◎D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質を理解できる。繊維製品の正しい管理方法を学び、快適で衛生的な衣生活の知識を修得できる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 概要説明、衣服の役割と機能</p> <p>2 ファッションと素材 素材とデザインの関係</p> <p>3 繊維の分類と特徴（1）（天然繊維） 植物繊維、動物繊維</p> <p>4 繊維の分類と特徴（2）（化学繊維1） 再生繊維、半合成繊維、合成繊維</p> <p>5 繊維の分類と特徴（2）（化学繊維1） 再生繊維、半合成繊維、合成繊維</p> <p>6 糸 フィラメント糸と紡績糸 撚りと布地の関係 糸の太さの単位</p> <p>7 織物の分類と特徴 三原組織 主要織物の特徴及び用途</p> <p>8 織物の識別（グループワーク：数種類の織物を識別し、グループ代表者が発表する） 織物の種類と識別</p> <p>9 ニットの分類と特徴 緯編みと経編み ホールガーメント</p> <p>10 染色加工、柄の種類 先染め、後染め ドット、チェック、ストライプ、ボーダー等</p> <p>11 仕上げ加工、その他の素材 繊維別仕上げ加工、目的別仕上げ加工 革、毛皮、裏地、芯地、副資材</p> <p>12 ファッション素材の管理（1） 品質管理 取り扱い絵表示</p> <p>13 ファッション素材の管理（2） 素材に合った手入れ、洗濯 衣服の保管</p> <p>14 ファッション素材のリサイクル アップルと資源、環境問題</p> <p>15 新素材と今後の発展（グループワーク：グループごと衣服の性能測定を行う） 快適性、イージーケア、健康、ファッション性等、多様な機能を持つ繊維</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○C：実際の衣生活に役立てる繊維製品の扱い方を判断できる。</p> <p>◎D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質の違いを説明できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：授業時の指示に従い、翌週の授業で扱う素材について予め調べる（30分）。日頃から身のまわりのファッション素材に関心を持ち、自らの手で触れ、比較観察し、着用するよう心がける（30分）。</p> <p>事後学習：講義内容を復習し、理解を確実なものにする。さらに各自の理解度を確認する為の小テストに備える（120分）。</p>
指導方法	<p>パワーポイントを中心に講義する。補足資料としてプリントを配布する。</p> <p>フィードバックの仕方：①確認問題実施、②採点（評価）返却、③授業後に解答について質疑対応</p>

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：繊維製品の扱い方に関する判断力を小テストによって評価する。 D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質の知識を修得しているか定期試験によって評価する。 定期試験またはレポート50%、提出物30%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	文化ファッション体系 服飾関連専門講座①「アパレル素材論」文化服装学院編 文化出版局 (2014)
履修上の注意	毎回プリントを配布するため、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラー ニング	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子、平光くり子			
ナンバリング：F12C16			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>衣服製作の経験が少ない学生を対象に、基礎的な製作技術の修得を目的としている。課題は「基礎縫い」と「服飾雑貨」製作とし、学習内容に沿った製作工程と使用器具の扱いなどを学修する。</p> <p>基礎縫いでは手縫い、ミシン縫い、副資材(ボタン付け等)に関する基礎的な縫製技術を修得し、日常生活における衣服トラブルを自ら解決する技能を身に付ける。</p> <p>服飾雑貨製作では、機能性を考えた実用的なバッグ製作を行うことで立体的な組み立て方を学修する。</p> <p>(授業目標) ◎E：基礎的な製作技能を身に付け、課題を製作することができる。</p>
授業計画	<p>1 基礎縫い(1) (実習) 玉どめ、なみ縫、ぐし縫の基礎技法</p> <p>2 基礎縫い(2) (実習) 半返し縫、本返し縫、星どめの基礎技法</p> <p>3 基礎縫い(3) (実習) ミシン、ロックミシンの使用方法について</p> <p>4 基礎縫い(4) (実習) 置きじつけ、まつり縫、千鳥がけの基礎技法</p> <p>5 基礎縫い(5) (実習) 置きじつけ、奥まつり縫の基礎技法 ボタン等の使用方法を実習</p> <p>6 基礎縫い(6) (実習) スナップ、ホック等の使用方法を実習</p> <p>7 服飾雑貨製作基礎(1) (実習) ポケットのデザイン考案</p> <p>8 服飾雑貨製作基礎(2) (実習) 作図、裁断、印をつける</p> <p>9 服飾雑貨製作基礎(3) (実習) 布端の処理、ポケット製作</p> <p>10 服飾雑貨製作基礎(4) (実習) 持ち手を製作し胴に縫いつける</p> <p>11 服飾雑貨製作基礎(5) (実習) 胴、まち、底を縫う</p> <p>12 服飾雑貨製作応用(1) (実習) 作図、裁断、印をつける、布端の処理</p> <p>13 服飾雑貨製作応用(2) (実習) ファスナーをつける</p> <p>14 服飾雑貨製作応用(3) (実習) 胴、まち、底を縫う</p> <p>15 作品発表(実習) 仕上げアイロンをかける 発表を行う</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基礎的な製作技能を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：基本的な縫い方(手縫い、ミシン等)を練習する(20分)。 事後学習：授業終了後には学習した作業工程を復習し、次週までに作業を完了させておく(25分)。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②課題提出、③採点(評価)返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布。

参考書	なし。
履修上の注意	作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。 「服飾造形応用」を履修する場合は、本科目を履修することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
ナンバリング：F12C17			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	製図理論と製作技術を学び、課題は「スカート」と「ワンピース」を製作する。 パターンの理解を深めた上で、衣服のシルエットやディテールとの関係について指導を行う。製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、基礎的な縫製技術を身に付けることを目的とする。 (授業目標) ◎E：課題を正確に製作することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス（実習） 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 スカート 採寸、作図、裁断（実習） 採寸、作図、裁断、印付け、ロックミシン</p> <p>3 スカート 本縫い1（実習） 上段の脇縫い、ウエスト処理</p> <p>4 スカート 本縫い2（実習） 下段の脇縫い、ギャザーミシン</p> <p>5 スカート 本縫い3（実習） ギャザーを寄せ、上下を縫い合わせる</p> <p>6 スカート 本縫い4（実習） コバステッチ</p> <p>7 スカート 本縫い5（実習） 裾の始末、ゴム通し</p> <p>8 スカート 本縫い6（実習） ゴム縫い、仕上げの始末</p> <p>9 スカート 作品発表（実習） プレスボール等のプレス用具を使用して、仕上げアイロンをかける 着装発表を行う</p> <p>10 ワンピース パターン作図、裁断（実習） 採寸、パターン作図、裁断、ロックミシン</p> <p>11 ワンピース 本縫い1（実習） 前身頃の装飾、後身頃の装飾</p> <p>12 ワンピース 本縫い2（実習） 肩縫い、衿ぐりの始末</p> <p>13 ワンピース 本縫い3（実習） 脇縫い、袖ぐりの始末</p> <p>14 ワンピース 本縫い4（実習） 裾、装飾製作</p> <p>15 作品発表（実習） プレスボール等のプレス用具を使用して、仕上げアイロンをかける 着装発表を行う</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：課題を製作するための正しい縫い方を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業で作業ができるよう作業工程に関する資料を確認しておく（20分）。 事後学習：授業終了後には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させる（25分）。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程と基礎理論が理解できるように指導を行なう。 フィードバックの仕方：①実習、②課題提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度 20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布

参考書	なし
履修上の注意	服飾造形基礎を履修していることが望ましい
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子、平光くり子、小泉きよみ			
ナンバリング：F23C13			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>服飾造形1、2を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。実習で修得した知識、技術を基に製作技術を学び、課題として「ワンピース」を製作する。製作工程に関する配布プリントに沿って講義で学び、実習で技術を身に付ける。衣服の組み立て方と製作手順を学修し、製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、基礎的な縫製技術を身に付けることを目的とする。</p> <p>(授業目標) ◎E：服飾造形1、2で学修した技能も活かし、課題を製作することができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 採寸、作図（実習） 採寸、パターン作図</p> <p>3 作図、布地選択（実習） パターン作図、素材決定</p> <p>4 裁断、印つけ（実習） 裁断、印をつける</p> <p>5 芯の裁断と接着、裁断（実習） 必要な部分にアイロンで芯を接着</p> <p>6 組み立て（実習） しつけ糸を使用し組み立て</p> <p>7 組み立て、試着補正（実習） しつけ糸を使用し組み立て、試着補正</p> <p>8 本縫い（布端の始末）（実習） 布端をロックミシンで始末</p> <p>9 本縫い（後ろタック、肩縫い）（実習） 後ろ身頃のタック、身頃の肩を縫う</p> <p>10 本縫い（見返し）（実習） 見返しの肩を縫い、身頃と見返しの衿ぐりを縫い合わせる</p> <p>11 本縫い（前タック）（実習） 前身頃のタックを縫う</p> <p>12 本縫い（脇縫い、袖口の始末）（実習） 脇縫い、袖口の始末</p> <p>13 本縫い（裾の始末）（実習） 裾をミシンまたは手縫いで始末</p> <p>14 本縫い（装飾）（実習） デザインに合わせて装飾をする</p> <p>15 作品発表（実習） プレスボール等のプレス用具を使用して、仕上げアイロンをかける 着装発表を行う</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：課題を製作するための正しい縫い方を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：服飾造形1、2で修得した縫い方や作業工程を各回で使用できるように復習しておく（20分）。 事後学習：授業終了時には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく（25分）。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②課題提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布

参考書	なし
履修上の注意	「服飾造形1」「服飾造形2」を履修した学生を対象としている。 作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子、平光くり子			
ナンバリング：F33C14			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾造形1、2、3を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。 課題は「ノーカラーコート」とする。「ノーカラーコート」を製作することでデザインに適した素材の選択、衣服の立体化、より高度な縫製方法を学修する。製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、完成度の高い縫製技術を身に付けることを目的としている。 (授業目標) ◎E：服飾造形の総仕上げとして、これまでに学んだ技術を活かし、美しく完成度の高い課題を製作できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 課題製作に必要な生地や道具について説明、採寸、アイテム研究</p> <p>2 基礎縫い（1）（実習） かがり縫い、半返し縫い、本返し縫い</p> <p>3 基礎縫い（2）（実習） 星どめ、千鳥掛け、奥まつり</p> <p>4 作図、生地選択（実習） パターン作図、生地選択</p> <p>5 裁断、接着芯（実習） 生地の裁断、芯の裁断</p> <p>6 裁断、接着芯（実習） ポケットの裁断、接着芯、伸び止めテープ</p> <p>7 本縫い（1）（実習） 布端の始末、ロックミシン</p> <p>8 本縫い（2）（実習） 見返しの裁断</p> <p>9 本縫い（3）（実習） 見返し付け、肩縫い</p> <p>10 本縫い（4）（実習） 袖付け</p> <p>11 本縫い（5）（実習） 脇縫い、前端の始末</p> <p>12 本縫い（6）（実習） ポケットの縫製</p> <p>13 本縫い（7）（実習） 身頃にポケットを付ける</p> <p>14 本縫い（8）（実習） 袖口、裾を手縫いで始末</p> <p>15 仕上げ、作品発表（実習） 仕上げアイロンをかける、着装発表を行う</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：シルエットと縫製が美しい課題を製作できる。
事前・事後学習	事前学習：服飾造形1、2、3で修得した縫い方や作業工程を、各回で使用できるように復習しておく（20分）。 事後学習：作業終了時には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく（25分）。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②課題提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度 20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布

参考書	なし
履修上の注意	「服飾造形1」「服飾造形2」「服飾造形3」を履修した学生を対象としている。 作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
ナンバリング：F23C15	オンデマンド授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	日本の風土の中で育った伝統工芸や伝統装飾の製作方法を学ぶ。製作工程に関する資料に沿って講義で学び、実習で技術を身に付ける。日本の各地方で大切に受け継がれてきた技法を学ぶことで伝統的な文化を知ることができる。製作したものを身に着けることで立体作品の構造を学修する。 (授業目標) ◎E：基本的技法を的確に活用し、課題を正確に製作できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (Classroom) 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 伝統装飾 1 (対面授業) (実習) 刺し子のデザイン、製作準備</p> <p>3 伝統装飾 2 (Classroom) (実習) 基礎模様①の説明、実習</p> <p>4 伝統装飾 3 (Classroom) (実習) 基礎模様②の実習、仕上げ</p> <p>5 伝統装飾 4 (Classroom) (実習) 基礎模様③の説明、実習</p> <p>6 伝統装飾 5 (Classroom) (実習) 基礎模様④の説明、実習</p> <p>7 伝統装飾 6 (Classroom) (実習) 基礎模様⑤の説明、実習</p> <p>8 伝統装飾 7 (Classroom) (実習) 基礎模様⑥の説明、実習</p> <p>9 伝統工芸 1 (対面授業) (実習) つまみ細工のデザイン、製作準備</p> <p>10 伝統工芸 2 (Classroom) (実習) 髪飾り：剣つまみの作品の説明、実習①</p> <p>11 伝統工芸 3 (Classroom) (実習) 髪飾り：剣つまみの作品の説明、実習②</p> <p>12 伝統工芸 4 (Classroom) (実習) 髪飾り：剣つまみの作品の説明、実習③</p> <p>13 伝統工芸 5 (Classroom) (実習) 立体作品：丸つまみの簪の説明、実習①</p> <p>14 伝統工芸 6 (Classroom) (実習) 立体作品：丸つまみの簪の説明、実習②</p> <p>15 伝統工芸 7 (Classroom) (実習) 立体作品：丸つまみの簪の説明、実習③</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本的技法を活用し、課題を製作できる。
事前・事後学習	事前学習：基本的な技法を練習する (30分)。 事後学習：授業終了後には学修した作業工程を復習し、次週までに作業を完了させておく (90分)。
指導方法	Classroomを使用したオンデマンド授業である。パワーポイントや動画を使用して製作方法を説明する。材料配布日のみ対面授業を行なう。授業日については担当教員からの連絡を確認すること。Classroomから毎回課題内容の動画を配信し、作品の写真やレポートの提出により出席とする。課題完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。フィードバックの仕方：①実習、②課題提出、③採点 (評価) 返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし

参考書	なし
履修上の注意	作業に遅れないよう積極的に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
ナンバリング：F13C16			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>パターンの基礎知識とパターン理論を学修する。前半は、スカートの種類やシルエットの表現方法、ブラウスの身頃、衿、袖の作図方法を学び、デザインに応じた表現方法を習得する。後半は、アパレルCADを使用しパターンデータの作図方法を学修する。アパレルCADとは、ファッションの製作現場で活用されているパターンメイキングシステムである。この授業では、基本操作を身に付け、パターン展開に適した操作を判断する力と作図技能を習得する。</p> <p>(授業目標) ◎E：基本的なパターンおよびデザインに応じたオリジナルパターンを作図できる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス (実習) 立体裁断と平面製図の基礎知識 用具説明と専門用語</p> <p>2 スカートのパターン作成 (実習) タイトスカートパターンを作成</p> <p>3 スカートのパターン展開 (1) (実習) タイトスカートからセミタイトスカートへ展開</p> <p>4 スカートのパターン展開 (2) (実習) タイトスカートからフレアスカートへ展開</p> <p>5 スカートのパターン展開 (3) (実習) タイトスカートからプリーツスカートへ展開</p> <p>6 ブラウスのパターン作成 (実習) 前身頃、後ろ身頃のパターンを作成</p> <p>7 ブラウスのパターン展開 (1) (実習) ダーツの移動、分散</p> <p>8 ブラウスのパターン展開 (2) (実習) バストダーツからネックラインギャザーへ展開</p> <p>9 袖のデザイン展開 (1) (実習) 袖の構造を復習、シャツスリーブのパターンを作成</p> <p>10 袖のデザイン展開 (2) 衿のデザイン展開 (1) (実習) パフスリーブ、フレアスリーブ等のパターンを作成 衿の構造を復習</p> <p>11 衿のデザイン展開 (2) (実習) シャツカラー、フラットカラー等のパターンを作成</p> <p>12 ワンピースのパターン作成 (1) (実習) 身頃パターンからワンピースパターンへ展開</p> <p>13 ワンピースのパターン作成 (2) (実習) パーツ化、縫い代付け等</p> <p>14 応用課題 (1) (実習) 各自のデザインによるパターン作成 縮小データを提出</p> <p>15 応用課題 (2) (実習) 修得した操作方法により応用課題に取り組む 縮小データを提出</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本的なパターンを作図できる。
事前・事後学習	事前学習：日常身に付けている衣服のパターンについて考えること。事前に提示される資料を閲覧しておくこと (25分)。 事後学習：授業時の指示に従い、新しく学修した技法を復習しておくこと (20分)。
指導方法	作図方法のプリントを配布し、説明を加えながら授業を進めていく。細かい作図方法を理解し修得できるように、手元の作業を分かり易く示し指導する。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②提出 (学生)、③採点結果にコメント記載のうえ返却または返信、④授業後におけるコメントへの質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・	E：基本的なパターンメイキングができるか提出物および応用課題で評価する。 応用課題50%、提出物 (縮小データ) 30%、授業への貢献度20%

基準	
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する
参考書	なし
履修上の注意	パソコンを使用したパターンメイキングの授業であるため、「服飾造形1」や「服飾造形2」の授業を履修していることが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F22C19			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>手を使いモノを作るハンドクラフトの基礎技術の修得を目的に、コサージュ、アートフラワーの製作を行う。布による造花の製作工程では、花の種類によって布や糸、コテなどを用い様々な手作業を学修する。コサージュ製作を行うことで、加工、装飾する基本技術を修得し、アートフラワーの製作を通して、自身の理想のイメージを形にするための技術を磨く。</p> <p>(授業目標) ◎E：加工、装飾技術を身に付け、オリジナリティある作品を製作できる。</p>
授業計画	<p>1 アートフラワー製作基礎（1）（実習） ブレードを使用したコサージュの説明及び製作</p> <p>2 アートフラワー製作基礎（2）（実習） ブレードを使用したコサージュの製作、仕上げ方法について説明</p> <p>3 アートフラワー製作基礎（3）（実習） ビロード生地の説明及びコテの使用方を説明</p> <p>4 アートフラワー製作基礎（4）（実習） ビロード生地コサージュを製作、仕上げ方法について説明</p> <p>5 アートフラワー製作基礎（5）（実習） サテン生地の説明及びコテの使用方を説明</p> <p>6 アートフラワー製作基礎（6）（実習） サテン生地を使用したアートフラワー製作及び仕上げ方法の説明</p> <p>7 アートフラワー製作応用（1）（実習） 染色方法の説明及び製作</p> <p>8 アートフラワー製作応用（2）（実習） 染色用生地を使用したアートフラワーの製作及び仕上げ方法</p> <p>9 アートフラワー製作応用（3）（実習） アートフラワー用加工生地の説明及びコテの使用方を説明</p> <p>10 アートフラワー製作応用（4）（実習） アートフラワー用加工生地を使用したアートフラワー製作</p> <p>11 アートフラワー製作応用（5）（実習） アートフラワー用加工生地を使用したアートフラワー製作及び仕上げ方法の説明</p> <p>12 自由製作（1）（実習） オリジナル作品のデザイン</p> <p>13 自由製作（2）（実習） 製作方法説明、オリジナル作品の製作</p> <p>14 自由製作（3）（実習） オリジナル作品の製作</p> <p>15 自由製作（4）（実習） オリジナル作品の製作、仕上げ、提出</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：加工、装飾するための製作技術の手順を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：様々なハンドクラフト作品を店舗やインターネット等で常に市場調査し、デザインの引き出しを作っておく（20分）。 事後学習：学んだ技術を普段の生活にとりいれられるよう、身近なハンドクラフト作品がどのような構造によりできているのかを考える（25分）。
指導方法	毎回、「ビジュアル」と「技術」のポイントを伝え、講義も交えて指導していく。製作工程の各段階では、実習内容と使用器具の扱い方などの説明を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②課題提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：作品の技術面、完成度を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし

	適宜プリント資料を配布
参考書	なし
履修上の注意	作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ			
ナンバリング：F22C20			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ニットは毛糸や綿糸を用いて、1本の糸を編み上げることにより形成されていく。ニット（編物）に用いる「かぎ針」の素材は金属、プラスチックなどがあり針の太さは号数で表し、日本規格では数字が大きいほど太くなる。基準となる結ぶ目の編み目に、糸を通して目をつなぎ合わせることを繰り返すことで編地は作られていく。かぎ針と糸の適合性を考えながら、製作に臨み基礎を理解したうえで技能を学修する。課題は基礎編み、応用作品を製作する。 (授業目標) E：基礎編みで修得した技能を組み合わせ、編地の表現方法を理解する。
授業計画	<p>1 かぎ針編み基礎技法（実習：くさり編み） 編み図説明、かぎ針の持ち方、糸の扱い方、作り目、くさり編み</p> <p>2 かぎ針編み基礎技法（実習：細（コマ）編み） 細（コマ）編みの技法</p> <p>3 かぎ針編み基礎技法（実習：長編み） 長編みの技法</p> <p>4 かぎ針編み基礎技法（実習：透かし編み） 透かし編み模様の技法</p> <p>5 かぎ針編み基礎技法（実習：縄編み） 玉編み模様の技法</p> <p>6 かぎ針編み基礎技法（実習：仕上げ方） 引き抜き編み技法、基礎編み地仕上げ、糸始末、仕上げアイロン</p> <p>7 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み基礎編み） モチーフ編み円形（1）</p> <p>8 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み） モチーフ編み円形（1）</p> <p>9 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み） モチーフ編み四角形（2）</p> <p>10 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み） モチーフ編み六角形（3）、仕上げ、糸始末、仕上げアイロン</p> <p>11 応用作品製作（1）（実習：同左） 応用作品に取り組むためのデザインを決定する、作品製作についての相談</p> <p>12 応用作品製作（2）（実習：同左） かぎ針の基礎編み技法を応用し編地を決定する、作品製作についての相談</p> <p>13 応用作品製作（3）（実習：同左） 編地の整え方、糸変えの技法</p> <p>14 応用作品製作（4）（実習：同左） 編地の仕上げ方法</p> <p>15 応用作品製作（5）（実習：同左） 仕上げアイロン、完成</p>
学習成果・到達目標・基準	E：基礎編みの技能を組み合わせ、課題作品に応用することができる。
事前・事後学習	基礎技術の理解と、技能の上達を図れるように事前事後学習をすること。 事前：必ず配布プリントに目を通し、予習をしておくこと（20分）。 事後：各回のテーマで学修した編み図を理解し、編地を仕上げしておくこと（25分）。
指導方法	・製作工程に関するプリントを配布し、PowerPoint、動画を交え説明を行う。 ・講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程と基礎技術を理解できるように指導をする。 フィードバックの仕方：課題はルーブリック評価を行い返却する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：説明に対する理解力と応用作品の完成度 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし プリント配布

参考書	
履修上の注意	進度に遅れている場合は空き時間などを利用して遅れないように注意すること。 課題提出日は厳守すること。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
永田貴恵子			
ナンバリング：F22C21			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>刺繍は針と糸から生まれる美しい手芸 (Hand craft)です。技法はたくさんありますが、基本となるフランス刺繍から始めます。刺繍の材料（布・糸・針など）や用具の扱い方を学び、実際に作品を制作しながら技法を習得します。布の目数を数えて刺すクロスステッチも学習します。</p> <p>◎E：基礎刺しの名称と刺し方を理解し正しく刺繍ができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容や授業の進め方の説明。刺繍作品を見て刺繍を知る。刺繍の材料や用具の扱い方の説明。</p> <p>2 フランス刺繍①実習 フランス刺繍のサンプラー（基礎刺し見本）を制作する。刺繍布の準備をし、布に図案を写す。 ランニングステッチの刺し方実習</p> <p>3 フランス刺繍②実習 バックステッチ アウトラインステッチの刺し方実習</p> <p>4 フランス刺繍③実習 チェーンステッチ レイジーデイジーステッチの刺し方実習</p> <p>5 フランス刺繍④実習 フライステッチ フレンチノットステッチの刺し方実習</p> <p>6 フランス刺繍⑤実習 バリオンステッチ サテンステッチの刺し方実習 ビーズ・スパンコールの用具の扱い方の説明</p> <p>7 ビーズ刺繍⑥実習 ビーズ・スパンコールの刺し方説明 スパンコールをビーズで留める ビーズ平刺しの刺し方実習</p> <p>8 フランス刺繍⑦実習 フランス刺繍の基礎刺しの応用としてオリジナルの図案を考える オリジナルの図案を刺繍する</p> <p>9 フランス刺繍⑧実習 オリジナルの図案を刺繍する</p> <p>10 フランス刺繍⑨実習 サンプラーを完成させる</p> <p>11 クロスステッチ1 実習 クロスステッチ技法でブローチを制作する。ブローチの図案、配色を考える。 クロスステッチ用のマス目の図案を作成する クロスステッチの布や針の説明 刺し方実技の説明</p> <p>12 クロスステッチ2 実習 クロスステッチ実習</p> <p>13 クロスステッチ3 実習 クロスステッチ実習</p> <p>14 クロスステッチ4 実習 クロスステッチ実習 ブローチの仕上げ方の説明</p> <p>15 クロスステッチ5 実習 クロスステッチのブローチを完成させる</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基礎刺しを正しく理解した上で図案を構成し刺繍で表現できる。
事前・事後学習	事前学習：刺繍の技法や作品について調べる。配布されたプリントを読む。（20分）。 事後学習：授業終了後には学習した刺繍の技法を確認し課題の完成に努める（25分）。
指導方法	サンプラーを標準として示し、基本的な刺し方、用具の取り扱い方、図案の写し方を指導する。刺繍技法は小グループに分かれ実習指導をする。

	フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後に採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：作品の完成度を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布
参考書	
履修上の注意	授業時間内での課題の完成を目指す、期日までに提出できない場合は、各自で時間外に実習を進めること。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
小椋啓司			
ナンバリング：F22C23	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>リングやネックレス、ブレスレットなど、普段使いできるアクセサリーの課題制作を行うことで、金属材料からつくる彫金技法での基礎的な制作技術を体験・学修する。また制作の過程で素材や流通の知識を学ぶ。基礎的なアクセサリーの制作技術を理解した上で、様々なデザインや素材に触れ、自由な発想でオリジナルのアクセサリー制作を行う。講義全体の前半部分では基礎を学び、後半部分では応用としてオリジナリティある作品のデザイン、制作を行う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎E：金属材料によるアクセサリー制作の基礎技法を理解し、応用してオリジナルデザインの制作ができる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス 授業概要・各課題の説明、工具の知識、評価方法の説明 (実習:2~14回)	
	2	シンプルデザインのリング制作 (実習:2~14回) 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作	
	3	シンプルデザインのリング制作 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作	
	4	ロストワックス技法による金属パーツの原型制作 ロストワックス技法の説明、デザイン、原型制作	
	5	ワックス原型制作 デザイン、原型制作	
	6	刻印を用いたバングル制作 オリジナルのメッセージを刻印したバングルを制作	
	7	リング制作応用 ワイヤーを用いたオリジナルデザインリングの制作	
	8	チャームアクセサリーの制作 ロストワックス技法により鑄造された金属パーツのアクセサリーへの組み立て	
	9	オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 デザインシート作成、素材集めなど	
	10	オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 デザインシート作成、素材集めなど	
	11	オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 実制作 など	
	12	オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 実制作 など	
	13	オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 実制作 など	
	14	オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 実制作 など	
	15	作品講評 学生評価を加味した上で選定した優秀作品制作者によるプレゼンテーション。 展示した作品をビデオでプロジェクターへ投影し、デザインのポイントや作品のコンセプトなどを説明する。	
学習成果・到達目標・基準	◎E：課題に沿った内容の基礎的なアクセサリー制作をすることができる。		
事前・事後学習	事前学習：アクセサリー専門店や展示会などで実物に触れてみる。(30分) 雑誌やインターネットなどでアクセサリーの多様なデザインを知る (30分) 事後学習：各課題に対する制作方法の手順について参考資料を見直し復習する。(30分)		
指導方法	各課題の実習の際に、プロジェクターでの動画紹介や配布資料による説明を行う。 各課題終了時に完成した課題作品を提出してもらい評価をする。 フィードバックの仕方：課題制作の詳細については担当講師が制作実演、またサポート、デザインなどのアド		

	バイスを行う。 オリジナル作品課題について、講師より作品への評価、アドバイスをコメント記載し、返却する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E：それぞれの提出課題と、オリジナリティを求めて授業へ取り組む姿勢を評価する。 課題提出80%、授業姿勢20%、
テキスト	なし プリント資料を配布
参考書	各ファッション雑誌、SNSなど
履修上の注意	細やかで地味な作業もある集中力のいる実習であることを理解したうえで受講すること。 積極的な好奇心と自由な発想でもって制作に取り組むこと。 薬品や火器、その他怪我をする可能性のある工具による作業があるので、十分に注意して作業に取り組むこと。
アクティブ・ラー ニング	実習、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
平林芳子			
ナンバリング：F12C24			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	染色の基礎技法であるロウケツ染め、型染め、絞り染めの表現方法、素材との関係、工程について学ぶ。基本の染め方による試作を行なった後、各技法に適したデザインを考え染色作品を完成させる。染色の基礎技法を実習することにより、ファッションやインテリアにおけるテキスタイルデザインの特徴についての理解を深める。 (授業目標) ○D:既存の染色作品に関心を持って知識を深め、技法や工程を理解した上で作品に活かすことができる。 ◎E:技法や素材、工程について理解した上で、その特徴を活かしたオリジナルのデザインによる染色作品を制作することができる。
授業計画	1 ガイダンス・ロウケツ染めのバンダナ制作（1）（実習：1～15回） 制作課題についての説明・ロウケツ染めの素材、技法、表現についての説明・ロウケツ染めの試作を染める 2 ロウケツ染めのバンダナ制作（2） ロウケツ染めの試作を染める・デザイン画を描く 3 ロウケツ染めのバンダナ制作（3） デザイン画を実物大に描く・布にロウを置く 4 ロウケツ染めのバンダナ制作（4） 反応染料による彩色 5 ロウケツ染めのバンダナ制作（5） ロウを取る・仕上げ・作品提出 6 型染めのエコバッグ制作（1） 型染めの素材、技法、表現についての説明・型紙の作り方考え方をプリントで演習 7 型染めのエコバッグ制作（2） デザイン画を描く→Google Classroomに提出 8 型染めのエコバッグ制作（3） デザインを実物大で描く・型紙を切り抜く 9 型染めのエコバッグ制作（4） 顔料で試作を染める・顔料でエコバッグに染める・仕上げ・作品提出 10 絞り染めのバンダナ制作（1） 絞り染めの素材、技法、表現についての説明・絞り染めの試作を染める・デザインを描く→Google Classroomに提出 11 絞り染めのバンダナ制作（2） デザインを描く・デザイン画を実物大にする・布を縫う 12 絞り染めのバンダナ制作（3） 布を縫う 13 絞り染めのバンダナ制作（4） 縫った糸を絞る 14 絞り染めのバンダナ制作（5） 藍による浸染・乾燥 15 絞り染めのバンダナ制作（6） 絞った糸をとる・仕上げ・作品提出
学習成果・到達目標・基準	○D:既存の染色作品などから興味あるデザインを選択して模倣することができる。 ◎E:基本的な技法による染色作品を制作することができる。
事前・事後学習	事前学習：積極的に展覧会や美術館に行くなど、さまざまな商品、作品を見て見識を深めておくこと。技法や工程などを資料や動画で予習しておくこと（60分） 事後学習：授業で学んだ表現方法をもとにアイデアを進展させておくこと。また、技法や工程などを資料や動画で復習しておくこと。（30分）
指導方法	実習作品の全体像を把握できるように、技法と表現について解説する。 課題毎にサンプルの試作または、演習をして理解度を高める。 参考作品を提示して具体的なデザインの考え方や作業工程、注意事項などを説明した上で実習を進める。 フィードバックの仕方：デザインアイデアのスケッチに対してGoogle Classroomも活用して、技法に適したアドバイスをする。 Google Classroomにデザイン画の提出（学生）→アドバイスを記入し返却、または授業中にアドバイスを→再提出

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D:提出課題により、技法についての理解度を評価する。 E:提出課題の完成度を評価する。 提出課題90%、授業態度・貢献度10%
テキスト	なし 資料をプリントで配布、またはGoogleClassroomにアップする
参考書	なし
履修上の注意	探究心と興味を持って作品の制作に取り組むこと。 課題の作業工程を把握し、進行状況にも気を配りながら作品の完成度を高めること。
アクティブ・ラー ニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F13C25	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>小中高校でも金融について学ぶ時代となった今、将来は企業に就職するだけでなく、副業、起業、個人事業などワーキングスタイルは多様化していく。労働に対して報酬を受け取るという受け身の姿勢から、自分自身が経営者の視点を持ち利益創出を目指す事も求められていく社会になる。そこで自分自身の価値を最大限発揮できる仕事をするためには、ビジネスについての広く深い知識を持つ事が必要不可欠となる。この講義ではビジネスの基本となる「会社」について深く学ぶ。会社とは何か？会社の使命は何か？会社のしくみは何か？など会社を経営する視点から組織についての理解を深める。</p> <p>株式、金融、暗号資産、メタバースなど新たな時代の会社経営の知識にも触れる。</p> <p>身近なファッション、ビューティ、ウエディングなどの業界の企業を例に学びながら、自然に経営的視点を取得する事を目指す。</p> <p>【関連する科目】起業論（1年後期）/ウエディングナビゲーション/ファッションデジタルマーケティング（2年前期） （授業目標）</p> <p>◎D：会社のしくみを理解し、組織図を読み解く事ができる。事業計画書や決算書などを読み解く事ができる。 ○C：企業情報から経営状態を分析したり、今後の方向性を示す事ができる。</p>
授業計画	<p>01 この授業で学べる事 経営を学ぶ事により、自分の将来の働き方について軸のある計画を立てられるようになる。経営学がもたらしてくれる恩恵について学ぶ。</p> <p>02 会社って何だろう？ 会社という概念とその社会的意義。何のために会社は存在するのか？を学ぶ。</p> <p>03 企業理念は何故必要なのか？ どの企業にもある企業理念。その目的をミッション、ヴィジョン、バリューの三段階に分けて役割と具体事例を学ぶ。</p> <p>04 会社を構成する人達1 トップマネジメント、ミドルマネジメント、スタッフという3層に分けて会社に属する役割と立場を学ぶ。</p> <p>05 会社を構成する人達2 組織図を見ながらそこで働く人達がどのような役割でどのような仕事をするのか、職種別に学ぶ。</p> <p>06 人事異動と人事評価 会社に勤めると必ずしも希望する職種の仕事ができるわけではない。同時に働く場所も異動の事例が出ることもある。組織を運営するために、何故転動や異動があるのかを考える。また社員の評価はどのようにすると平等性やモチベーションがあがるのかを探る。</p> <p>07 会社の種類 よくみかける「(株)」という言葉。これが意味することは何か？4つの会社の種類とその違いを学ぶ。</p> <p>08 会社の1年 学校に学年があるように企業にも一年という営業期がある。1年を4つに分割して経営を計画していく企業ならではの1年間の動きを学ぶ。</p> <p>09 会社に入るお金、出るお金 会社を経営するためには売上利益が必要だが、会社を維持するためには必要な経費もある。入るお金、出るお金のバランスをどうとっていくか。具体的事例を通じて学ぶ。また経営に必要な事業計画書のしくみを学び、計画的な経営手法を通じて企業経営の哲学を学ぶ。</p> <p>10 決算書という答合わせ 経営が健康に営まれているかどうかを見極めるために、決算書のしくみと読み方を学ぶ。それにより、一般企業の経営状態も読み取れるようになる。</p> <p>11 メタバースと暗号資産 デジタル時代に特有なメタバースの世界観とビジネスへの応用、また資産価値としての暗号資産のしくみと経営への活用方法を学ぶ。</p> <p>12 企業経営研究1 著名な企業の経営の歴史を、授業を通じて学んだ視点から分析し、その企業の魅力を探る。</p> <p>13 企業経営研究2 著名な企業の経営の歴史を、授業を通じて学んだ視点から分析し、その企業の魅力を探る。</p> <p>14 企業経営研究3 著名な企業の経営の歴史を、授業を通じて学んだ視点から分析し、その企業の魅力を探る。</p> <p>15 経営学から学んだ事 14回の授業を通じて学んだ経営的視点が自分の生活にどのような変化を生んだのか、またその経験を今後の就職活動にどのように生かせるかを振り返る。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎D：会社のしくみを理解し、自分の就職活動に役だてる事ができる。 ○C：会社の特徴や個性を理解し、自分の適性に照らし合わせる事ができる。</p>

事前・事後学習	事前学習 (20分) : 事後学習 (25分) :
指導方法	就職活動で「会社」を選ぶ際に、実は会社という組織そのものについての詳しい知識がないことが多い。多様性の高い社会で働く将来のためにも、会社についての知識を高めながら、同時に会社の価値や働き方についての思考力、判断力を磨いていく。 難解に捉えられている経営学を、日常の視点に置き換えてわかりやすく指導する。 理解に欠かせないディスカッションや意見の共有などアクティブ・ラーニングを中心に経営理論が自然に身に着く手法を取り入れている。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題の提出率と内容による評価 ○C：課題の提出率と内容による評価 授業への貢献度・積極性：40% 課題：60%
テキスト	無し
参考書	無し
履修上の注意	各自ノートパソコンを持参。 自分の価値を最大限発揮できる仕事を目指す人に役立つ内容です。将来、より自由によりアクティブに仕事を楽しめるようになるための基本となる知識を得ることができます。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F13C26	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「卒業したら就職」という従来の選択肢から「卒業したら起業」という選択肢もある時代に、アントレプレナーという起業家の視点から起業について学ぶ。学生生活の身近なテーマから商品企画や販売方法などを自ら考え、ビジネスモデルを構築する。</p> <p>【関連する科目】経営学入門（1年前期）／ウエディングナビゲーション(1年前期)</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：アントレプレナーに求められる主体性を磨き、他責ではなく自己責任を負う視点からビジネスモデルを構築する事ができる。</p> <p>○C：ビジネスを成功させるために、客観的視点を持ち、冷静な分析や明確なヴィジョンを創り出す事ができる</p>
授業計画	<p>01 アントレプレナーという働き方を知る 起業するとはどういうことか？起業するのに必要な考え方は？</p> <p>02 会社を作るためにこれだけは必要 会社設立に最低限必要な物や手続きとは？</p> <p>03 売るものを考える《ワークショップ1》 会社の利益を生み出す商品。まずはどんな商品を売るのがよいのかをワークショップを通じて考える。</p> <p>04 売るものを考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、商品企画、商品製造について学ぶ。</p> <p>05 売る相手を考える《ワークショップ2》 ビジネスはターゲットを絞り込み、詳細な分析をする事が成功の基になる。自分の商品はどんな人達に向けて売りたいのかをワークショップを通じて考える。</p> <p>06 売る相手を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、ターゲットの絞り込みと特徴について学ぶ。</p> <p>07 売り方を考える《ワークショップ3》 店舗展開、ECなど商品の売り方はさまざま。資金や経験がない環境でどんな売り方があるのかをワークショップを通じて考える。</p> <p>08 売り方を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、販売戦略、販売方法について学ぶ。</p> <p>09 広め方を考える《ワークショップ4》 広告やSNS発信など、自分の商品をどのようにして認知してもらうかをワークショップを通じて考える。</p> <p>10 広め方を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、広告手法について学ぶ。</p> <p>11 売り続け方を考える《ワークショップ5》 ビジネス設計の時点からリピーターを想定することはビジネスの必須要素。ワークショップを通じてリピーターをどう創出するかを考える。</p> <p>12 売り続け方を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、リピーターが生まれやすいビジネスモデルについて学ぶ。</p> <p>13 起業のドレスリハーサル1 個人又はグループで商品企画、ターゲットティング、販売戦略、広告戦略、再来のしくみというプロセスに沿って起業の青写真を作成する。</p> <p>14 起業のドレスリハーサル2 個人又はグループで作成した事業計画のプレゼンテーション</p> <p>15 起業のドレスリハーサル3 個人又はグループで作成した事業計画のプレゼンテーション</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：アントレプレナーの精神を理解できる ○C：企業がどのように誕生するのかのプロセスを理解できる
事前・事後学習	事前学習（20分）： 事後学習（25分）：
指導方法	身近な出来事をヒントにし、起業という一見難しそうな出来事を具体的事例を交えながらわかりやすく指導する。ワークショップと理論を交互に学ぶ事によってより実践的な学びができる。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：課題と成果物による評価。 ○C：課題と成果物による評価 授業への貢献度・積極性：30% 成果物:30% 課題：40%

テキスト	無し
参考書	無し
履修上の注意	各自ノートパソコンを持参。 将来起業やEC(イーコマース)などを考えている学生には役立つ内容です。起業には興味がなくても、起業の視点を学ぶ事により組織での仕事のレベルが上がります。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F13B27	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	基礎を振り返りファッションビジネスの変遷に伴うアパレル業界の仕組みの変化を理解する。特にファッショントレンドと商品のライフサイクルの関係をマーケティング面・マーチャンダイジング面にて理解する。またアパレル会社の利益構造も理解しながら今後のファッション産業の展開を予測する。 (授業目標) ◎D：ファッション業界の仕組みを知ること、ファッション業界のブランドビジネスを理解する。
授業計画	<p>1 ファッション業界研究 本講義の概要説明、日本のファッション業界の歴史および仕組み、その現状について 2-8回は”ファッションビジネス [I]”教材を使用しファッションビジネスの基礎を習得する</p> <p>2 ファッションビジネス [I] 第1章について ファッションビジネスの概要について 小テスト</p> <p>3 ファッションビジネス [I] 第2章について ファッション消費と消費者行動について 小テスト</p> <p>4 ファッションビジネス [I] 第3章について アパレル産業と小売産業について 小テスト</p> <p>5 ファッションビジネス [I] 第4章について ファッションマーケティングについて 小テスト</p> <p>6 ファッションビジネス [I] 第5章について ファッションマーチャンダイジングについて 小テスト</p> <p>7 ファッションビジネス [I] 第6章について ファッション流通について 小テスト</p> <p>8 ファッションビジネス [I] 第7章について ビジネス基礎知識について 小テスト</p> <p>9 アパレルマーチャンダイジングのフロー ファッショントレンドと商品のライフサイクル、商品企画から生産管理の流れについて シーズントレンド商品の売れを検証 (課題)</p> <p>10 ファッションマーケティングの実務 ファッションビジネスのプレス・広告宣伝活動 ファッション雑誌タイアップページ分析 (課題)</p> <p>11 マーチャンダイジングの知識 1 SPAアパレルの年間52週のMD戦略について 年間型数表作成 (課題)</p> <p>12 マーチャンダイジングの知識 2 月度のアイテム計画とVMDについて 月度MD表作成 (課題)</p> <p>13 アパレル会社の収益構造 SPAアパレルの特徴及びSPAアパレルの収支計画について 月度収支計画プラン作成 (課題)</p> <p>14 ファッショントレンドとマーケットについて ファッショントレンドとマーケットの関係について オリジナルブランドカセットMD (課題)</p> <p>15 今後のファッション業界の展望 今後のSPAビジネス、EC、セカンドハンドウェアビジネス、個人ブランド等について</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：日本のファッション業界の仕組みを説明できる。
事前・事後学習	事前学習；ファッション誌やファッションサイト等で最新のファッショントレンドの知識を深めておくこと。 課題・小テスト対策として、次回授業計画の内容を調べておく (60分)。 事後学習；実店舗やECサイトを企業と顧客、双方の視点から分析すること (120分)

指導方法	パワーポイントや画像を使用し講義形式で行う。毎回授業内での小テストの提出、および課題提出がある。毎回テーマ毎に進めていき、今後のファッションビジネスプランを作成する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：課題・定期試験を評価する。 定期試験50%、課題20%、小テスト15授業、態度・貢献度15%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	ファッションビジネス [I] 一般財団法人 日本ファッション教育振興協会 前半にて使用 授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネット・SNSなどで最新のファッションやビジネスに関する情報を得ておくこと。 また、今後のファッションビジネスの可能性と変化に興味を持つこと。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F13C28	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションの「表現」や「買い方」は、この10年間で大きく変容し多様化した。「服」は脇役となり、日本のファッションビジネスはいまや変革の時期を迎えている。本講義は、ファッションスタイル視点からより豊かなライフスタイルを提案できるようになることを目的に、時代別・年代別のファッションコミュニケーション表現についてあらゆる視点から考察する。さらに、トレンド把握や今後のファッションコミュニケーション手法の変化を考察していくとともにそれを自己表現する。 (授業目標) ◎D：ファッション業界で必要となる様々なファッション表現を解説できる。
授業計画	<p>1 ファッションコミュニケーションとは 本講義の概要、ファッションとコミュニケーションの関係、流行のファッションとその主張と表現の関係について</p> <p>2 中世ヨーロッパのファッションコミュニケーションの特徴 中世ヨーロッパの階級・宗教とファッション表現の関係 テーマ設定によるキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>3 近世ヨーロッパのファッションコミュニケーションの特徴 近世ヨーロッパの社会情勢とファッション表現の関係 近世ヨーロッパのファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>4 1940-50年代のファッションコミュニケーションの特徴 戦後の消費価値観の変化と10人1色の時代のファッション表現 50年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>5 60年代のファッションコミュニケーションの特徴 60年代ライフスタイルのファッション表現 60年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>6 70年代のファッションコミュニケーションの特徴 70年代ライフスタイルのファッション表現 70年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>7 80年代のファッションコミュニケーションの特徴 ライフスタイル啓蒙による10人10色への変化とファッション表現 80年代日本独自のファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>8 90年代のファッションコミュニケーションの特徴 ストリートファッション台頭による1人10色への変化とファッション表現 90年代ストリートファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>9 近未来のファッションコミュニケーション予測 将来の生活環境変化予測 2050年頃のライフスタイルキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>10 ノンバーバルコミュニケーション ノンバーバルコミュニケーションの役割について テーマに沿ったワークショップ</p> <p>11 世代別比較 マーケティングコミュニケーションの手法、世代別コミュニケーション・ミレニアルとZ世代の比較 Z世代のスタイルイメージマップ作成 (課題)</p> <p>12 ファッションスタイルのPR表現 ライフスタイルや生き様からくるファッションスタイルについて そのスタイルイメージのPRツール作成 (課題)</p> <p>13 セグメンテーション セグメンテーションによるターゲティング及びポジショニングの関係 (STP) 今後のファッション業界の変化予想 (課題)</p> <p>14 トrendから来るファッションコミュニケーション 社会現象に基づくトレンド予測 (WGSN社) について ファッショントレンド予測シナリオの検証 (課題)</p> <p>15 D to C の今後のビジネス展開 B to B, B to C そしてD to C のビジネス形態・コミュニケーション手法および今後の展開と変貌 ストーリーマーケティングに関して (課題)</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッション業界に影響を及ぼした様々なファッション表現を理解する。
事前・事後学習	事前学習：日本経済新聞、日経MJ、WWD、アエラそしてビジネスサイトに目をとおり、最新のビジネス情報を得

	る。授業内課題対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（90分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（90分）。
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。授業内でのリアクションペーパーおよび課題提出がある。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：最終課題・授業内課題を評価する。 最終課題50%、授業内課題30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどでファッションビジネスに関する記事をチェックすること。 映画、舞台芸術、美術館へ行き感性を養うこと。 授業内・課題作成にてPC使用（主にパワーポイント・ワード）
アクティブ・ラー ニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F13C29	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションブランドプロデュースにおいて、アパレル業界の基礎知識を習得した上で特にSPAアパレル業態での事例を論理的に理解することを目標とする。 トレンド分析によりマーケットの変化を予測し、ブランドプロデュース業務の各段階を理解するために、簡単なポートフォリオを作成し方法論を習得する。 またブランド運営に必要な視点も養い、時代に合ったファッションブランドを立案することを目的とする。 ◎D：ファッションブランドのプロデュース手法を習得する。		
授業計画	1	ブランドプロデュースとは 本講義の概要説明、アパレルブランドプロデュースについて、アパレル基礎知識及び職種について	
	2	ファッション業界の現状 ブランドプロデュースケーススタディー、アパレル業界の仕組みについて	
	3	既存ブランド分析 ハイブランド・SPAブランド・個人ブランドなどのアパレルビジネスについて	
	4	ブランドコンセプト アパレルブランドのコンセプト設定について	
	5	ターゲット アパレルブランドのセグメンテーションとターゲティングについて	
	6	コレクションブランド分析 トレンドの流れ、コレクションブランドのトレンド分析手法の解説及びトレンドイメージマップ作成（課題）	
	7	商品企画 商品イメージに基づく商品企画の手法解説、コンセプトワークイメージマップ作成（課題）	
	8	マーチャンダイジング 主にSPAアパレルのマーチャンダイジングについて	
	9	店舗設計とVMD 販売チャネルとショップ内装プラン及びVMDについて、ショップイメージマップ作成（課題）	
	10	広告宣伝・販売促進 アパレルブランドのプレス及びプロモーションプラン活動について	
	11	トレンドセミナー 外部専門講師による業界向けトレンドセミナー、英国トレンドフォーキャスターWGSN社のトレンド予測資料使用	
	12	トレンドフォーキャストレビュー WGSN社の資料をサマライズし、解説及びレビュー	
	13	トレンドレビューに沿ったオリジナルブランド企画1 WGSN社のトレンド予測に沿ったオリジナルブランドのコンセプトワーク（コンセプト・ターゲット設定）作成	
	14	トレンドレビューに沿ったオリジナルブランド企画2 WGSN社のトレンド予測に沿ったオリジナルブランドの商品イメージマップ作成	
	15	オリジナルブランドレビュー 外部現役講師による学生オリジナルブランドの講評及び実際のオリジナルブランド運営業務内容についての講演	
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッションブランドのプロデュース手法概要を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：本学図書館において指定されている書籍やファッションブランドに関する知識を得ておくこと。（90分） 事後学習：作成した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアをもとにアップデートすること。（90分）		
指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚的媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。テーマ単位で理解確認のため小テスト実施や課題制作をする。現役の専門職講師による講演等を用意しファッション業界の現状理解を促進させる。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する 定期試験40%、課題30%、小テスト10%、授業態度・貢献度20%		

テキスト	なし 参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	授業内で指示する WGSN社トレンドフォーキャスト資料を授業内に配布
履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、ファッション大辞典、PEV、マリークレールビジュアール、VOGUE、BAZAAR、View、Wearを一読すること。 授業内PC使用（主にパワーポイント） 1年後期「ブランドプロデュース演習」は、本科目を単位取得済みであることが履修の条件となる。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F13C30	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	自己仮想ブランドを構築し、時代の流れを理解した上で実践的なブランドポートフォリオを作成することを目的とする。 自己ポートフォリオを基に、理論的にプレゼンテーションする手法を習得する。 ◎A：ブランドプロデュースに対してマーケットの積極的な調査を行い、自分の考えをまとめる力を身につける。 ○E：自分の考えを資料に落とし込み、論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 マイブランド企画について 本講義の概要説明、マイブランド企画のポートフォリオ作成の解説</p> <p>2 マーケット状況分析 ブランドプロデュース論で習得した方法論にて現在のファッションマーケットを分析する。 ブレインストーミング及びプレゼンテーションを行う</p> <p>3 マイブランド企画1（ブランド名・ブランド概要） マイブランドのブランド名及びロゴ決定、ブランド概要決定</p> <p>4 マイブランド企画2（ブランドコンセプト） マイブランドのコンセプト設定</p> <p>5 マイブランド企画3（ターゲット） マイブランドのターゲット設定</p> <p>6 マイブランド企画4（商品） マイブランドの商品イメージマップ作成・アイテム展開・プライスレンジ設定</p> <p>7 マイブランド企画5（ショップ） マイブランドの”クリック&モルタル”的なイメージショッププラン作成</p> <p>8 プレゼンテーション1 マイブランドのコンセプトワークプレゼンテーション及びレビュー</p> <p>9 マイブランド商品企画1（スタイリング） マイブランドのスタイリングプラン作成（描絵）</p> <p>10 マイブランド商品企画2（商品企画） マイブランドの商品企画（描絵）</p> <p>11 マイブランド商品企画3（MD 1） マイブランド立ち上げ用ミニマムユニット商品構成企画（描絵）</p> <p>1 2 マイブランド商品企画4（MD 2） マイブランド立ち上げ用ミニマムユニットMDプラン作成</p> <p>13 プレゼンテーション2 マイブランドの商品企画プレゼンテーション及びレビュー</p> <p>14 マイブランドブラッシュアップ 修正点コメントを考察しブラッシュアップした最終プラン作成及び提出</p> <p>15 マイブランドレビュー 外部現役講師も交えたマイブランド企画課題のレビュー及び解説</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：ブランドプロデュースに対して積極的な調査を行い、課題に取り組むことができる。 ○E：自己ブランドにおける自分の考えを人前で説明することができる
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査などから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分） 事後学習：情報収集した内容を基にファッションブランドの運営についてまとめる（25分）。
指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら個人ワークをワークショップ形式で行う。 個別プレゼンテーションを積極的に実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：課題の取り組みや授業の貢献度を評価する。 E：プレゼンテーションを評価する。 課題40%、プレゼンテーション30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	映画、舞台芸術、美術館等に行き完成を養い、図書館で「日経MJ新聞」や『WWD』等を読んでおくこと。 授業内PC使用（主にパワーポイント）、猫絵あり。 本科目は、1年前期「ブランドプロデュース論」を単位取得済みであることが、履修条件である。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F23C31	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	現代の企業経営では、“マーケティングなくして経営なし”と言われるように、マーケティングは不可欠な位置づけにある。企業のマネジメントを遂行するためには、マーケティング機能をいかに統合的に組み合わせて展開するかが課題である。本講義では、企業経営におけるマーケティングの役割やポイントについて理解を深める。 (授業目標) 企業経営や組織運営に不可欠なマーケティングの役割を理解し、自分の見解や主張をまとめることができる。 ◎D：理論にもとづいて、企業や組織が取り組むマーケティング戦略の事例について考察し、現状と課題を述べるができる。
授業計画	<p>1 マーケティングとは マーケティングの歴史的変遷、現代企業におけるマーケティングの役割について</p> <p>2 顧客価値と顧客満足 顧客が得られるベネフィットとコストとの関係、コストパフォーマンスについて</p> <p>3 マーケティング環境の分析 SWOT分析とポーターの5つの競争要因について</p> <p>4 マーケティング・ミックスの重要性 STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）戦略、ペルソナ分析について</p> <p>5 マーケティング・リサーチ 定性と定量調査、アンケート調査、観察調査、行動観察、インタビュー調査について</p> <p>6 ブランド戦略 ブランド要素、ブランド拡張、ブランド・エクイティ（資産価値）について</p> <p>7 製品戦略 製品ライフサイクル理論とイノベーション普及理論について</p> <p>8 価格戦略 内的参照価格、消費者心理を考慮した価格政策について</p> <p>9 流通戦略 直接流通と間接流通チャネルの特徴、店舗とネットの融合について</p> <p>10 販売促進戦略 プッシュ戦略とプル戦略の違い、値引きのネガティブ効果、景品表示法について</p> <p>11 マーケティング・コミュニケーション 広告の変遷、消費者反応プロセス、コミュニケーションのノイズについて</p> <p>12 サービス・マーケティング サービスの特性（無形性、同時性、消滅性など）、優れたサービスの定義（SERVQUAL）について</p> <p>13 リレーションシップ・マーケティング パレートの法則、CRM（カスタマーリレーションシップマーケティング）について</p> <p>14 経験価値マーケティング SENSE（感覚）、FEEL（喜怒哀楽）、THINK（思考）、ACT（行動）、RELATE（交流）について</p> <p>15 ソーシャル・マーケティング 企業の社会的責任（CSR）、コーズ・リレーテッド・マーケティングについて</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：マーケティングの基礎理論および用語を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日々のニュースから企業が取り組むマーケティング戦略について確認しておくこと（90分）。 事後学習：興味ある新聞記事やニュース内容をまとめておくこと（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認のため実施する授業内小テスト課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。

参考書	「基礎コース マーケティング」小原 博著、新世社出版
履修上の注意	日頃からニュースなどで企業が取り組むマーケティング戦略を確認しておくことで、マーケティングの基本的な発想法を単なる知識としてではなく、感覚として身につけることを望む。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F13C33	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション小売業において、良い商品、価値のある安さの提供は、どこの店でも当たり前であり、店の差別化の条件とはいえなくなっている。そのため、お客様に豊かな衣料サービスを提供できる販売スタッフが求められている。本講義では、ファッション販売に必要な接客技術や事務管理、商品知識、売場づくりの方法について解説する。また、ファッション小売業の現状と課題、進展についても取り上げて講義を行う。7月、12月に実施される「ファッション販売能力検定3級」の受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) ファッション業界で活躍できる人材として「ファッション販売能力検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：日々のニュース、店舗調査などからファッション小売業の現状と課題をあげ、解決方法を述べるができる。		
授業計画	1	ファッションビジネスの知識 ファッション産業の分類、商品計画の流れについて	
	2	ファッション小売業の構造と特徴 ファッション小売業の業態、百貨店、専門店の特徴について	
	3	SPAとセレクトショップ 企画から販売方法、組織形態の違いについて	
	4	ファッション小売業のマーケティング戦略 セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングの設定について	
	5	コンセプトの策定 トレンド情報の収集、シーズンコンセプト、スタイリングテーマについて	
	6	営業計画の策定 営業期、品揃え計画、販売促進計画、売場レイアウトについて	
	7	売場構成、商品陳列の基本知識 VMDにおける3つの手法、空間構成の種類、商品陳列の基本技術について	
	8	販売員の業務内容と基本マナー 開店から閉店までの基本的な業務内容、接客用語、電話対応、クレーム対応と処理について	
	9	購買心理の7段階 販売の流れと販売員の基本動作、コンサルティングセールスについて	
	10	顧客管理の基本知識 顧客満足経営の重要性、固定客づくりについて	
	11	売場における計数管理 予算比、前年比、客単価、値入高と粗利益、商品回転率について	
	12	ファッション商品の知識 アイテム・デザインによる分類、ディテール、シルエット&ラインについて	
	13	素材の知識 素材の種類、その長所と短所、柄について	
	14	サイズ・品質表示 サイズの読み方、組成表示、取扱表示、原産国表示、品質マーク表示について	
	15	店舗調査の項目と方法 売場概略、商品特性、商品構成、価格帯、売場づくり、客層、接客サービスについて	
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッション販売員に必要な基礎知識である業務内容、商品知識、売場づくりの方法について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：日々の新聞やニュース、店舗調査などからアパレル小売業の現状に触れる。分からない専門用語を調べてまとめておくこと（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュース、店舗調査内容をまとめる（90分）。		
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%		
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。		

参考書	「ファッション販売3 ファッション販売能力検定3級公式テキスト」大沼淳著、一般財団法人 日本ファッション教育振興協会発行 「ファッション販売3 ファッション販売能力検定試験3級公式問題集」一般財団法人 日本ファッション教育振興協会発行
履修上の注意	「ファッション販売能力検定試験3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「服飾造形論」「ファッション素材論」を併せて受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F13C34	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	マーケティングの基本理念は、消費者の利益を第一に考えた経営活動を行うことにある。その消費者のニーズに対応した商品を仕入れたり、つくらせたりする計画と管理の機能をマーチャンダイジング（商品計画）とよぶ。本講義は、商品計画の業務内容である商品企画から仕入活動、売場陳列に至る一連の流れを明らかにしながら、店舗運営の重要性について解説する。「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：小売業における商品計画から仕入、売場陳列のしくみを理解し、店舗運営の知識を修得する。
授業計画	<p>1 マーケティングとマーチャンダイジングの違い メーカーと小売業における4Pの違いについて</p> <p>2 小売業のマーケティング戦略 外部環境と内部資源の把握、標的市場と商圈の設定について</p> <p>3 マーケティング・ミックスの構築 商品構成、価格設定、流通、販売促進について</p> <p>4 商圈の設定と出店の基本知識 商圈の特性、出店のねらいと原則について</p> <p>5 マーチャンダイジングの構成要素 商品計画から商品管理、5つの適正について</p> <p>6 商品計画の意義およびその構造 具体的な内容と策定方法、品揃えの幅と奥行について</p> <p>7 仕入計画の立て方 商品カテゴリー別の予算編成と留意点について</p> <p>8 仕入方法と発注方法 大量仕入と当用仕入、定量発注法と定期発注法について</p> <p>9 売価決定の要素 売価と原価と利益の関係、値入高と値入率について</p> <p>10 戦略的な価格政策と心理的価格政策 消費者心理に基づいた価格政策について</p> <p>11 利益の構造 商品ロスの基本的な原因、粗利益高、粗利益率について</p> <p>12 商品回転率と交差比率 商品回転率および日数の算出方法、貢献度分析手法について</p> <p>13 商品陳列の基本知識 陳列器具と販売方法における基本陳列の種類について</p> <p>14 VMDの基本 売場におけるVMDの手法について</p> <p>15 売場演出の技術 店内照明の種類と役割、ディスプレイ効果を高める色彩の活用について</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：小売業における店舗運営の流れを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新製品や店舗運営に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、受講態度・貢献度20%、小テスト10%、課題10%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。

参考書	「販売士ハンドブック（基礎編）～リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応～」日本商工会議所編、株式会社キャリアック 「1回で合格！リテールマーケティング検定3級過去問題集」上岡史郎著、成美堂出版。
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「販売管理」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F13C35	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	小売業における販売管理とは、事務管理から人事管理、法規、経営に関する分野まで多岐にわたる。本講義は、販売員の知識として必要な法規から経営に関する計数管理について解説していく。「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：小売業経営に必要な人事管理、販売管理の留意点、財務諸表の見方、販売活動に関する法規の知識を修得する。
授業計画	<p>1 販売員の目的と役割 販売員と顧客の関係、クレームや返品への対応について</p> <p>2 販売活動に関する法規 売買契約、割賦販売、訪問販売、通信販売に関する法規について</p> <p>3 不当景品類の規制 総付景品、一般懸賞、共同懸賞の最高額および総額の制限について</p> <p>4 不当表示の防止 規制の目的、商品名原材料、性能・品質、信用誤認の表示について</p> <p>5 金銭管理の基本知識 金券類の扱いと代金支払い方法の種類について</p> <p>6 慶弔進物の基礎知識 包装の種類、和式進物包装について</p> <p>7 小売業における人事管理 ワークスケジューリング、人時生産性について</p> <p>8 顧客の購買心理過程 顧客心理と接客販売技術について</p> <p>9 顧客管理の基本的役割 顧客満足経営の基本知識、FSP（フリークエントショッパーズプログラム）について</p> <p>10 POSシステム POSシステムのしくみ、販売データの活用方法について</p> <p>11 在庫管理の意義 過剰在庫の発生原因、金額および数量管理について</p> <p>12 損益計算書の見方 4つの費用と5つの利益について、損益分岐点売上高の計算方法について</p> <p>13 貸借対照表の見方 流動比率、当座比率、固定比率、固定長期適合率、自己資本比率の計算方法について</p> <p>14 商品の安全確保に関する法規 薬事法、PL法、JAS法、消費期限と賞味期限の違い、トレーサビリティについて</p> <p>15 小売業におけるリスクマネジメント 万引き防止対策とセキュリティシステムについて</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：販売員に必要な法規や計数管理について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で小売経営や販売に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、受講態度および授業への貢献度によって評価する。 定期試験60%、小テスト20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。

参考書	「販売士ハンドブック（基礎編）～リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応～」日本商工会議所編、株式会社キャリアック 「1回で合格！リテールマーケティング検定3級過去問題集」上岡史郎著、成美堂出版。
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「店舗運営」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F14C36	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>漠然としたウエディング業界について、深く理解することができるようになる、ウエディング業界のナビゲーター、案内役としての位置づけの授業。ウエディングの仕事に携わるために必要な仕事の哲学や、ウエディング独特のホスピタリティなどの基本的姿勢、仕事に欠かせない共感力コミュニケーション、および業界のしくみ、業種や職種など、最新の情報を学ぶことができる。リアルな現場で働くプロフェッショナルも講師として迎え、ウエディング業界を将来の就職の選択肢の一つとして捉えるための、客観的な判断ができるようになる。</p> <p>(授業目標) ○C：ウエディングの仕事と役割から適性を判断し、自己のキャリアデザインに結びつけられる。 ◎D：ウエディングビジネス業界についての幅広い知識を身に付け、共感力コミュニケーション、ウエディングホスピタリティの考え方を理解する。</p>
授業計画	<p>1 ウエディング業界に求められるホスピタリティ ウエディングビジネスに必要なホスピタリティの理論と姿勢をウエディングの視点から学ぶ</p> <p>2 ウエディングビジネスに必要な共感力コミュニケーション 人にしかできない仕事であるウエディングの仕事に欠かせない共感力コミュニケーションについて学ぶ</p> <p>3 ウエディング・マーケットの現状と未来 ウエディングビジネスが対象とする『結婚適齢層』について学ぶ また、今後のウエディングビジネスについてデータを元に予測する</p> <p>4 ウエディングビジネスの歴史 第二次世界大戦後からを中心にその歴史を学ぶ</p> <p>5 ウエディングビジネスの種別 会場編 ハードを中心とした会場ビジネスについて深く知る</p> <p>6 現場から見るウエディング会場の現状(ゲスト講師・衣川雅代氏) ゲストハウスを事例にした、会場ビジネスの現状を学ぶ 同時にウエディングビジネスの中心的な職業であるウエディングプランナーという仕事についてリアルな現状を知る</p> <p>7 ウエディングビジネスの種別 衣裳編 ウエディング業界で大きな役割を担う婚礼衣装業について詳しい知識を得る 同時にドレススタイリストという職業の魅力や特徴を知る</p> <p>8 現場から見る婚礼衣装業(ゲスト講師・榎丸三屋 頼金氏) 前回の講義で勉強した衣裳会社のビジネスを現場の視点でさらに深く理解する</p> <p>9 花嫁のためのホスピタリティを学ぶ(ゲスト講師・宝田ひろみ氏) 花嫁の美しさに責任を持って仕事をするとはどのような事かを、ドレスのアンダーウェアのコーディネーターの視点から学ぶ</p> <p>10 ウエディングビジネスの種別 集客業 ウエディングビジネスの要ともいえる集客ビジネスについて深く知る</p> <p>11 ウエディングビジネスの種類 宴会サービス編 ウエディングの現場オペレーションの花形職業であるの中心である宴会キャプテンの仕事について学ぶ</p> <p>12 ウエディングビジネスの種類 写真、映像編 女性に人気のフォトグラファー、ビデオグラファーについて仕事について深く知る</p> <p>13 ウエディングビジネスの種類 ヘアメイク編 花嫁ビューティの要、ヘアメイクやサロンワークについて深く知る</p> <p>14 ウエディングビジネスの種別 その他の業種 ジュエリー、フロリスト、S&Lプランナー、司会者など、周辺業務について深い知識を得る</p> <p>15 ウエディングビジネスのキャリアデザイン 自分がウエディング業界に進む場合のキャリアデザインを行う</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：ウエディングの仕事と役割を理解し、自己のキャリアデザインの参考にすることができる ◎D：ウエディングビジネスの種別を説明することができる
事前・事後学習	事前学習：授業内で興味を持ったビジネス種別や企業についてWEBなどで調べてみること。(90分) 事後学習：授業内での未知のワードやウエディングビジネスの種別について、まとめのノートを作成する。(90分)
指導方法	基本は座学形式。最新の正しい情報を提供しつつ、可能な限り具体的な企業名、商品名、企画名などを紹介し正確な業界の姿を伝える。なお、ゲスト講師の授業回では、ゲスト講師の所属する企業を事前調査させ、授業内質問コーナーを設け、エキサイティングな時間とする予定である。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C:レポートや発言が授業で知り得た知見に基づいたものであるか評価する。 D:授業内の質問シート、お礼状、テキストのリーディングシート、3種別の提出物等の出来映えで評価する。 定期試験50%、授業への貢献度20%、質問シート10%、お礼状10%、リーディングシート10%
テキスト	究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 コスモ21 プリント配布：テキスト『共感力の鍛え方』を精読するためのリーディングワークシート ウエディング業界基本用語クエスチョンシート 業種特性比較一覧表 3名のゲスト講師へのお礼状
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングセレモニー」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。 単位確定の学生は、(一般社団法人)日本ホスピタリエ協会のホスピタリエ認定の受験資格が得られる。
アクティブ・ラー ニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
ナンバリング：F24C37	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	我が国における結婚式という儀式の意味を正しく理解し、それを通じて広く人生儀礼の重要性について気づきを得る。模擬結婚式の企画と実施を学生チームで行うことから、チーム内のコミュニケーション能力を磨き、結婚式に携わる仕事の楽しさと責任を経験し、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。 (授業目標) ◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って最後までチームでやり遂げることができる。 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングすることができる。		
授業計画	1	ウエディングセレモニーに求められるホスピタリティ ウエディングセレモニーに関わる上で必要とされるホスピタリティの理論と姿勢	
	2	結婚式の意味と意義 何故結婚式が必要なのか？その大切さを人生儀礼の視点から学ぶ	
	3	結婚式の歴史とハード 結婚式のスタイルの変遷と結婚式が行われる舞台の種類と特徴を学ぶ	
	4	キリスト教式の結婚式 ウエディングビジネスに必要なキリスト教の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	5	神前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な神道の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	6	人前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な人前式の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	7	人前式の企画手法 人前式を企画する企画理論を学び、事例を通じてより理解を深める 学んだ企画理論をもとにケーススタディとして人前式の進行を考える	
	8	コンセプト立案 グループワーク 1 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) 具体的なカップル像をケーススタディとし、コンセプトを創る	
	9	進行の決定 グループワーク 2 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPより拾い出し) コンセプトに基づいた進行を創る (音楽演出手法を学ぶ)	
	10	進行の決定 グループワーク 3 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を創る	
	11	進行の決定/ドレスとその他ウエディングビューティ グループワーク 4 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン、HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を作る コンセプトに基づいた花嫁、花婿、その他全員のビューティを企画する	
	12	進行の確認とリハーサル グループワーク 5 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 進行を再確認し、『場当たり』をする	
	13	進行の確認とリハーサル グループワーク 6 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする	
	14	進行の確認とリハーサル グループワーク 7 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする	
	15	模擬結婚式 (夏期休暇中) ゲスト講師：赤星講師・印南講師) (グループワーク、実習、プレゼンテーション) (スマートフォン：リハーサル・本番撮影、チーム内検証) 会場入り→準備→リハーサル→本番→引き上げまでを実施	
学習成果・到達目標・基準	◎A：模擬結婚式を責任感を持って実施することができる。 ○E：ウエディングセレモニーの進行に人前式の3つの柱を正しく組み込むことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業毎にアイデアが必要になるため、メモを書き留めておくなどの準備をする。(30分) 事後学習：模擬結婚式の実施に必要な知識を正しく理解し、ノートに図示する。(60分)		
指導方法	第1回目から第7回目までは知識の修得が中心で、パワーポイントを使った講義形式。		

	<p>また、毎回穴埋め式のオリジナルプリントを用い、ノートがもう一つの教材になるような仕組みとする。画像、映像などビジュアルツールを豊富に使用し、また具体的な事例も挙げ、興味を持って授業に臨める環境をつくる。</p> <p>第8回目から第12回目までは、グループワークとなるため、毎回の授業のテーマや着地点などが明確になるように、オリジナルワークシートを活用する。</p> <p>フィードバックの方法：ワークシートにより担当教員と双方向コミュニケーションをとることが可能となり、実習に対する不安や悩みの解消につなげる。なお、これにより、授業の最後に目標とした作業が完了しているかどうかを確認可能となり、次回授業までの課題が明確になる。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って実施しているかの観点 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングできているかの観点 A：第2回から第7回までの授業内で行う前回授業についてのミニテスト 模擬結婚式準備貢献度</p> <p>模擬結婚式の完成度20% 模擬結婚式準備貢献度20% 模擬結婚式実施貢献度20% 振り返りシート20% ミニテスト20%</p>
テキスト	<p>究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会</p>
参考書	<p>究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会</p>
履修上の注意	<p>夏のオープンキャンパスにて模擬結婚式の実施を予定 ウエディングの知識をさらに高めるため、「ウエディング ナビゲーション」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。 ブライダルコーディネーター技能検定要件科目</p>
アクティブ・ラーニング	<p>グループワーク、実習、プレゼンテーション</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
佐野みゆき			
ナンバリング：F14C38	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティデザインの手法を学ぶ。特に花嫁のインナービューティに関わる視点から学習し、挙式までのさまざまなビューティのプログラムを習得し、花嫁のトータルコーディネイトが企画立案できるように身につける。 （授業目標）花嫁心理についても学び、デリケートな花嫁との接客力も身に付ける。 ○D：ウエディングドレス、ヘアメイク、エステティック、ジュエリーなど企業研究を通じてウエディングビューティビジネスに関わる基本的知識を身に付ける。 ◎E：マーケットに合致したコンセプトづくりから具体的な花嫁のウエディングをビューティの視点で企画提案ができる。
授業計画	1 ウエディングビューティについての考え方を学ぶ（クリッカー・意識調査） ウエディングビューティに関わるスタッフが持つべきホスピタリティの理論と姿勢および共感力コミュニケーションを駆使した花嫁心理の理解とカウンセリング手法を得る。 2 婚装衣装の基礎知識（クリッカー：意識調査） 国内外の婚装衣装の歴史と衣装の基礎知識を学ぶ。また、コーディネート手法についても触れる。 3 招待客の装い（クリッカー：意識調査） ウエディングゲストの衣装の正しいマナー、知識を得る。また、新郎の衣装についても触れる。 4 ブライダルスタイリストという仕事（クリッカー：意識調査） ウエディングドレスのディテールの名称やデザインの種類とパーソナルカラーとパーソナルスタイルに基づいたドレス選びの手法を得る。 5 ブライズビューティプログラム①インナービューティ（クリッカー：意識調査） インナービューティの考え方を習得し、花嫁の挙式までのビューティプログラムについて基礎知識を得る。 6 ブライズビューティプログラム②ブライダルエステのメニュー（クリッカー：意識調査） ブライダルエステのメニューについて基礎知識を得る。また、挙式までのプログラムの考案ができるようになる。 7 ブライズビューティプログラム③ビューティスケジュール（クリッカー：意識調査） 花嫁のビューティスケジュールについてエステティック、ヘアメイク、ネイルの組み込み方について知識を得る。また、ヘアメイク、ネイルのコーディネートにも触れる。 8 ブライズビューティプログラム④ビューティエクササイズ（クリッカー：意識調査） ビューティエクササイズとして運動方法の手法を得る。また、花嫁の悩みに応じたアドバイスが出来るようになる。 9 ブライズビューティプログラム⑤ボディメイク(補正下着)（クリッカー：意識調査） 花嫁のインナーウェアについての基礎知識を得る。ドレス別に応じた使用事例にも触れる。 10 ブライズビューティプログラム⑥ニュートリション(栄養)（クリッカー：意識調査） ビューティに関わる食生活についての基礎知識を得る。美容や健康に必要な食品や摂取方法についても触れる。 11 ブライズビューティプログラム⑦モチベーション（クリッカー：意識調査） ブライズビューティを継続するための花嫁心理について基礎知識を得る。環境変化に応じた心理変化や挙式前の花嫁心理に触れ、カウンセリングのための心構えの手法を知る。 12 ブライズビューティプログラム⑧まとめ（クリッカー：意識調査） ブライズビューティプログラム①回から⑦回までのまとめとして自身のインナービューティプログラムを作成し、実際に自身で体感できる目標を設定する。また、コンセプト事例に沿った花嫁のビューティプログラムを考案する。 13 体型別ドレス選び（クリッカー：意識調査） 花嫁の体型別ドレス選びについて基礎知識を得る。また、ドレス小物合わせについても触れ、ヘアメイクやネイルについてもトータルでコーディネートする手法を知る。 14 ブライズビューティカンパニー①（グループワーク、プレゼンテーション）（クリッカー・意識調査） ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネートについてもプレゼンテーションする。見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する。 15 ブライズビューティカンパニー②（グループワーク、プレゼンテーション）（クリッカー・意識調査）

	ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネイトについてもプレゼンテーションする。見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する
学習成果・到達目標・基準	○D：洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティについて説明できる。 ウエディング企業をリサーチする視点を持てる。 ◎E：花嫁の希望に沿ったウエディングビューティのトータルコーディネイトを企画提案できる。
事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたブランドや企業について、ウェブや雑誌等で調査する。(30分) 事後学習：授業ノートをまとめ、カウンセリングのロールプレイングの練習をする。(60分)
指導方法	第1回から第13回まではパワーポイントを使った講義形式。クリッカーを使って学生の意識や理解を確認しながらすすめる。ビジュアルが大切な講義なので、画像や映像を豊富に使用。毎回知識についてのミニテストを実施。第14回から第15回は実習形式。トータルビューティの提案のためのプライズカルテを使用する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：新郎新婦の衣裳、およびウエディングコスチューム企業についての知識を持っているか。 E：コンセプトに沿ったウエディングビューティをトータルコーディネイトし提案することができるかを評価する。 授業への貢献度30%、プレゼンテーション30%、課題提出30%、ミニテスト10%
テキスト	・究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 ・ブライダルコーディネーターテキスト(スタンダード) B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会(前期に購入した方は不要) ・プリント配布 プライズカルテ ・パワーポイントフォーマット配布 プレゼンテーションのプロセス
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングナビゲーション」「ウエディングセレモニー」を履修することが望ましい。なお、ウエディングの接客についての知識は、アパレルをはじめあらゆる接客業に役立つものである。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
鈴木はるみ			
ナンバリング：F24C39			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングプランニングに必要な①傾聴、②企画、③提案を基本にした23段階の理論（23-Step）を学び、あらゆるカップルに対し、コンセプトualウエディングをプランニングする手法を学ぶ。 （授業目標）コンセプトメイクの手法を修得する。後半のケーススタディを通じて、ウエディングをはじめとするイベントプランニングの具体像を理解する。 ◎C：①傾聴、②立案、③提案の順序に沿ってコンセプトを導き出し、ウエディングのプランニングができる。 ○D：ウエディングのプランニングの23段階の理論（23-Step）を正しく説明できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. プランニングとは？（クリッカー：理解の確認） 演出の基本的概念と演出に使われる用語の意味を理解する。 2. プランニングの23-stepメソッド（クリッカー：理解の確認） 演出のための23段階の理論（23-Step）にわたるメソッドのしくみを理解する。 3. コンセプトメイク1（クリッカー・理解の確認） コンセプトの概念とコンセプトメイクの手法を学ぶ。 4. コンセプトメイク2（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） 事例に沿ってコンセプトメイクについての理解を深める。 5. ログラインとテーマ（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） ログラインとテーマの概念学び、事例分析をする。 6. コンセプトストーリーメイク（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） コンセプトストーリーの概念を理解し、コンセプトメイクの全体像を把握する。 7. アイテムへの落とし込み（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） コンセプトを各アイテムに落とし込む手法を学ぶ。 8. プランニングに必要なアウトプットフォーマット（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） 演出の現場で使われるフォーマットの種類と使い方を学ぶ。 9. レイアウト手法（クリッカー：理解の確認）（実習） レイアウトの基本とフォーマットへの落とし込み手法を学ぶ。 10. スクリプトの書き方（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） アイテムの選定、レイアウトの確定に沿ったスクリプトの書き方を学ぶ。 11. 音楽・照明・映像の演出手法（クリッカー：理解の確認） 音楽、照明、映像という時間軸演出の手法を演出機器の知識とともに学ぶ。 12. ケーススタディ①（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） ヒアリングデータ1を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを考えてみる。 13. ケーススタディ①（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） ヒアリングデータ1を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを発表する。 14. ケーススタディ②（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） ヒアリングデータ2を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを考えてみる。 15. ケーススタディ②（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習、プレゼンテーション） ヒアリングデータ2を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを発表する。
学習成果・到達目標・基準	◎C：提示されたコンセプトに沿ってプランニングをすることができる。 ○D：ウエディングのプランニングシート23段階の理論（23-Step）の概要が言える。
事前・事後学習	事前学習：用語帳の復習のうえ、ヒアリングデータを読みこんでおく。（90分程度） 事後学習：演出の専門用語を用語帳にまとめる。（90分程度）
指導方法	プランニングの基礎となる23段階の理論（23-Step）についての講義。 その理解を深めるために後半ではケーススタディを導入。授業の進行とともに学生自身が作成する専門用語の用語帳を活用。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：示されたケーススタディに対して、ふさわしいコンセプトを選ぶことができるか評価する。 D：示されたケーススタディからプランニングシートに記入することができるか評価する。 定期試験50%、授業への貢献度50%
テキスト	究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』著者 安東徳子 ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会

	(1年次に購入した方は不要)
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングレセプション」の履修が望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション

講義科目名称： ウエディング ビジュアルプレゼンテーション 授業コード： 1141
論

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：越智亮二）			
ナンバリング：F24C40	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ウエディングビジネスにおいて営業や集客のためのプレゼンテーションや広報する技術は、大変重要である。企業のHP、SNS、ロコミ等のメディアや情報ツールの比較検討や SWOT 分析を通じて広報の重要性とテクニックを学ぶ。実務の専門家による映像、写真、ペーパーアイテム、コラージュ、Webメディア、グラフィックデザイン、プレゼンテーションの授業構成からウエディングに係るビジュアルプレゼンテーションの理論と技術を修得する。 (授業目標) ○B：対象に合わせたプレゼンテーションを複数のビジュアル表現ツールを活用し、作成することができる。 ◎E：ビジュアル表現ツールを活用し、伝えるためのメディアデザインをすることができる。</p>		
授業計画	1	ウエディングとビジュアル・プレゼンテーション<ガイダンス> ビジュアル・プレゼンテーションの必要性を理解し、活用事例で理解を深める	
	2	webメディアデザイン <講師：越智>(クリッカー：理解の確認) 集客業務に必要なwebメディアの種類とクロスメディア手法	
	3	写真① <ゲスト講師> 撮影の基本を学ぶ	
	4	写真② <ゲスト講師> (実習) データの活用手法を学ぶ (web、アルバム、ペーパーアイテム、パンフレット等)	
	5	webメディアデザイン② <講師：越智>(クリッカー：理解の確認) 最新のHPメディアと今後の流れとSNSメディアの具体的な活用法と今後の流れ (色・フォント・デザイン) を学ぶ	
	6	映像① <ゲスト講師>(グループワーク) 撮影の基本を学ぶ	
	7	映像② <ゲスト講師>(グループワーク) データの活用手法を学ぶ (web、披露宴映像演出、PV等)	
	8	コラージュの手法 <ゲスト講師> コラージュで表現する世界観を学ぶ	
	9	コラージュの活用 <ゲスト講師>(グループワーク) 目的別コラージュの活用方法を学ぶ	
	10	イメージデジタルデッサン <ゲスト講師> 創り上げたヴィジュアルイメージを伝えるためのデジタルデッサンの手法を学ぶ ロゴ、エンブレムなどの活用手法を学ぶ	
	11	イメージデジタルデッサン<ゲスト講師>(実習) デジタルデッサンのワークショップ	
	12	ペーパーアイテム① <ゲスト講師> ウエディングのペーパーアイテムの種類とトータリティを学ぶ	
	13	ペーパーアイテム② <ゲスト講師>(実習) ウエディングのペーパーアイテムの種類とトータリティ	
	14	効果的なプレゼンテーション <講師：越智>(クリッカー：理解の確認) パワーポイントを活用し効果的なウエディングプレゼンテーションを学ぶ。	
	15	まとめとデモンストレーション (クリッカー：理解の確認) 各メディアを活かしたトータルプレゼンテーションのデモを通じてヴィジュアルプレゼンテーションの全容を理解する。	
学習成果・到達目標・基準	○B：得意とする1種類のビジュアル表現ツールを使い、プレゼンテーション資料を作成することができる。 ◎E：各ビジュアル表現ツールの活用方法がわかり、使用方法も理解している。		
事前・事後学習	事前学習：Classroom実習ノート（事前学習）に沿って課題に取り組む（90分） 事後学習：Classroom実習ノート（事後学習）のワークページを必ず完成させておく。（90分）		
指導方法	高い専門性をもつゲスト講師を招き、時代にマッチした知識と技術を合わせて学ぶ。 Classroom実習ノートを活用し、ビジュアルプレゼンテーションをトータルに理解できるようにする。 毎授業ごとに課題を定時しClassroom実習ノートに提出 ① 事前課題を提示 ② レポート提出 (学生) ③ 指摘事項を記入し返却 ④ 再提出		
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：授業内のワークで課題に相応しい表現ができること。 E：ウエディングに相応しいビジュアル表現ツールを活用した資料の作成方法を理解しているか。 定期試験50%、授業内のワークで作成した制作物30%、Classroom実習ノート提出状況と授業への貢献度20%		

テキスト	無し
参考書	
履修上の注意	履修者は、パワーポイントの基本操作が出来ることが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
ナンバリング：F34C41	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>これまで修得したウエディングの知識と技術を駆使し、模擬挙式に続き、模擬披露宴を計画し、実施する。チームで行うことを通じて授業目標を達成する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどのプロフェッショナルな視点で主体性をもって模擬披露宴を企画し実施することができる。</p> <p>○E：プランニングの23-stepに基づき、コンセプトに沿ったウエディングアイテムの制作、台本の執筆ができる。</p>
授業計画	<p>1 セレモニーとレセプション ウエディングの全体像を理解し、レセプションの役割を明確にする。</p> <p>2 パーティのスタイル 時間帯およびフォーマリティの違いによるパーティスタイルについて学ぶ。</p> <p>3 ウエディングメニューとビバレッジ ウエディングメニューとビバレッジの概念、条件、および種類について学ぶ。</p> <p>4 ウエディングケーキと引き出物・引き菓子 ウエディングケーキの歴史や演出に使う場合の方法やその演出効果、引き出物に関する考えかたや種類、そして引き菓子やプチギフトの種類を学ぶ。パーティのコンセプトや新郎新婦の特徴に合わせてのセレクトの仕方を学ぶ</p> <p>5 レセプションの進行 レセプションにおける効果的な演出例などを含みその進行とスクリプト作成の復習</p> <p>6 サービスコンセプトとオペレーション レセプションにおけるサービスコンセプトの考え方とそのオペレーションの種類について学び、模擬披露宴の場合のシュミレーションを行う</p> <p>7 ヒアリングの手法 4つのヒアリングの手法を理解し、ロールプレーイングを通じて体得する</p> <p>8 23段階の理論 (23-Step) に基づく、コンセプトメイク ウエディングプランニングで学んだ23段階の理論 (23-Step) に基づきコンセプトメイクの実習をする。</p> <p>9 レセプション実習① (グループワーク、実習) (スマートフォン) カップルデータ (ペルソナ) に基づき、コンセプトメイクを行う。この段階で花嫁・プランナー・司会・Food&beverage・会場装飾・司会・ブライズメイズなど、担当を決定し、その担当に分かれてグループワークを行う。</p> <p>10 レセプション実習② (グループワーク、実習) (スマートフォン) テーマカラー、テーマアイテムなどのコンセプトのアイテムへの落とし込み、自分の担当する役割の中でどのようにそれらを表現するかを個人ワークおよび並行してグループワークを行う</p> <p>11 レセプション実習③ (グループワーク、実習) (スマートフォン) ウエディングビューティプラン、ウエディングのテーマなどに合わせた衣装やヘアメイクの検討、ひいては新郎の衣装を外部会社に依頼するための資料制作</p> <p>12 レセプション実習④ (グループワーク、実習) (スマートフォン) 実施会場の決定とその場所のレイアウトや装飾やテーブルコーディネートを外部装花会社とウエディングメニューやケーキの相談を外部ケータリング会社と外部の会社担当と打ち合わせを行う</p> <p>13 レセプション実習⑤ (グループワーク、実習) (スマートフォン) 進行表とスクリプトの作成および本番の各役割の動き方のオペレーションプランを考える</p> <p>14 レセプション実習⑥ (グループワーク、実習) (スマートフォン) オペレーションプランに基づいたシュミレーション (リハーサルを行う)</p> <p>15 模擬披露宴 (グループワーク、プレゼンテーション) (スマートフォン) 模擬披露宴の準備、本番、片付け</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎A：模擬披露宴における自分の役割を責任もってやり遂げることができる。</p> <p>○E：施行準備を通じて、プランニングの23-stepの必要性が理解できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：B I A検定のテキストを読んでおくこと。(30分)</p> <p>事後学習：講義ごとにワークシートを完成させる。(60分)</p>
指導方法	<p>これまでに修得した知識に加え、この授業における第1回～第8回の座学で得た知識を総動員し、チーム内で模擬挙式にむけた計画を立案する。また、第9回～第14回までの講義にて、レセプションの準備をしつつ模擬披露宴を実際に運営することを通じて目標達成まで主体的に学ぶ力を身につける現場力を育成する</p>

	なお、模擬披露宴は学内で行う計画である。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	A:主体性をもって参加できているか、また、グループメンバーとチームワークをとりながら自分の業務を責任をもって行うことができたかの観点 E:コンセプトに基づいた表現や行動になっているかの観点 模擬披露宴の完成度30%、模擬披露宴実施準備の貢献度30%、模擬披露宴の実施日の貢献度20%、実習ノートの提出20%
テキスト	①ブライダルコーディネーターテキスト(スタンダード) B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会(1年次に購入した方は不要) ②究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21(1年次に購入した方は不要) ③ウエディング演出の23段階(23-Step) ④セレモニー実習ノート ⑤世界ブライダルの基本 出版社 日本ホテル教育センター
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングプランニング」、「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングナビゲーション」を履修することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
平本貴子			
ナンバリング：F14C42			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>着方の練習を重ね段階に合わせ帯結びを学ぶ。浴衣の着方、半幅帯の帯結びの技術を習得し、帯結びは基礎技術から創作まで行う。 浴衣や小物についても理解を深め、習得した技術を活かし楽しめることを目指す。</p> <p>(授業目標) ◎E：浴衣が正確に美しく着られ、オリジナルの帯結びができる。</p>
授業計画	<p>1 きもの基礎知識① 授業概要 授業に必要な浴衣・帯・小物などについて説明</p> <p>2 きもの基礎知識② きもの名称などについて説明 各自の小物の確認、浴衣のたたみ方</p> <p>3 きもの基礎知識③ 浴衣・小物アイロン掛け 浴衣のたたみ方</p> <p>4 浴衣の着方① 着方の練習、浴衣のたたみ方</p> <p>5 浴衣の着方② 着方の練習、浴衣のたたみ方</p> <p>6 浴衣の着方・半幅帯結び① 着方と帯結び『リボン結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>7 浴衣の着方・半幅帯結び② 着方と帯結び『リボン結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>8 レベルチェック 着方の技術レベルと浴衣のたたみ方を確認する</p> <p>9 浴衣の着方・半幅帯結び① 着方と帯結び『蝶々結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>10 浴衣の着方・半幅帯結び② 着方と帯結び『蝶々結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>11 浴衣の着方・半幅帯結び 着方と帯結び『蝶々結び応用編』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>12 浴衣の着方・半幅帯結び 着方と帯結び『つのだし風結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>13 レベルチェックと創作帯① 着方の技術が目標レベルに達しているかを確認する これまで習得した技術を活かし、オリジナルの帯結びを考える</p> <p>14 レベルチェックと創作帯② 帯結びの技術が目標レベルに達しているかを確認する これまで習得した技術を活かし、オリジナルの帯結びを考える</p> <p>15 半幅帯の創作発表 創作帯の発表と講評をする</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本の帯結びをしめ浴衣を着ることができる。
事前・事後学習	事前学習：日頃からきものや浴衣に関心を持ち、雑誌等で多くの情報を得る。(20分程度) 事後学習：Classroomの資料を活用し、授業で学んだ技術を復習する。(40分程度)
指導方法	マネキンやClassroomの動画などを使用して手順の説明をする。 一斉に演習に入るが、個々の技術レベルに合わせて指導していく。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E:レベルチェックと作品発表で評価する。 レベルチェック70%、作品発表10%、授業への貢献度20%
テキスト	なし プリント配布
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	第1回目の授業で、浴衣から小物まで各自用意する物の説明をする。 注意事項 半幅帯：作り帯は使用不可
アクティブ・ラー ニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：本田真理）			
ナンバリング：F15C43	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>スキンケア、メイクアップ、顔分析、色彩、皮膚、化粧品の知識を修得し、日常に取り入れるようにする。メイクアップの各工程についての理解を深め、最終的にはメイクアップを総合的に捉えてメイクアップをデザインできるようにする。</p> <p>また、「日本メイクアップ知識検定試験ベーシック」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設ける。</p> <p>（授業目標） ◎D：それぞれの人に合ったメイクアップの必要性を理解し、提案できる。</p>
授業計画	<p>1 スキンケア理論 授業内容ガイダンス スキンケアの目的とスキンケア化粧品の種類と特徴</p> <p>2 皮膚の基礎知識 顔の成り立ち スキントイプチェック方法</p> <p>3 ベースメイク理論 ベースメイクの目的とベースメイク化粧品の種類と特徴 肌色分析</p> <p>4 皮膚の専門知識 皮膚の構造と生理作用、紫外線の影響 肌トラブルのメイクアップ対応法</p> <p>5 チーク・ハイライト・ローライト理論 顔型分析とチーク・ハイライト・ローライト化粧品の種類と特徴</p> <p>6 アイブロウ理論 眉のバランス分析とアイブロウ化粧品の種類と特徴</p> <p>7 アイメイク（アイシャドウ・アイライン・マスカラ）理論 目のバランス分析とアイメイク化粧品の種類と特徴</p> <p>8 色彩とメイクアップ 色彩の基礎知識とカラーバランス・カラーデザイン</p> <p>9 リップ理論とメイクアップの効果 唇のバランス分析と口紅の種類と特徴 心理効果、視覚効果、錯覚効果</p> <p>10 顔分析と修整理論 顔型・顔バランスの修整 眉・目元・口元の修整</p> <p>11 オフィスメイク 好感が持たれるゴールデンバランスメイク</p> <p>12 イメージメイク 4つのイメージ分類とイメージポイント</p> <p>13 メイクアップの歴史とトレンド トレンドの作られ方と取り入れ方</p> <p>14 パーソナルカラーメイク パーソナルカラーの基礎知識とメイクアップへの応用方法</p> <p>15 メイクアップ分類 メイクアップデザイン分類と化粧品会社分類</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：メイクアップのそれぞれの工程を理解し、人に伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。（90分） 事後学習：授業内で学んだことを自分の顔で実践しておく。（90分）
指導方法	テキストやパワーポイントを使用して、講義形式で行う。 定期的に小テストを実施する。 メイクアップ理論の課題を提出する。 フィードバックの仕方：小テスト実施後及び課題提出後に質疑応答。
アセスメント・成績評価の方法・	D：定期試験、課題を評価する。 定期試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%

基準	
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 3級2級 公式テキスト (一般社団法人JMA)
参考書	
履修上の注意	メイクアップの理論を実践的に習得するために、自主的に自分の顔で実習する。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。 「メイクアップ演習B」は本講義の履修者に限り受講できる。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
久保田カオリ			
ナンバリング：F15C44	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>メイクアップの目的と効果を理解し、実際に自分の顔にメイクアップすることで体感し技術を身につける。客観的な視点から顔を分析しメイクプランを立てられるようにする。</p> <p>前半はメイクアップのそれぞれの基本的な技術を修得し、自分の顔で表現できるようにする。</p> <p>後半はイメージ理論に沿ったメイクアップの方法を理解し、それぞれのイメージメイクが表現できるようにする。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D:メイクアップに必要な基礎知識を理解できる。</p> <p>○E:イメージと現状との違いを的確に把握し、自分の顔にメイクアップで表現することができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス（実習：1～15回） 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、使用する道具についてメイクアップの効果と目的を考える</p> <p>2 スキンケアと美しい肌とは 皮膚の基礎知識とスキントypes・肌トラブルの原因について理解する 正しいスキンケア方法を習得する（マッサージで健やかな肌を育てる）</p> <p>3 ベースメイクのテクニック 肌色知識とトラブルカバーで美しい肌を作る コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダーを実習する</p> <p>4 チーク・ハイライト・シェーディングのテクニック 骨格の把握と立体を理解する チーク・ハイライト・シェーディングを実習する</p> <p>5 アイブロウのテクニック 基本のバランスと形・色を理解する ペンシルとパウダーで自然な眉を実習する</p> <p>6 アイメイクのテクニック 目元の観察と形・色の効果を理解する 基本のアイシャドウ・アイライン・マスカラを実習する</p> <p>7 リップのテクニック リップバランスと形・色による印象を理解する 基本の塗り方を実習する</p> <p>8 トータルバランスメイク メイクの強弱、バランスを考えたトータルメイクを実習する トレンドを取り入れたベーシックな「フレンチ・シック」を表現する</p> <p>9 顔のプロポーションと「印象分析」 自分の顔の特徴を客観的に分析し、インプレッションマップに基づいた印象タイプを理解する</p> <p>10 印象表現メイク「キュート」の理論とテクニック キュートメイクの理論を学び実習する</p> <p>11 印象表現メイク「フレッシュ」の理論とテクニック フレッシュメイクの理論を学び実習する</p> <p>12 印象表現メイク「クール」の理論とテクニック クールメイクの理論を学び実習する</p> <p>13 印象表現メイク「エレガント」の理論とテクニック エレガントメイクの理論を学び実習する</p> <p>14 印象分析によるイメージチェンジ① 自分の顔の分析を行い、現状とは異なるイメージへのチェンジメイクを考え、デザイン画を制作する (デザイン画の提出)</p> <p>15 印象分析によるイメージチェンジ② デザイン画を元にセルフメイクでトータルに表現する</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○D:メイクアップに必要な基礎知識を説明できる。</p> <p>○E:メイクアップの方法によって顔の印象が変わることを理解できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。(30分)</p> <p>事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3回は自分の顔で実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。(60分)</p>
指導方法	<p>・技術解説とデモンストレーションを行い、実際にセルフでメイクアップ実習を行う。 ⇒授業内でアドバイスを行う⇒Google Classroom にセルフメイクの写真提出⇒授業後におけるコメントへの</p>

	<p>質疑対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識テストと技術テストを実施する。 ⇒知識テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ⇒技術テスト結果にコメント記載のうえ返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ・メイクアップデザインの課題を実施する。 ⇒授業内でアドバイスをを行う⇒Google Classroom に課題結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>○D:メイクに必要な基礎知識に関する筆記テストを行い評価する。 ○E:トータルメイクアップの実技試験を行い評価する。 実技50%、課題30%、授業への貢献度20%</p>
テキスト	特になし
参考書	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト
履修上の注意	<p>実習は自分の顔で行うので、ノーメイクになることが前提となる。 実習のために肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 メイクアップ実習で必要な道具類を必ず各自で用意すること。 授業終了時にメイクを落とす必要がある場合も考えられるので、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。</p>
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：本田真理）			
ナンバリング：F15C45	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>メイクアップの必要性を理解し、人にメイクアップをする技術を身につける。相モデルの実習を繰り返し行うことで、モデルの特徴を捉えたメイクアップをできるようにする。前半はスキンケアテクニックとベースメイクテクニックの手順をマスターすることを重点的に行う。後半はタッチアップをするためのポイントメイクとポイントメイクオフを行う。</p> <p>また、「日本メイクアップ技術検定試験3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。（授業目標）</p> <p>◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを施術できる。</p>
授業計画	<p>1 メイクアップの事前準備（実習：2～15回） 授業内容ガイダンス 実習に必要なメイク道具についての説明、技術者としての心構え</p> <p>2 ポイントメイククレンジングテクニック 目・唇の皮膚構造を踏まえたアイメイク・リップメイククレンジング</p> <p>3 クレンジング・化粧水・乳液テクニック 骨格・筋肉を意識したベースクレンジング・化粧水塗布・乳液塗布</p> <p>4 ベースメイクテクニック（1） 肌色知識とファンデーション・パウダーのフィンガー・スポンジ・パフ・ブラシワーク</p> <p>5 ベースメイクテクニック（2） 肌色調整理論とコントロールカラー・肌トラブル理論とコンシーラー</p> <p>6 チーク・ハイライト・ローライトテクニック 顔分析・修整理論に基づいたチーク・ハイライト・ローライト</p> <p>7 アイブロウテクニック 美人バランスとペンシル・パウダーテクニック アイブロウオフテクニック</p> <p>8 アイシャドウテクニック アイバランスと3色グラデーション アイメイクオフテクニック</p> <p>9 アイライン・マスカラテクニック ペンシル・リキッドライナーとビューラー・マスカラ アイメイクオフテクニック</p> <p>10 リップテクニック リップバランスとラインバリエーション リップオフテクニック</p> <p>11 肌分析とスキンケアテクニック 15分でモデルの肌状態を把握するスキンケアテクニック ポイントクレンジング・ベースクレンジング・化粧水・乳液</p> <p>12 顔分析と修整ベースメイクテクニック 15分でモデルの顔分析に応じた修整ベースメイク コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダー・チーク・ハイライト・ローライト</p> <p>13 顔分析と修整ポイントメイクテクニック 20分でモデルの顔分析に応じた修整ポイントメイク アイブロウ・アイシャドウ・アイライン・マスカラ・リップ</p> <p>14 トータルメイクアップ（1） 50分でバランスメイクアップ スキンケア～ベースメイク・ポイントメイク</p> <p>15 トータルメイクアップ（2） 50分でバランスメイクアップ スキンケア～ベースメイク・ポイントメイク</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを提案できる。
事前・事後学習	事前学習：技術を自己研鑽する。（30分） 事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3人に実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。（60分）
指導方法	技術解説とデモンストレーションを行い、実際に相モデルでメイクアップ実習を行う。 技術テストを実施する。

	メイクアップ技術理論の課題を提出する。 フィードバックの仕方：実習時にコメントをする。授業内及び授業外で質疑応答。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E：トータルメイクの実技試験を評価する。 実技試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 3級2級 公式テキスト (一般社団法人JMA)
参考書	
履修上の注意	「メイクアップ論」を履修することが必須となる。 実習は相モデルで行うので、ノーメイクになることが前提となる。 相モデルで行うので、肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。
アクティブ・ラー ニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：西村リサ）			
ナンバリング：F25C46	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>メイクアップを施す対象である「顔」についての理解を深め、社会における「顔」の役割やメイクアップの必要性について見識を深める。多様性の時代において、それらを理解し、自らのフィールドで学んだことを実践できる力を修得する。メイクアップの持つ可能性について自身の見解を述べられるようにする。</p> <p>◎E：状況に合わせて必要なメイクアップを判断し、表現できる。 ○D：顔の持つ社会的な役割とメイクアップの多彩な方法を説明できる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、これまで学んだ事と応用演習について。メイクアップの役割を幅広く捉え、可能性を考えていく。</p> <p>2 「顔」「化粧」とは（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 社会活動における顔の役割、なぜ化粧をするのか考える。課題シートに記入し、シェア、プレゼンテーションを行う。</p> <p>3 ファッション業界とメイクアップ（ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる） ファッション業界では、どのようなメイクアップの役割があるのか考える。具体的にブランドを設定してメイクアップ実習を行う。</p> <p>4 表現とメイクアップ（ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる） 舞台、映像などの世界では、どのようなメイクアップの役割があるのか考える。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。</p> <p>5 女性の顔、男性の顔（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 性別における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。</p> <p>6 子どもの顔、老人の顔 年代における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。</p> <p>7 世界の「顔」と「化粧」 多様な人種と文化の元、違った顔の特徴や文化としての化粧、風習としての化粧について考える。</p> <p>8 顔と心（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 顔と心のつながりについて考える。メイクアップセラピーについて。</p> <p>9 自分の顔、他者の顔（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 自分の顔の特徴を客観的に理解する。自分の理想とするイメージに近づけるためにはどんなメイクアップが必要か考える。 他者の顔を観察し、魅力を見つける。主観的な良し悪しとなる表現は避け、説明することに挑戦する。</p> <p>10 人の魅力と美しさ 人の魅力と美しさとは何か、多様な美しさについて考える。</p> <p>11 時代と顔 時代と共に移り変わる化粧と、その背景にある社会情勢や精神性について知る。</p> <p>12 似合うメイクアップ (1) ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル実習。</p> <p>13 似合うメイクアップ (2) ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル実習。</p> <p>14 メイクアップの可能性について (1)（プレゼンテーション） 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。</p> <p>15 メイクアップの可能性について (2)（プレゼンテーション） 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。</p>

学習成果・到達目標・基準	◎E：メイクアップの方法によって顔の印象が変わることを理解している。 ○D：メイクアップの多彩な方法を理解している。
事前・事後学習	事前学習：次回授業のテーマに沿った資料、情報収集をする。(30分) 事後学習：課題となったテーマに該当する顔について、授業内容を振り返りながら観察する。電車の中、街中、身近な人、web上の画像など、題材となる顔を観て感じたことを課題シートに記入する。(30分)
指導方法	講義は、板書、パワーポイントなどの資料を用いる。アクティブラーニングやデモンストレーションを行い、実習（セルフメイク）を行う。 フィードバック方法： Google classroomを使用した課題、提出物については随時授業内にてレビューする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：試験でシチュエーションに合ったイメージのメイクアップを提案できるかを評価する。 ○D：課題において、メイクアップの方法を具体的に記述できているかを評価する。 実技30%、プレゼンテーション30%、課題20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 適宜データで資料を共有
参考書	なし
履修上の注意	一般的な「女性が美しくなるためのメイクアップ」に限らず実習（セルフメイク）を行う。授業終了時にメイクを落とす必要がある場合も考えられるので、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション シンク・シェア・ペア（質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） ブレイン・ダンプ（与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
浜口アヤ			
ナンバリング：F15C47	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ネイルとジェルに関する基礎理論を学ぶ。爪の名称や用具用材の特徴を知り、シンプルなデザインから繊細なアートまでを学ぶ。自分の爪を使って、ネイルケアやジェルネイルを施術する。ネイルデザインはネイルチップを使い、ジェルカラーの選び方、デザイン・色彩・パーツのバランスなどの演習を行う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を学び、理解する。</p> <p>◎E：課題に応じたネイルアートを作成し、いろいろな技法を修得する。</p> <p>個人制作では、ベーシックデザインを活かしてネイルチップの上にオリジナルのデザインを表現する。</p>
授業計画	<p>1 ネイルアート演習 1 について 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 学科：ジェルネイルの基礎知識。ジェルネイルとは。</p> <p>2 学科：爪の構造・爪の病気 ネイル検定の筆記試験に出る内容を中心に、爪への理解度を深める。</p> <p>3 マニキュア マニキュアに関する材料の使い方・ポリッシュの塗り方</p> <p>4 マニキュア 学科：爪の形 実技：爪の整え方</p> <p>5 マニキュア ネイルチップ、または自分の手を使用して練習する。</p> <p>6 教材の説明 ジェルネイル初回 教材の使い方。次回から始めるジェルの授業に向けての説明。</p> <p>7 ジェルネイル Basic ワンカラー・ラメグラデーション ネイルチップを使用して練習する。</p> <p>8 ジェルネイル Basic グラデーション・フレンチなど、社会に出た時の身だしなみを整える上で必要な手元の美容を学ぶ。</p> <p>9 ジェルネイル アート ネイルチップを使用して練習する。極細の筆を使用し、繊細なアートに挑戦。</p> <p>10 ジェルネイル トレンドアート その年の流行を取り入れて、トレンドのアートを学ぶ。</p> <p>11 ジェルネイル 応用 ネイルチップを使用して練習する。引き続き極細の筆で練習。</p> <p>12 ジェルネイル 柄の配置など、ネイルスクールでも学べないようなアートのコツを学ぶ。 ネイル以外の事にも活かせるバランスの取り方など、応用し可能性を広げる。</p> <p>13 ジェルネイル 応用 ネイルチップを使用して練習する。オリジナルのデザインを小さな世界に表現する。</p> <p>14 作品制作に向けて 作品制作にあたり、着物に合うデザインの作り方や和柄を中心としたアートの描き方。</p> <p>15 個人制作 作品提出 テーマ：「自分の為の成人式ネイル」 5本セット ※授業後に、制作レポートと共に提出。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を身に付け、デザインの名前、用具の名前を説明できる。</p> <p>◎E：課題に応じたネイルアートを作成できる。個人制作では、自ら考えたデザインを表現できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：ファッションや雑貨のデザイン、インターネットなどからネイルアートとして表現できるデザインの知識を得ておくこと。また、次週のネイルデザインの色決めをしておくこと。(30分)</p> <p>事後学習：授業で伝えた内容に関してレポートにまとめ、デザインの名前、用具の名前を覚えること。制作物は期日までに提出すること。(30分)</p>
指導方法	<p>ネイル概論では、爪の構造・名称・ジェルネイルの成分を学習。</p> <p>講師によるデモンストレーションを見た後に、練習。授業最後に作品提出。</p> <p>初めは、自身の爪を使ってネイルケア実習を行い、その後はネイルチップを使い、デザインのバランスを考えながら指導する。</p> <p>基礎アート、応用アートを修得し、修得後は個人作品を提出する。制作物で授業への理解度を確認し、評価する。</p>

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：ネイルに関する用語、デザインの知識を理解し、表現できているのかを評価する。 E：課題に応じたネイルアートの完成度を評価する。 課題70%、授業貢献度30%
テキスト	必要に応じて、プリントを配布
参考書	・NAIL MAX ・NAIL VENUS ・NAIL UP ・その他ファッション雑誌など
履修上の注意	2～4回目までのポリッシュの授業では、自身の爪を使用するため、ジェルネイルやスカルプチュアネイルなど、実習の妨げになるので外しておくこと。 初心者の方でも安心して受講できるよう、ネイルの基礎デザインから応用デザインまで幅広く学ぶことができる。 授業で制作したアート作品は全て提出し、成績として評価する。 使用教材は個人教材・共通教材のため大切に使うこと。
アクティブ・ラー ニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
浜口アヤ			
ナンバリング：F25C48	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	JNEC ネイリスト技能検定試験 3級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの知識・技能を修得する。 手指消毒、ポリッシュオフ、ファイリング、キューティクルクリーン、カラーリング、フラットアート「フラワー」の演習を行なう。 ※学生同士互いにモデル・プラクティスハンド・自分の手を使用。 (授業目標) ○D：爪の構造と働き、皮膚科学、爪の病気とトラブルなどJNECネイリスト技能検定試験 3級とジェルネイル検定初級取得レベルの知識を身につける。 ◎E：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートなどJNECネイリスト技能検定試験 3級とジェルネイル検定初級取得レベルの技能を修得する。
授業計画	<p>1 ネイルアート演習 2 について 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明。 ネイル検定 3級・ジェル検定のモデルについて。</p> <p>2 ジェルネイル検定初級 ジェル検定初級課題のアート”ピーコック”を学ぶ。</p> <p>3 ジェルネイル検定初級 赤いポリッシュと赤いジェルを塗る。</p> <p>4 ジェルネイル検定初級 学科：皮膚学 ※検定筆記試験対策</p> <p>5 ジェルネイル検定初級 ネイル検定 3級の手指消毒～ネイルケアまでを学ぶ。</p> <p>6 ネイル検定 3級 教材の説明・プッシャー・ニッパーの使用法 教材の使い方・プッシャーとニッパーの正しい使い方を学ぶ。</p> <p>7 ネイル検定 3級 教材配布 自分の手、または相モデルにてプッシャーとニッパーの正しい使い方を練習。</p> <p>8 ネイル検定 3級 テーブルセッティング 演習 1 で学んだ、ファイリングを再度確認。 ネイル検定 3級の手指消毒～ネイルケアまでの通し。</p> <p>9 ネイル検定 3級 プッシャー・ニッパーの使用法の復習。 手指消毒～ネイルケアまでをプラクティスハンド、または相モデルにて練習。</p> <p>10 ネイル検定 3級 学科：衛生と消毒 検定アートの説明</p> <p>11 ネイル検定 3級 検定アートも含めて、通し練習。</p> <p>12 ネイル検定 3級 これまで学んできた事の復習と共に、受験時の採点ポイントを抑える。 実技検定に合格するために必要な事を復習。</p> <p>13 ネイル検定 3級 検定アートも含めて、通し練習。</p> <p>14 実技テストについて(60分)・検定学科のテスト(30分) 筆記検定に合格するために必要な事を復習。</p> <p>15 演習 2 検定試験の実技テスト 検定を受験する為に必要な知識・理解度の実技テスト。</p>
学習成果・到達目標・基準	○D：JNECネイリスト技能検定試験 3級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの知識を修得する。 ◎E：JNECネイリスト技能検定試験 3級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの技能を修得する。
事前・事後学習	事前学習：3級ネイルアート「フラワー」のデザインを考える。 ネイル検定に必要な物の確認・用意しておく。(20分) 事後学習：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートを行う。 過去問題を繰り返し行い覚える。(40分)
指導方法	JNECネイリスト技能検定試験 3級、ジェルネイル検定初級の試験内容を把握する。 講師によるデモンストレーションの後、理解度・疑問点などを指導し、実技の練習がメインとなる。 後半授業では、検定試験同様のタイム入力をプラクティスハンドや相モデルで行う。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：JNECネイリスト技能検定試験3級の知識を提出課題で評価する。 E：JNECネイリスト技能検定試験3級の技能を工程、仕上りで評価する。 技術行程・仕上り70%、授業態度・貢献度30%、
テキスト	必要に応じて、プリントを配布
参考書	JNAテクニカルシステムベーシック
履修上の注意	実習の妨げになるため、ジェルネイル・スカルプチュアは禁止。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。
アクティブ・ラー ニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：関根教史）			
ナンバリング：F15C49	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容に関する基礎知識、マナー、基礎動作、道具・器具の使い方、ヘアアレンジの基礎、応用、流行、モード、ブライダル、イメージヘア、カジュアルアレンジヘアを取り入れた実習を行い、メイク、衣服との関連性や調和を解説しながらバランス感覚を養う。 (授業目標) 相モデル（ペア）演習、グループ演習を通し、コミュニケーション能力、協調性を高めながら、自身をキレイにし相手もキレイにすることを身に付ける。 ○B：ペアワーク、グループワークを通し、コミュニケーション能力を高めることができる。 ◎E：ヘアメイク演習を通し、トータル（ヘア、メイク、洋服）バランス能力を高めることができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス、道具の使い方（実習：1～5.7.9.11.15回） ブラシ・コム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>2 ヘアアレンジ基礎 一束・お団子シニヨン・三つ編みシニヨン、ピニング ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>3 ヘアアレンジ基礎 シニヨン・すき毛の使い方 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>4 ヘアアレンジ基礎 逆毛 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>5 ヘアアレンジ基礎 三つ編み・編み込み ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>6 ヘアアレンジ基礎（ペアワーク、グループワーク） アイロン ・ヘアデモンストレーション</p> <p>7 流行ヘアアレンジ・メイク（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>8 流行ヘアアレンジ・メイク（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション</p> <p>9 カジュアルヘアとモードヘアの違い（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>10 カジュアルヘアとモードヘアの違い（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>11 ブライダルヘア（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>12 ブライダルヘア（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション</p> <p>13 トータルで考えるイメージヘア（1）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン</p> <p>14 トータルで考えるイメージヘア（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン</p> <p>15 スタイル作成 ・技術確認</p>
学習成果・到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し相手に提案することができる。 ◎E：ヘアアレンジの基礎（編み込み、カジュアルアレンジスタイル）ができる。

事前・事後学習	事前学習として、ファッション誌、ビューティ情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。(45分) 事後学習として、授業で学んだ技術を復習しておくこと。(45分)
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	実習、ペアワーク、グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：関根教史）			
ナンバリング：F25C50	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容に関するマナー、動作、道具の種類等の基礎技術の確認を行う。ヘアアレンジ応用、道具の応用、美容器具の扱い方、流行アレンジヘア、ブライダルヘア、和装・洋装ヘア、創作ヘア、アレンジポイントテクニック、アレンジイメージ力を取り入れ、ヘアカウンセリングを通しトータルバランスを解説しながら創造力を養う。 （授業目標） 相モデル（ペア）演習、グループ演習、ヘアカウンセリングディスカッション能力、ヘアメイクを通し、トータルバランスを考えながらイメージをしたことを形にする力を身につける。 ○B：ペアワーク、グループワークを通し、ヘアカウンセリングのコミュニケーション能力を身につける。 ◎E：ヘアメイク実習を通し、イメージしたことをバランスを考慮し解説しながら形にする技能を高める。
授業計画	1 ガイダンス、道具の使い方、基礎技術確認（実習：1～6.8.9.11.15回） ブラシ・コム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 2 ヘアアレンジ確認と応用（1） ポイントスタイルアレンジ ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 3 ヘアアレンジ確認と応用（2） すき毛を使った応用テクニック ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 4 ヘアアレンジ応用（1） ボリュームスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 5 ヘアアレンジ応用（2） ルーズスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 6 ヘアアレンジ応用（3） 飾りの付け方バランス ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 7 ヘアアレンジ応用（4）（ペアワーク、グループワーク） 浴衣スタイル ・ヘアデモンストレーション 8 ヘアアレンジ応用（5） パーティースタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 9 カジュアルヘアとショーヘアの違い（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 10 カジュアルヘアとショーヘアの違い（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション 11 ブライダルヘア ・ヘアデモンストレーション 実習 ※ウィッグ、キーパー使用 12 トータルで提案するヘアメイク（1）（ペアワーク） ・トータルプランニング説明 ※スマートフォン 13 トータルで提案するヘアメイク（2）（ペアワーク） ※スマートフォン 14 トータルで提案するヘアメイク（3）（ペアワーク） ※スマートフォン 15 スタイル作成 ・技術確認

学習成果・到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し、キレイさと身だしなみを意識したヘアアレンジを身につける。 ◎E：ヘアアレンジの応用（美容器具の扱い方、TPOアレンジスタイル）ができる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、ビューティー情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。（45分） 事後学習：授業で学んだ技術を復習しておくこと。（45分）
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F25C51	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「トータルコーディネート論」で学んだ理論を実践に結びつける授業である。特に自分らしい装いに必要な似合うスタイルと色の選び方について、より実践的な力を身につけることにより、自分自身のアイデンティティ形成に活用できると同時に、他人へのコーディネート提案に自信をもてるようになる。後半はパーソナルカラーを生かしたビーズブレスレットを制作し、自分らしいスタイルと色による自己表現を実践する。</p> <p>(授業目標) ファッションが自分らしさの自己表現であることを実習を通して学び、目的に合ったトータルコーディネート提案ができる。</p> <p>◎C：パーソナルカラー診断をグループワークで行う時、接客力にも繋がる診断ができる。 ○E：パーソナルスタイルとカラーを生かしたブレスレットを制作することができる。</p>		
授業計画	1	スタイル診断（1） コーディネートのものさし 分析の軸 顔型と顔のパーツ分析	
	2	スタイル診断（2） 上半身の分析 下半身の分析	
	3	スタイル診断（3） スタイル診断結果まとめ	
	4	パーソナルカラー2級 序章、1章、2章 主な配色技法とパーソナルカラーへの活用	
	5	パーソナルカラー2級 3章、4章 クライアントを中心にしたアドバイス 色素をもとにしたコミュニケーション	
	6	パーソナルカラー2級 5章（1） 色素（肌・髪・眼）のアドバイス 3属性に基づくドレーピングの方法 ドレープによるパーソナルカラー診断（グループワーク）	
	7	パーソナルカラー2級 5章（2） ドレープによるパーソナルカラー診断（グループワーク）	
	8	パーソナルカラー2級 5章（3） ドレープによるパーソナルカラー診断（グループワーク） 診断結果のまとめ	
	9	パーソナルカラー2級 6章 似合う色・形・柄・質感の様々なアイテムへの取り入れ方	
	10	パーソナルカラー2級 7章（1） ファッション・ヘアメイク・ネイル・ブライダル・ブーケ	
	11	パーソナルカラー2級 7章（2） アドバイステクニック 似合う色を生かした配色の応用	
	12	パーソナルカラーを生かしたファッション パーソナルカラーを生かしたファッション例 パーソナルカラーを生かしたブレスレット	
	13	ブレスレット（1） パーソナルカラーを生かしたビーズ選び	
	14	ブレスレット（2） ブレスレット制作	
	15	ブレスレット（3） ブレスレット提出	
学習成果・到達目標・基準	◎C：パーソナルカラー診断を行うことができる。 ○E：色の特徴を生かしたブレスレットを制作することができる。		
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容を確認し、テキストの予習、課題の準備を行う（20分）。 事後学習：授業終了後、学んだことを振り返り、課題に取り組む（25分）。		
指導方法	トータルコーディネートに必要な技術として、パーソナルスタイルとカラーの考え方を生かしたファッションコーディネート、ブレスレット制作の実習を通して指導する。資格取得希望者にも対応できるように「色彩活用パーソナルカラー検定2級」テキストと問題集を活用する。 授業回ごとにパワーポイントを使用する。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：パーソナルカラー診断を評価する。 E：課題の完成度を評価する。 課題提出50%、小テスト20%、授業態度・貢献度30%
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト2級」改訂版（産経新聞出版） *「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」（一般社団法人 日本カラーコーディネーター協会） *「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社） *は、1年次購入したものがあれば継続使用できる。
参考書	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」改訂版（産経新聞出版）
履修上の注意	①「カラーコーディネート論」「カラーコーディネート演習」を単位修得済であることがこの科目を履修する条件である。 ②グループワークの際には、マウスシールドを使用する予定である。
アクティブ・ラー ニング	実習 グループワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、井上近子（契約講師：西村リサ）			
ナンバリング：1年生F36C52	ナンバリング：2年生F38C54	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ1は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。</p> <p>（授業目標） インターンシップ1は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。</p>
授業計画	<p>1 説明会（課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ① ウェディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合があります。</p> <p>5 インターンシップ研修 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後研修（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解しておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る。</p>
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	事前、事後研修、実習を5日間以上(40時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。

	<p>また、以下項目を基準に評価する。</p> <p>A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。</p> <p>B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。</p>
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	<p>インターンシップ1は授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。</p> <p>従って夏期は1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。</p> <p>自ら探した研修先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。</p> <p>インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2の違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。</p> <p>事前研修を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前研修の補講は原則行わないものとする。</p> <p>*新型コロナウイルス感染拡大に伴い、授業時間以外に行う説明会等はZOOMやオンデマンドになることもある。また、インターンシップ先の受け入れも感染状況に応じた対応に変更または中止される場合がある。</p>
アクティブ・ラーニング	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、井上近子（契約講師：西村リサ）			
ナンバリング：1年生F36C53	ナンバリング：2年生F38C55	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ2は、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。</p> <p>（授業目標） インターンシップ2は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ◎B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。</p>
授業計画	<p>1 説明会（課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ① ウェディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。</p> <p>5 インターンシップ研修 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修修了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後学習（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ◎B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解しておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る。</p>
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>事前、事後研修、実習を原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する</p>

	A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要なことを経験している。
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	<p>インターンシップ2は、授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。</p> <p>従って夏期は、1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。</p> <p>自ら探した研修先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。</p> <p>インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2との違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。</p> <p>事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。</p> <p>*新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、授業時間以外に行う説明会等はZOOMやオンデマンドになることもある。また、インターンシップ先の受け入れも感染状況に応じた対応に変更または中止される場合がある。</p>
アクティブ・ラーニング	特に無し

講義科目名称： キャリアゼミ：ファッション デザインゼミ 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
高橋佐智子			
ナンバリング：F37A54			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「ファッションデザインモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、演習、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 デザイン画における人体の理解を深め自分の世界観を表現し、それぞれ作品のポートフォリオを作成する。 (授業目標) ○C：独自のクリエイションを研究し、さらに将来のビジョンを思考できる。 ◎E：クリエイション技能を向上させ、制作したポートフォリオを使用したプレゼンテーションによって自分の世界観を的確に説明できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、課題について説明</p> <p>2 2年生とディスカッション 2年生から就職活動体験談やゼミでの学びの成果の発表を聞き、今後の指針を得る</p> <p>3 業界研究 工場見学 縫製工場を見学して業界研究を行う</p> <p>4 卒業生とディスカッション（デザイナー・パタンナー：職業観について話し合う） 社会で活躍している卒業生から就職活動体験談や現在の仕事内容を聞き、今後の指針を得る</p> <p>5 業界研究 アトリエ見学 ファッションデザイナーのアトリエを見学して業界研究を行う</p> <p>6 デザイナーとディスカッション（ゲスト講師） 現役デザイナーからファッション業界の現状を聞く</p> <p>7 スティリズム（ファッションデザイン）（ゲスト講師） スティリズムとは、人体の理解と表現 エクササイズ（コラージュなど）</p> <p>8 キャリア講座（1） 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う</p> <p>9 スティリズム（ファッションデザイン）（ゲスト講師） エクササイズ（鉛筆模写など） プロポーションの描き方を学ぶ</p> <p>10 スティリズム（ファッションデザイン）（ゲスト講師） 平面図の描き方</p> <p>11 キャリア講座（2） 2年生内定者による就職活動体験講話</p> <p>12 キャリア講座（3） 就職活動にあたり、業界の就職状況および今後の就職活動スケジュールを説明する</p> <p>13 スティリズム（ファッションデザイン）（ゲスト講師） デザイン画、着色、着装表現の描き方を学ぶ</p> <p>14 スティリズム（ファッションデザイン）（ゲスト講師） 自分の作品をまとめポートフォリオを完成させる</p> <p>15 スティリズム（ファッションデザイン）（ゲスト講師） 企業でのプレゼンテーションを想定し、ポートフォリオを使用して自分のデザインについて発表する</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：自分のキャリアを論理的に思考できる。 ◎E：制作したポートフォリオを使用したプレゼンテーションによって自分の世界観を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業時に表現できるようにファッションデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する（15分）。 事後学習：ムードボード、デザイン画、平面図など各回の課題を完成させる（30分）。
指導方法	論理思考をベースに、ディスカッション形式でキャリアデザインを進める。 学生の主体性と積極性を重視し、思考を深めるよう指導する。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③講評及び採点し返却、④授業後における採点について質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：ディスカッションの発言内容、課題の思考力を評価する。 E：作品の完成度とプレゼンテーション能力を評価する。 作品40%、プレゼンテーション30%、授業への貢献度30%

テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、ディスカッション

講義科目名称： キャリアゼミ：ファッション ビジネスゼミ 授業コード：
(経営)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F37A54	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「ファッション ビジネス (経営) モデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。ファッションビジネスや経営全般に関心のある学生を対象に、起業に関する基礎知識や技術など、実社会で活躍するために必要となるスキルを養うことを目的とする。 (授業目標) ◎E：事業の発案から起業までの概略ステップとASPカートの基本操作、SNS集客の基本を身に付け、実社会で活用することができる。 ○B：BASE等に代表されるASP (Application Service Provider) カートの仕組みを学び、メリット・デメリットを理解した上で簡単な仮想ECサイトを作成することができる。
授業計画	1 ガイダンス (ゲスト講師①) 本授業概要、他の科目経営学入門 (1年前期) / 起業論 (1年後期) / ファッションデジタルマーケティング (2年前期) との関係について 2 キャリア講座 (1) (キャリアセンター)、TOITA Fes キックオフ (学生部) 業界の就職状況および今後の就職活動スケジュールについて、TOITA Fes キックオフについて 3 事業計画書の作成 (1) (ゲスト講師②) 各自が頭の中に描いている漠然としたビジネスイメージを、事業計画書という形を通して具体的にまとめる。 概要の説明、共通言語の解説 4 事業計画書の作成 (2) (ゲスト講師③) プレゼンテーション 5 事業計画書の作成 (3) (ゲスト講師④) プレゼンテーション 6 起業までの流れを知る (ゲスト講師⑤) 法人化に必要な登記の準備、登記の仕方、個人事業主に必要な各種届 7 BASEを活用したECサイトの開設 (1) (ゲスト講師⑥) ASP (Application Service Provider) カートの種類と特徴、メリットとデメリット、操作方法の解説① 8 キャリア講座 (2) (キャリアセンター) 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う 9 BASEを活用したECサイトの開設 (2) (ゲスト講師⑦) ASP (Application Service Provider) カートの操作方法の解説② 10 BASEを活用したECサイトの開設 (3) (ゲスト講師⑧) 演習：グループごとにECサイトの作成 11 BASEを活用したECサイトの開設 (4) (ゲスト講師⑨) 演習：グループごとにECサイトの作成 12 BASEを活用したECサイトの開設 (5) (ゲスト講師⑩) 演習：グループごとにECサイトの作成 13 BASEを活用したECサイトの開設 (6) (ゲスト講師⑪) プレゼンテーション 14 SNSを活用したECサイトへの集客 (1) (ゲスト講師⑫) Instagram、Twitter、Facebook、YouTubeの特徴 15 SNSを活用したECサイトへの集客 (2) (ゲスト講師⑬) 成功事例を学ぶ、まとめ
学習成果・到達目標・基準	◎E：事業の発案から起業までの概略ステップとASPカートの基本操作、SNS集客の基本を理解する。 ○B：BASE等に代表されるASP (Application Service Provider) カートの特徴を学びメリット・デメリットを理解する。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく (20分)。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく (25分)。
指導方法	受け身で真面目に働く人材よりも、今は逆境の中で果敢にチャレンジする人材を社会は求めている。学生が思い描くビジネスアイデアを可視化することで「アントレプレナーシップ (起業家精神)」を育み、自分ゼロから事業を起こそうとする人材を輩出するために、可能な限りプレゼンテーションの場を作り、学生一人ひとりへ技術やアイデアについてサポートする。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E：課題と成果物による評価 B：課題と成果物による評価 授業への貢献度・積極性：30%、成果物:30%、課題：40%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	各自ノートパソコンを持参。 逆境の中で果敢にチャレンジする人を目指し、探究心と好奇心を持ち、演習やプレゼンテーションに積極的に参加してください。
アクティブ・ラー ニング	

講義科目名称： キャリアゼミ：ファッション ビジネスゼミ (企画) 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F37A54	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッション ビジネスゼミ (企画)」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。講義、演習、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 本ゼミナールは、ファッション業界の本部 (本社) でのMD・商品企画職種の役割と仕事内容を理解する。 (授業目標) ◎C：自分の考えを論理的にプレゼンテーションすることができる。</p>		
授業計画	1	ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界のしくみについて	
	2	キャリア講座 (1) (キャリアセンター) 就職活動のスケジュールと現状、活動内容について	
	3	本部の就職研究 (個人ワーク) アパレル本部の商品・営業・販売促進系統の職種・役割について	
	4	本部の職種研究 (プレゼンテーション) 希望職種内容の個別プレゼンテーション及びキャリアアッププランについて	
	5	業界研究・企業研究演習 (ワーク) 次週講演に関するアパレル企業の研究	
	6	ファッション業界の現状 (外部講師) ファッション業界における職種や現状と課題について	
	7	商品企画・MD演習 (ワーク) オケーション・モチベーション対応を意識した商品企画とマーチャンダイジング基礎演習	
	8	キャリア講座 (2) グループディスカッション (キャリアセンター) 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う	
	9	自己研究及び企業研究 (ワーク) ソーシャルスタイル分析とその応用、就職活動用企業研究・IR資料の読み方解説	
	10	ブランディング演習 (ワーク) PR視点でのファッションブランドのブランドブック作成	
	11	キャリア講座 (3) 2年生内定者による就職活動体験講話	
	12	履歴書作成及び自己PR文作成 (ワーク) 就職活動履歴書作成と会社研究を経ての自己PR文作成	
	13	自己PRプレゼンテーション (プレゼンテーション) 就職対応・個別プレゼンテーション	
	14	企業研究に基づく志望動機文作成 (ワーク) 志望会社を研究し、リクルート用としての志望動機文を作成	
	15	志望動機プレゼンテーション (プレゼンテーション) 就職対応・個別プレゼンテーション	
学習成果・到達目標・基準	◎C：自分の考えを論理的に説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく (20分)。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく (25分)。		
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業及びブランドの調査を行い、商品特性やプロモーション表現を学ぶ。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：プレゼンテーション、課題を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%		
テキスト	なし		

	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	ファッション業界及びファッション関連業界において就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、プレゼンテーション形式等で行う。 映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養うこと。 図書館にある「日経MJ」、「WWD」「アエラ」を一読することを望む。
アクティブ・ラーニング	・プレゼンテーション

講義科目名称： キャリアゼミ：ファッション ビジネスゼミ (販売) 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F37A54	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「ファッション ビジネスゼミ (販売)」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。ファッション業界の企業と職種を知り、店舗調査を通して販売に必要な知識を理解する。 (授業目標) ファッション業界における販売職に必要なスキルを理解し、自分の見解や主張を述べることができる。 ○B：グループワークにおける自分の役割を実行しながら、主体的に自分の考えをまとめる力を修得する。 ◎C：ファッション小売業における現状と課題をあげ、解決方法について論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	1 ファッション業界の基礎 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について 2 キャリア講座 (1) (キャリアセンター)、TOITA Fes キックオフ (学生部) 業界の就職状況および今後の就職活動スケジュールについて、TOITA Fes キックオフについて 3 企業研究 (1) (個人ワーク) 企業研究の目的、自分の志向に合う企業とは、志望動機を具現化する方法とは 4 企業研究 (2) (プレゼンテーション) 「企業研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り 5 キャリア講座 (2) 2年生内定者体験講話 就職活動の注意点とアドバイス 6 履歴書、ESの書き方 ガクチカ、自己PR、志望理由の書き方と注意点について 7 面接選考の注意点 グループ面接、グループディスカッション、個人面接の注意点について 8 キャリア講座 (3) (キャリアセンター) 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う 9 ファッション販売員の研究 (1) (グループワーク) 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは 10 ファッション販売員の研究 (2) (グループワーク) 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは 11 ファッション販売員の研究 (3) (グループワーク) 「ファッション販売員の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り 12 店舗運営の研究 (1) (グループワーク) 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは 13 店舗運営の研究 (2) (グループワーク) 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは 14 店舗運営の研究 (3) (プレゼンテーション) 「店舗運営の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り 15 ゼミの振り返り 春休み期間の就職活動について
学習成果・到達目標・基準	○B：グループワークにおける自分の役割を責任を持って実行できる。 ◎C：自分の考えを論理的に説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく (20分)。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく (25分)。
指導方法	パワーポイントを使用した講義とグループワーク形式で授業を展開する。特に、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。アパレル企業の店舗調査を行い、店舗運営の特徴やマーケティング戦略を学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：授業態度およびグループワークの貢献度を評価する。 C：プレゼンテーション、課題を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	業態を問わず、日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。 また、映画、美術館に行き感性を養い、図書館にある「日経MJ新聞」や「WWD」を一読することを望む。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ・プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
安東徳子、中村晴菜			
ナンバリング：F37A54	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ウエディングモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。専門のゲスト講師を招き、業界の専門知識やスキルを講義、演習から主体的に学修する。また身近な社会現象等も取り上げグループワークで討議を行い、プレゼンテーションで発表する力を養う。 (授業目標) ◎C：身近な社会現象に対し興味を持ち、思考力を働かせ考察する。 ○D：ウエディングホスピタリティを理解し、就職のための知識を身につける。</p>		
授業計画	1	ウエディングゼミガイダンス シラバス説明、ウエディングゼミ内容、目指す専門職種について考える	
	2	ウエディングゼミ個別指導 TOITAFesキックオフ、自己を振り返りシート作成をする	
	3	ウエディング業界の仕事に必要な『視点』とは（ゲスト講師①八芳園） ウエディングの現場見学で見ると学ぶべきこと、CWRIAのプロセス(事前課題を見学シートを使いながら明確にする)	
	4	ウエディング業界で求められる人とは（ゲスト講師②八芳園） 八芳園の見学をベースにウエディングプランナーやドレススタイリストに求められることを探る（現場で求められる8つの技能）	
	5	ウエディングプランナーの仕事とは（ゲスト講師③八芳園） ウエディングプランナーに求められること	
	6	ウエディングに関わる仕事とは(ゲスト講師④八芳園) ウエディングに関わる仕事を考える	
	7	非言語コミュニケーション 聴覚情報	
	8	SPI模擬試験（学科） 就職のための筆記試験対策としてSPI模擬試験	
	9	キャリア講座（キャリアセンター） 就職活動の取り組み方と業界の就職状況の説明	
	10	言語コミュニケーション（ゲスト講師⑤八芳園） あとよし言葉の使い方	
	11	内定者交流会 2年生ウエディング関連企業内定者による就職活動体験講話（ウエディングゼミ生対象講座）	
	12	ウエディング業界に通用口するエントリーシートと面接対応（ゲスト講師⑥八芳園） 自己分析と志望動機を書く視点を考える、面接の種類やその対応例について、自己分析シートを使い自分のストレスとウィークネスを知る	
	13	マイストーリーの発見と40秒自己PR（ゲスト講師⑦八芳園） 自己PRの元となるマイストーリーを探し当てそれを使った40秒の自己PRを書く	
	14	40秒の自己PR発表1（ゲスト講師⑧八芳園） 40秒の自己PRを発表(発表時間1分)、他者のPRを聞く事で訴求力のある自己PRの特徴を理解する	
	15	40秒の自己PR発表2（ゲスト講師⑨八芳園） 40秒の自己PRを発表(発表時間1分)、他者のPRを聞く事で訴求力のある自己PRの特徴を理解する	
学習成果・到達目標・基準	◎C：社会問題に対し、自分の考えを持ち討議できる。 ○D：ウエディング業界で働くために修得すべきことを理解できる。		
事前・事後学習	事前：各回毎のテーマについて、予習しておくこと。（20分） 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること。（25分）		
指導方法	通常の授業と違いゼミ形式で行うので、学生の主体性と積極性を重視する。 テーマ毎の課題提出をする。 フィードバックの仕方：添削を行いコメントを記載し返却する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：グループワークでの自己提案力と貢献度 D：ウエディング業界の理解度 課題60%、授業への貢献度40%		
テキスト	共感力の鍛え方 コスモ21総合出版（1年前期に購入済み）		

	プリント配布(式場見学シート、組織に求められる8つの適性、40秒の自己PRチェック表)
参考書	
履修上の注意	ウェディング関連企業に興味を持っていること。 ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク

講義科目名称： キャリアゼミ：ビューティゼミ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
平光くり子、井上近子（契約講師：西村リサ）			
ナンバリング：F37A54			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「ビューティモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 本ゼミナールは、美容業界を目指すための心構え、マナー、業界知識を身に付ける。 （授業目標） ◎D：美容業界のしくみや特徴、職種について理解できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス（新井） 本ゼミナールの概要、ビューティ業界について</p> <p>2 就職活動準備（1）（平光） ビューティゼミ2年生内定者による就職活動の流れについて</p> <p>3 職種研究（1）（ゲスト講師） 美容業界で活躍する人材とは</p> <p>4 職種研究（2）（ゲスト講師） 美容業界で働く方のキャリア、仕事内容について（1）</p> <p>5 職種研究（3）（ゲスト講師） 美容業界で働く方のキャリア、仕事内容について（2）</p> <p>6 職種研究（4）（ゲスト講師） 美容業界で働く方のキャリア、仕事内容について（3）</p> <p>7 就職活動準備（2）（ゲスト講師） ロジカルコミュニケーションについて</p> <p>8 キャリア講座（1）（キャリアセンター） 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う</p> <p>9 企業研究（1）（ゲスト講師） 企業の分析方法について</p> <p>10 企業研究（2）（ゲスト講師） 企業研究と企業の求める人材の推察（1）</p> <p>11 企業研究（3）（ゲスト講師） 企業研究と企業の求める人材の推察（2）</p> <p>12 企業研究（4）（ゲスト講師） 企業研究と企業の求める人材の推察（3）</p> <p>13 企業研究（5）（ゲスト講師） 企業研究と企業の求める人材の推察（4）</p> <p>14 キャリア講座（2） 2年生内定者による就職活動体験講話</p> <p>15 キャリア講座（3） 就職活動にあたり、業界の就職状況および今後の就職活動スケジュールを説明する</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：美容業界のしくみや特徴、職種について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：美容雑誌、インターネット等美容に関する最新情報を調べる（20分）。 事後学習：ゼミで学んだことを調べ、就職活動に役立てるようまとめておく（25分）。
指導方法	美容業界で活躍したい学生を対象にした就職活動準備のためにゲスト講師を招いて行うゼミナールである。希望職種を明確にし、そのためには何が必要かを考え主体的に学ぶ。各自の興味にもとづいた就職活動準備を行えるよう指導する。 フィードバックの仕方：課題については、授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：レポート、課題を評価する。 レポート40%、課題40%、授業態度・授業への貢献度20%
テキスト	なし

参考書	なし
履修上の注意	受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
中村公子、村木桂子			
ナンバリング：F37A54			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	各学生の将来を見据えて十分なガイダンスを実施しながら、最適な進路を選定する。 志望する大学の編入学試験に向けて綿密なスケジュールを策定し、計画的な学習支援を行う。 各自のスケジュールに合わせた個別指導を実施する。 (授業目標) ◎C：自らの将来を正しく選択するための思考力や判断力をを身につける。 ○D：短期大学での学びを基に、編入先の大学で通用する幅広い知識を得る。
授業計画	1 オリエンテーション・学習計画書の作成 編入に向けての準備オリエンテーション 学習計画書を作成し、編入試験までの道筋を立てる 2 進学準備カウンセリング (1)、情報収集・試験対策 (1) 各自の計画に沿って必要な支援を整える 情報収集の方法を知り、常に最新の情報に触れられるようにする 学科、小論文など試験に必要な対策を行う 3 情報収集・試験対策 (2) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 4 情報収集・試験対策 (3) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 5 情報収集・試験対策 (4) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 6 情報収集・試験対策 (5) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 7 情報収集・試験対策 (6) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 8 キャリア講座 (キャリアセンター) 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う 9 情報収集・試験対策 (7) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 10 情報収集・試験対策 (8) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 11 情報収集・試験対策 (9) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 12 情報収集・試験対策 (10) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 13 情報収集・試験対策 (11) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 14 情報収集・試験対策 (12) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 15 対策状況確認、進学準備カウンセリング (2) 編入に向け試験対策の状況確認をし、今後の対策を練る
学習成果・到達目標・基準	◎C：志望大学に関する情報を収集し、必要な対策を講じることで合格を目指す。 ○D：受験に必要な知識や表現力を身につける。
事前・事後学習	事前学習：志望大学の編入学試験の傾向を調べ、対策を行う (30分)。 事後学習：志望大学の編入学試験対策の復習を行う (30分)。
指導方法	志望大学の試験課題に応じ、必要な学科対策・論述及び面接指導を行う。 フィードバックの仕方：各課題に対応して、添削指導や口頭でのフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：面接等から、志望大学合格のための計画が正しく実行されているかどうかで判断する。 D：試験勉強などへの取り組みから判断する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	必要に応じて資料を配布する。

参考書	『大学編入・大学院これで決まり!志望理由書・面接対策』 (2018) オクムラ書店
履修上の注意	編入学を希望する学生は、本科目を履修登録すること。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F39C57	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション業界及びファッション関連業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「職種研究」をふまえて、アパレル本部にとって必要なコンセプトワーク、商品企画・MD、ブランドプロモーション、店舗運営などの視点を養い「理想のアパレルブランド」を立案することを目的とする。 (授業目標) アパレル会社のブランドビジネスに必要な知識やスキルを理解する。 ◎A：ブランド経営に対して積極的に調査を行い、自分の考えをまとめる力を身につける。 ◎E：自分の考えを状況に相応しい手法を用いて、論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状解説、グループ分けアンケート</p> <p>2 ブランド概要決定 (グループ)ワークにてオリジナルブランドの概要を決定する</p> <p>3 ブランドコンセプトについて ファッションブランドの研究を基にブランドのコンセプトワークを解説</p> <p>4 コンセプトワーク (ワーク) 仮想ブランドを構築するにあたり、コンセプトワークを作成する</p> <p>5 ターゲット設定について ブランドのペルソナ像イメージを含むターゲット設定の手法を解説する</p> <p>6 ターゲット設定 (ワーク) ターゲット設定及びターゲットイメージマップ作成</p> <p>7 店舗設定 (路面店) (ワーク) ブランドの路面店用店舗物件選択、店舗内装プラン・VMDプラン作成</p> <p>8 商品構成・商品イメージ (ワーク) ブランドが展開する商品イメージ及び商品構成 (MD)を作成</p> <p>9 広告宣伝プラン及び3か年計画 (ワーク) 路面店オープンと連動するプロモーションプランをリアルとバーチャルにて作成 及びチャンネル戦略とプロモーションプラン等ブランドの3年間のシナリオプラン作成</p> <p>10 コンセプトワークプレゼンテーション (プレゼンテーション) 外部講師に向けてグループにてプレゼンテーションをする、外部講師からのレビュー及び講演</p> <p>11 コンセプトワークブラッシュアップ 外部講師からの修正ポイントを理解し、グループワークにてコンセプトワークのブラッシュアップ</p> <p>12 起業・事業計画 (ワーク) ブランドの立ち上げに向けて起業準備と収支プラン作成</p> <p>13 MD・商品企画 1 (ワーク) ブランドの商品企画プラン作成</p> <p>14 MD・商品企画 2 (ワーク) ブランドの商品企画プラン作成 最終確認</p> <p>15 MD構成・商品計画プレゼンテーション 事業計画・商品計画の最終プレゼンテーション</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：ブランド経営に対して興味を持ちながら課題に取り組むことができる。 ◎E：自分の考えを人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく (20分) 事後学習：情報収集した内容をもとに「アパレルブランドの運営」についてまとめる (25分)。
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業のブランドリサーチを行い、ブランド運営の手法やブランドマーケティングを学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：課題の取り組みや授業の貢献度を評価する。 E：プレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%

テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館で「日経MJ新聞」や「WWD」等を読んでおくこと。
アクティブ・ラーニング	・プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F39C58	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション業界における販売職の就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、グループワーク、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「売れる販売員の条件」「売上を上げる方策」を踏まえて、店長や売場責任者にとって必要な店舗運営や販売管理などの経営的視点を養い、「理想のアパレル店舗」を立案することを目的とする。 (授業目標) ファッション小売業の店舗運営に必要な知識を理解し、自分の見解や主張を述べることができる。 ○A：店舗運営に対して積極的に調査を行い、ファシリテーターとしてグループ内の話し合いを通じて自分の考えをまとめる力を身につける。 ◎E：自分の見解や主張を状況に相応しい手法を用いて、論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	1 ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について 2 店舗運営コスト（1）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗運営」の研究 3 店舗運営コスト（2）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗運営」の研究 4 店舗運営コスト（3）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗運営」の研究 5 店舗運営コスト（4）（プレゼンテーション） 「店舗運営コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り 6 店舗出店コスト（1）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗出店」の研究 7 店舗出店コスト（2）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗出店」の研究 8 店舗出店コスト（3）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗出店」の研究 9 店舗出店コスト（4）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗出店」の研究 10 店舗出店コスト（5）（プレゼンテーション） 「店舗出店コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り 11 理想の店舗（1）（グループワーク） 「理想の店舗」に必要な条件（人、モノ、カネ、ノウハウ）の抽出 12 理想の店舗（2）（グループワーク） 「理想の店舗」の研究 13 理想の店舗（3）（グループワーク） 「理想の店舗」の研究 14 理想の店舗（4）（グループワーク） 「理想の店舗」の研究 15 理想の店舗（5）（プレゼンテーション） 「理想の店舗」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り
学習成果・到達目標・基準	○A：店舗運営に対して興味を持ちながら話し合いを進めることができる。 ◎E：自分の見解を論理的に人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業の店舗調査を行い、店舗運営の手法やマーケティング戦略を学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：主体性・チームワーク・責任感：ファシリテーター役など授業への貢献度を評価する。 E：プレゼンテーションの取り組みおよび発表を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	業態を問わず、日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ・プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
ナンバリング：F39C59			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザイン関連、ものづくり関連の業界を目指す学生を対象にしたゼミである。キャリアゼミ（ファッションデザイン）で学んだステイリズムを実際にカタチで表現し、各自オリジナル作品を製作する。作品製作を通して自身の適性を見極め、キャリア形成における明確な目標を掲げ、目標をクリアする為のフローを組み立てる。 (授業目標) ○A：主体的に自身の知識・技術を向上させ、積極的に作業を進め責任感を持って最後までやり抜くことができる。 ◎E：クリエイション技能を向上させ、立体研究によりオリジナリティを表現する力を修得できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 概要説明、アパレル業界における自分の「目標」とそれを実現する為のプロセスをプレゼンテーションする</p> <p>2 業界研究 企業訪問 ファッション素材を扱う企業を見学し業界研究を行う</p> <p>3 パタンナーとディスカッション（ゲスト講師） ファッション関係者とディスカッションし、パタンナーなどの専門職についてアパレル業界構造を学ぶ</p> <p>4 業界研究 展示会見学 アパレル、バッグ、シューズ、アクセサリ、生地・素材・副資材を扱う企業の展示会を見学し、業界研究を行う</p> <p>5 モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 立体造形の基礎を学ぶ</p> <p>6 モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 立体造形の基礎を学ぶ</p> <p>7 モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 造形実習</p> <p>8 モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 造形実習</p> <p>9 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） カットソー作品を製作し、立体研究について学ぶ</p> <p>10 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） 作品の基本構造を学ぶ</p> <p>11 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） 着用可能に修正、パターン落とし込み</p> <p>12 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） トワルチェックと付属の確認、縫製工程のチェック</p> <p>13 作品製作（実習：カットソーによる立体研究） デザイン画の修正、ポートフォリオ作成</p> <p>14 作品製作（実習：カットソーによる立体研究） プレゼン資料作成</p> <p>15 発表（プレゼンテーション）（ゲスト講師） 企業でのプレゼンテーションを想定し、製作した作品を発表する</p>
学習成果・到達目標・基準	○A：主体的な態度で作業に取り組み、作品を完成できる。 ◎E：立体作品により、オリジナリティを表現できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業時に表現できるようにファッションデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する（20分）。 事後学習：各自のスケジュールに従い、到達点に達していない場合は、次回までに作業を行う（25分）。
指導方法	学生の主体性と積極性を重視し、思考を深める。 作品完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③講評及び採点、④授業後における採点について質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：積極的に作業を行うなど授業への貢献度を評価する。 E：作品の完成度とオリジナリティを評価する。 作品40%、プレゼンテーション30%、授業への貢献度30%

テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、中村晴菜			
ナンバリング：F37C59	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングプランナー、ウエディングドレススタイリスト等のブライダル関係に就職を望む学生に対して、ゲスト講師と専任教員が連動してゼミ形式で授業を行う。専門的知識と実践力を身につけ、就職に対する意識付けを図る。就職活動と連動させた相談も行い、対応策も学修する。 (授業目標) ◎B：ウエディングの現場で求められる共感力コミュニケーション能力を身につける。 ○C：自分に適した企業を判断しウエディング業界への就職活動をする。		
授業計画	1	ウエディングゼミガイダンス シラバス説明、授業概要、就職活動について	
	2	就職活動の取り組みについて 2021年度採用の企業と周辺業界の動向を知り、求められる人材に照らし合わせながら強化すべきことを見直す	
	3	共感力コミュニケーションの必要性とその手法 就職活動、社会人になっても役に立つ共感力コミュニケーションについて学ぶ	
	4	就職活動に必要な視点を磨く3-why-wtep 今朝のwebニュースの実例を題材にした就職試験対策、3-why-stepの思考プロセスを理解する	
	5	就職活動成功共有 過去の学生の就職成功事例を紹介	
	6	3-why-stepのケーススタディ 1 環境問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)	
	7	3-why-stepのケーススタディ 2 教育問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)	
	8	3-why-stepのケーススタディ 3 物販と流通をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)	
	9	3-why-stepのケーススタディ 4 テクノロジーをテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)	
	10	企業から見た面接とは 印象の良い選考官と印象の悪い選考官、印象の良い学生と印象の悪い学生について共感力コミュニケーションの視点で考える	
	11	模擬面談と発表 1 (プレゼンテーション) 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く	
	12	模擬面談と発表 2 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く	
	13	模擬面談と発表 3 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く	
	14	模擬面談と発表 4 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く	
	15	ウエディングゼミまとめ 就職活動の把握、まとめ	
学習成果・到達目標・基準	◎B：日常生活の中でも共感力コミュニケーションを応用できる。 ○C：様々なウエディング業種の違いを判断することができる。		
事前・事後学習	ウエディング業界の情報を得ておくこと。 毎回のテーマを理解し就職活動に役立てること。 事前：各回毎のテーマについて、予習をしておくこと(20分)。 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること(25分)。		
指導方法	通常の授業と違い、学生の主体性と積極性を重視する。テーマ毎の課題提出をする。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	B：グループワークでの自己提案力と貢献度 C：ウェディング業界の企業考察 課題60%、授業への貢献度40%
テキスト	共感力の鍛え方 コスモ21総合出版（1年時に購入済み） プリント配布（組織に必要な8つの適性シート、3-why-stepシート）
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子、井上近子（契約講師：西村リサ）			
ナンバリング：F37C60			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容業界への就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、美容業界で働く心構えを学ぶ。美容業界で活躍する方をゲスト講師として迎え講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で授業を行う。美容を仕事にする場合、相手の身体に触れるため、対人マナーをふまえて相手のめざすイメージや好みなどの気持ちと向き合うコミュニケーション力を養うことも重視する。 (授業目標) ◎D：美容業界のマーケティング手法を理解する。 ○E：自分の考えや思いを的確にプレゼンテーションできる。
授業計画	<p>1 ガイダンス（新井） 本ゼミナールの概要、授業の進め方</p> <p>2 業界研究（1）（ゲスト講師） 研究対象企業の分析について</p> <p>3 業界研究（2）（ゲスト講師） 美容業界の現状について</p> <p>4 企業研究（1）（ゲスト講師） 化粧品業界の現状について（1）</p> <p>5 企業研究（2）（ゲスト講師） 化粧品業界の企業の分析について（1）</p> <p>6 企業研究（3）（ゲスト講師） 化粧品業界の現状について（2）</p> <p>7 企業研究（4）（ゲスト講師） 化粧品業界の企業の分析について（2）</p> <p>8 企業研究（5）（ゲスト講師） 企業のマーケティング分析方法について</p> <p>9 印象分析理論（1）（実習） 人の印象とは</p> <p>10 印象分析理論（2）（実習） 印象を構成する要素、デザインを決める「色、形、質感」について</p> <p>11 メイクアップ理論（1）（実習） アイブロウ、アイメイクによる印象表現「形」</p> <p>12 メイクアップ理論（2）（実習） ベースメイク、リップ、チークによる印象表現「色、質感」</p> <p>13 セルフプロデュース（1）（プレゼンテーション） メイクアップによるセルフプロデュース（1）</p> <p>14 セルフプロデュース（2）（プレゼンテーション） メイクアップによるセルフプロデュース（2）</p> <p>15 セルフプロデュース（3）（プレゼンテーション） メイクアップによるセルフプロデュース（3）</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：美容業界のマーケティング手法を説明できる。 ○E：自分の考えを人前でプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：美容業界のニュースをチェックする（20分）。 事後学習：学修した内容をもとに、美容雑誌、店舗調査、インターネット等から情報収集を行い、理想の美容部員について考える（25分）。
指導方法	各自の就職活動ノートに毎週活動の進捗状況を確認できるよう指導する。 パワーポイント等を使用する。 フィードバックの仕方：課題については、授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題を評価する。 ○E：プレゼンテーションを評価する。 課題60%、プレゼンテーション20%、授業態度・授業への貢献度20%
テキスト	なし

参考書	なし
履修上の注意	受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F39C62	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ライフスタイル業界、雑貨、日用品などの企業において企画・販売などの就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、ライフスタイル業界を学ぶだけでなく企画、提案などを習得する。グループワーク、プレゼンテーション形式などを取り入れ、就職活動がスムーズにできるようにする。 (授業目標) 自身のキャリアビジョンを立てることができる。 ◎A：主体的に業界研究・企業研究を行い、グループワークを通して、責任感を身につける。 ○E：多様な業種に共通するカラーによる企画提案など表現力を身につける。
授業計画	1 ライフスタイル業界の現状・採用状況 本講座の概要の説明をする。 インテリア・雑貨・カフェ・花屋・ライフスタイルショップなど業種名、企業名を出し合う。 採用状況を各社のホームページから会社概要、採用情報を調べ、自身でアプローチする方法を知る。 インターンシップの申込方法などを知る。 2 ライフスタイル業界の市場調査（1） ライフスタイル業界のなかで興味ある業種について、実際に各自でフィールドワークを行う準備をする。 3 ライフスタイル業界の市場調査（2） 市場調査の報告プレゼンテーション。 メンバーのプレゼンテーションを聴いて視野を広げる。 4 価値観から適職を分析し、自己紹介文を作成する 幅広いライフスタイル業界において、自分の価値観をカードを使いながら楽しく分析し、具体的な適職を探す方法を知る。 ペアで長所を出し合いながら自分の長所を改めて確認する。自分の長所を書き出し、それぞれに長所をエピソード体験を含めて書く方法を知る。 5 履歴書の書き方を学ぶ ライフスタイル業界に就職するための履歴書の書き方を学ぶ。 参考例とともに限られたスペースにおいて短い文章で印象に残る履歴書の作成方法を知る。 6 エントリーシートの書き方 WEBによるエントリーシートの書き方を学ぶ。さらに採用担当者宛の適切なメールの書き方などを学ぶ。 7 面接方法と面接の練習 作成した自己紹介文を元に面接で質問されること、志望理由、職種の内容の把握など想定される面接用の質問と回答例をまとめる。 面接の練習をすることで本番で緊張せずに、実力を発揮できるようにする。 8 面接、zoom面接のためのマナー 就職活動中において、面接時の回答が良くても立ち居振る舞いが悪いと印象が悪くなる。 立ち居振る舞いやビジネス用、面接スーツの着こなしや印象の良くなる事例を学ぶ。 ZOOMなどオンラインでの企業の説明会や面接の場合の注意点、回答例など印象を良く見せる方法を学ぶ。 9 カラーによる企画提案の準備 興味ある業種・企業に向けたカラーによる企画提案書（PowerPoint）を作成し始める。 10 アーティフィシャルフラワーによる作品を作る（1） アーティフィシャルフラワーを使ったブーケ・リースなどのデザインを考える。 材料を選び準備する。 11 アーティフィシャルフラワーによる作品を作る（2） 制作を行う。 12 アーティフィシャルフラワーによる作品を作る（3） 制作を行う。 13 アーティフィシャルフラワーによる作品を作る（4） 制作を行う。 14 アーティフィシャルフラワーによる作品を作る（5） 作品を完成させ、撮影しする。 企画提案書を完成させる。 15 プレゼンテーション 企業に向けたプレゼンテーションを想定し、企画提案書（PowerPoint）と作品を発表する。

学習成果・到達目標・基準	◎A：ライフスタイル業界の現状に対して、協調性を持って話し合いをすすめることができる。 ○E：就職したい企業に企画提案ができるようになる
事前・事後学習	事前学習：本学図書館で就職活動関連の本や雑誌、興味のある企業のHPを検索し採用情報を調べておく。(20分)。 事後学習：毎回到授業で学んだことを更に深める為、ビジネス雑誌、新聞、また関連企業の広告が出ているライフスタイル雑誌を読んでおく。(25分)。
指導方法	前半は就職活動指導を中心に、後半はカラーコーディネートのワークショップ形式で授業をすすめる。プレゼンテーションを取り入れ、様々な職種にもふれ、役割や仕事内容なども解説する。実践的に就職活動のサポートになるように指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：課題のオリジナリティを評価する。 E：プレゼンテーションを評価する。 課題60%、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	カラーによる企画提案に使用するため、「新配色カード199a」(1年次に購入したもの)を各自持参する。日ごろから、興味ある業種のショップをできるだけ多く実際に見ておく。ショップのコンセプト、ターゲット、商品構成、価格帯など特徴を比較観察すると、自然に業界知識が身につく。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーションなど

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村公子、村木桂子			
ナンバリング：F37C61			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	学生自ら志望する大学合格に向けて綿密なスケジュールを策定し、計画的な学習を行う。 各自のスケジュールに合わせた個別指導を受ける。 (授業目標) ◎C：自らの将来を正しく選択するための思考力や判断力を身につける。 ○D：短期大学での学びを基に、編入先の大学で通用する幅広い知識を得る。
授業計画	<p>1 オリエンテーション・進学準備カウンセリング 受験先決定に向けたカウンセリング 編入に向けて本格的な準備を始める</p> <p>2 学習計画書の作成(1)、情報収集・試験対策(1) 編入学試験までの学習スケジュール管理について学習する 自ら行うこと、支援を必要とする項目を整理する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>3 学習計画書の作成(2)、情報収集・試験対策(2) 第1志望校合格に向けて、各自の学習スケジュールを作成する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>4 志望理由書の書き方(1)、情報収集・試験対策(3) 編入学のポイントとなる志望理由書の書き方について学習する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>5 志望理由書の書き方(2) 情報収集・試験対策(4) 編入学のポイントとなる志望理由書の書き方を実践練習する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>6 面接対策(1)、情報収集・試験対策(5) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>7 面接対策(2)、情報収集・試験対策(6) 面接での受け答えについて実践練習する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>8 状況確認及び進学カウンセリング、情報収集・試験対策(7) 現在の対策状況を確認し、必要があれば対策を練り直す 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>9 情報収集・試験対策(8) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>10 情報収集・試験対策(9) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>11 情報収集・試験対策(10) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>12 情報収集・試験対策(11) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>13 情報収集・試験対策(12) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>14 情報収集・試験対策(13) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>15 対策状況最終確認及び進学カウンセリング、今後のスケジュール確認 前期の対策をふりかえり、編入学に向けて今後の方針を確認する</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：志望大学に関する情報を収集し、必要な対策を講じることで合格を目指す。 ○D：受験に必要な知識や表現力を身につける。
事前・事後学習	事前学習：志望大学の編入学試験の傾向を調べ対策を行う(30分)。 事後学習：志望大学の編入学試験対策の復習を行う(30分)。
指導方法	志望大学の試験課題に応じ、必要な学科対策・論述及び面接指導を行う。 フィードバックの仕方：各課題に対応じて、添削指導や口頭でのフィードバックを行う。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：面接等から、志望大学合格のための計画が正しく実行されているかどうかで判断する。 D：試験勉強などへの取り組みから判断する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	『大学編入・大学院これで決まり!志望理由書・面接対策』（2018）オクムラ書店
履修上の注意	自主的に志望大学の情報収集等を行うこと。 オープンキャンパス等に積極的に参加し、報告すること。
アクティブ・ラー ニング	特になし